

明治四十一年

一五八

九月

十六日 從來現金前渡官吏並ニ出張中供用物品取扱主任ニ對シ辭令ヲ交付セシモ本日以後ハ命令簿ヲ以テ之ニ代フルコトト定ム

十一月

二十六日 中尾部長經度測量調査委員長ニ任命セラル

科、課長更迭

二十日 海軍大佐藤田定市圖誌科長ニ補セラレ上野中佐ノ同科長兼務ヲ免ゼラル

同日福田會計課長旅順海軍經理部々員ニ轉ジ主計少監中野重春會計課長ニ補セラル

水路官ノ海上勤務

二十八日 田中水路大技士研究ノ爲第一艦隊附仰付ケラレ軍艦三笠ニ乘艦、後香取ニ轉乘實務練習ヲ終リ四十二年三月復歸ス

十二月

十二日 圖誌科ニ於ケル圖誌類ノ編纂及校閲ニ關スル規定ヲ設ケ各掛ノ職責ヲ明ニスルト共ニ各掛間ノ連絡協調ヲ期セリ

二十二日 當部刊行ニ係ル第一原備海圖ニハ其ノ周邊適宜ノ位置ニ緯度一分ノ尺度ヲ記載スルコトニ定ム但シ緯度一分ノ尺度十分ノ一時ニ充タザルトキハ緯度一度ノ尺度ヲ記載スルモノトス

事業概況

本年測量事業ハ六方面ニ分チテ之ヲ施行セリ即チ第一方面ハ樺太西岸西能登呂岬ヨリ多蘭泊ニ至ル沿岸及海驢島附近、第二方面ハ同西岸多蘭泊ヨリ久春内ニ至ル沿岸ニシテ此等方面ノ沖合鍾測ハ軍艦比叡之ヲ擔

原備海圖ニ緯度ノ尺度記載

測量

事業概況

任セリ、第三方面ハ軍艦大和ノ奄美大島海峽附近ノ改測、第四方面ハ軍艦松江ノ韓國東岸瀧湫岬ヨリ水源端ニ至ル沿岸及蔚陵島、第五方面ハ軍艦葛城ノ韓國東岸水源端ヨリ馬養島ニ至ル沿岸、第六方面ハ關東丸ノ臺灣東岸鷺鑾鼻ヨリ卑南溪ニ至ル沿岸及馬公港ノ測量ニシテ其ノ他臨時作業トシテ四日市及津港ノ改測、鎮海灣口ノ精測及廣島灣ノ改測ヲ施行セリ而シテ軍艦金剛ハ北海道方面警備ノ傍千島列島ノ一部ヲ鍾測セリ

測量綜合成績ハ測得海陸面積合計一三、〇〇二平方哩、同海面積八、七四一平方哩、同海岸線九八八哩、鍾測數九九、九六一ナリ

圖誌

圖誌編纂事業ニ在リテハ從來呂宋西岸ハ支那海水路誌第六卷下ト同第七卷上トニ並記シ「パラワン」島及「カラミアン」群島ハ支那海水路誌第六卷下ニ記スルノ例ナリシガ斯クテハ不便少カラザルヲ以テ本年ヨリ此ノ例ヲ改メ呂宋西岸ハ專ラ同第七卷下ニ記述シ「パラワン」島及「カラミアン」群島ハ支那海水路誌第六卷上ニ移シ第六卷下ハ單ニ馬來半島ノ東岸、暹羅、安南及廣西地方ヲ記載スルコトトセリ、然ルニ本年之ヲ支那海水路誌第六卷上ニハ「パラワン」島及「カラミアン」群島ニ關スル記事ナキヲ以テ第一、支那海水路誌第五卷下 第一、同第七卷上 第一、水路報道第九十五號及燈臺表、航海年表ナリ改訂、彫刻事業ニ在リテハ昨年來彫刻手一般ニ對シ直鑿法ヲ傳授シ來リシガ本年六月ニ至リ大略其ノ方法ヲ會得セシヲ以テ一部ノ彫刻手ヲ選抜シテ之ヲ專門者トシ直鑿法ノ實務ニ服セシム而シテ當分ハ從來ノ腐蝕法ト直鑿法トヲ並ビ行フコトトシ後年ニ至リ漸次完ク英式直鑿法ニ變更スルノ方針ヲ採レリ

明治四十一年

一五九

本年度海圖出版數ハ新刊二十八版、改版二十五版、大改正七十版合計百二十三版ニシテ圖誌ノ受拂部數ハ海圖受入七萬八千四百八十一枚書誌受入八千二百七十部又拂下部數ハ海圖三萬五千七百七十枚書誌三千六百九十五部ナリ

測器事業ニ在リテハ之ガ改良進歩ト内地製品ノ進出ニハ年來意ヲ用フルト共ニ最新式測器ヲ購入シテ其ノ進歩ニ後レザランコトヲ努メ又内地製測器ニシテ見込アルモノハ之ヲ艦隊ニ託シテ實驗ヲナセリ而シテ本年試驗ノ爲購入セシ新式測器ハ瑞西國「ナルダン」社製經線儀、英國「ヒース」社製修整式羅針儀、同社製方位鏡、「ケルビン、ゼームス、ホワイト」社製偏針儀ニシテ内地製測器ノ改良ニ力ヲ盡シツツアルハ羅針儀及眼鏡類ナリ

四十一年三月三十一日調現在員ハ高等官二十九名、判任官三十九名、雇員備人百二十二名、合計百九十名外ニ臨時備人三十七名總計二百二十七人ナリ

本年度歲出支額總計三二七、二四三圓ニシテ内三〇〇、九一九圓ハ經常部ニ屬シ二六、三二四圓ハ臨時部ニ屬ス而シテ臨時部支出中一二、六〇〇圓ハ拂下圖誌製造費ナリ

明治四十二年

一月

十一日 陸地測量師高橋文亮ヲ當部囑託トシテ角度測量及調整ニ關シ測量員ノ教育ニ當ラシム

測器

人員

經費

陸地測量師
囑託

科長卒去

科長任命

博覽會出品

氣象調查掛
ノ設置

測量船夫ヲ
官役人夫ト
ス

科長更迭

陸地測量作
業ノ實習

二十日 測量科長上野中佐大佐ニ進級同日病ヲ以テ卒去ス

二十五日 圖誌科長藤田大佐測量科長ニ兼補セラレ

本年六月ヨリ北米合衆國「シヤトル」市ニ於テ太平洋博覽會開催セラルルニ付當部ヨリ海圖十二葉ヲ出品スルコトトナリ之ヲ送付ス

二月

十五日 氣象調查ニ關スル内規ヲ定メ氣象調查掛ヲシテ一、海上氣象(暴風雨、氣壓、氣溫、雨霧)ニ關スルコト二、海流、潮汐、流水、海水溫度、海水比重ニ關スルコト三、磁氣ニ關スルコトノ調査ヲ行ハシム而シテ右調査ノ目的ハ一、日本近海水先案内圖ノ調製二、日本近海海流圖ノ調製三、日本近海潮汐圖及潮汐表ノ調製四、瀬戸内海ノ「カーレント、ダイヤグラム」ノ調製ニ在リテ測量科員田中中佐ヲ主任トシ測量科内ニ該掛ヲ置ク、之現氣象掛ノ基礎ヲナスモノナリ

十九日 本年各測量班ニ使役スル船夫ハ出張先ニ於テノ身分ヲ官役人夫ト定ム、之本年樺太樺捉方面等僻遠ノ地ニ使役スル船夫ノ身分ヲ保證センガ爲ニシテ之ヲ一般ニ及ボセシモノナリ

二十日 米原測器科長舞鶴水雷團副長ニ轉ジ海軍大佐小栗孝三郎測器科長ニ補セラレ

三月

十日 水第二〇二號ヲ以テ水路測器供給表ヲ改正ス

曩ニ當部囑託トシテ招聘セシ陸地測量師高橋文亮ハ海軍技師ニ任ゼラル、同技師ヲシテ三角測量ヲ主宰セシメ又陸地測量部ニ於ケル作業練習ノ爲測量科技手、技生各一名ヲ同部修技所生徒實習地ニ出張セシムル

等陸地測量術ノ適用ヲ企圖ス

四 月

二十一日 本年一月達第十二號ヲ以テ英佛度量衡ノ名稱中其ノ略字ヲ定メラレタルヲ以テ當部刊行ノ圖誌類ニモ右略字ヲ使用ノコトニ定ム(略字省略)

五 月

「註」 右略字ハ昭和二年九月達第四百四號ヲ以テ現行ノ如ク改正セラル

六 月

二十二日 海軍大佐山澄太郎三測量科長ニ補セラレ藤田科長ノ兼職ヲ免ゼラル

七 月

三日 淨寫原稿圖ハ從來測量科ノ保管ニ屬セシモ自今圖誌科ニ於テ之ヲ保管整理ニ任ズルコトニ定ム、斯クシテ測量員ノ調製スル所ノ測量完成圖タル淨寫原稿圖ハ圖誌科ニ於テ管理シ以テ製圖資料ノ統一ヲ圖ルコトナレリ

八 月

四日 測量原稿類ノ内明治三十年以前ノ測量ニ係ルモノハ左ノ帳簿及圖ヲ整理保存シ他ハ適宜處分ス(但シ明治三十一年以後ノ分ハ現狀ノ儘保存ス)、之舊測ニ屬シ參考資料トシテ保存ノ價値ナキモノヲ處分シタルニ過ギズ

- 一、原點推算簿
- 二、測角簿
- 三、經緯度推算簿
- 四、經度電測及緯度測量推算書類
- 五、原點圖

- 六、潮流圖
- 七、三角連絡圖

八 月

測量科服務
內規及測量
員出張心得

蘆野教授及
中野技師ノ
歐米出張

十七日 測量科服務內規及測量員出張心得ヲ定ム

本月水路部御用取扱蘆野海軍教授星曆編纂事業取調ノ爲歐米各國出張ヲ命ゼラル又測量科科員中野海軍技師ハ萬國地學協會委員會列席ノ目的ヲ以テ歐洲出張ヲ命ゼラル

九 月

二十日 藤城水路大技士海軍大學校選科學生ヲ免ゼラレ復歸ス

十 月

二十五日 小栗測器科長待命仰付ケラレ海軍中佐金子滿喜同科長ニ補セララル

十二 月

一日 新井水路大技士潮流ニ關スル學術研究ノ爲海軍大學校選科學生被仰付、同日飯塚水路中技士實地研究ノ爲軍艦八雲乗組被仰付

明年五月ヨリ英京倫敦ニ於テ開催セラルベキ日英博覽會ヘ當部刊行海圖十五葉、額面二面及軸物三幅ヲ出品ス

事業概況

本年測量方面ハ第一樺太西岸幌岸灣以北安別ニ至ル沿岸、第二同西岸久春内ヨリ幌岸灣ニ至ル沿岸、第三同東岸中知床岬ヨリ富内ニ至ル沿岸、第四擇捉島北東部「イカバノツ」岬ヨリ背卸岬ニ至ル沿岸、第五奄美大島北東部大和濱宮古崎ヨリ笠利崎ヲ經テ伊須灣ノ東角真崎ニ至ル海岸及喜界島、「サンドン」岩ヲ包括セル沿岸、第六臺灣東岸卑南溪ヨリ火燒島ヲ含ム島石鼻ニ至ル沿岸ノ六方面ニシテ測量艦ハ松江(第一及

事業概況
測量

博覽會出品

水路官ノ入
校及乗艦

科長更迭

測量科服務
內規及測量
員出張心得

十七日 測量科服務內規及測量員出張心得ヲ定ム

本月水路部御用取扱蘆野海軍教授星曆編纂事業取調ノ爲歐米各國出張ヲ命ゼラル又測量科科員中野海軍技師ハ萬國地學協會委員會列席ノ目的ヲ以テ歐洲出張ヲ命ゼラル

九 月

二十日 藤城水路大技士海軍大學校選科學生ヲ免ゼラレ復歸ス

十 月

二十五日 小栗測器科長待命仰付ケラレ海軍中佐金子滿喜同科長ニ補セララル

十二 月

一日 新井水路大技士潮流ニ關スル學術研究ノ爲海軍大學校選科學生被仰付、同日飯塚水路中技士實地研究ノ爲軍艦八雲乗組被仰付

明年五月ヨリ英京倫敦ニ於テ開催セラルベキ日英博覽會ヘ當部刊行海圖十五葉、額面二面及軸物三幅ヲ出品ス

事業概況

本年測量方面ハ第一樺太西岸幌岸灣以北安別ニ至ル沿岸、第二同西岸久春内ヨリ幌岸灣ニ至ル沿岸、第三同東岸中知床岬ヨリ富内ニ至ル沿岸、第四擇捉島北東部「イカバノツ」岬ヨリ背卸岬ニ至ル沿岸、第五奄美大島北東部大和濱宮古崎ヨリ笠利崎ヲ經テ伊須灣ノ東角真崎ニ至ル海岸及喜界島、「サンドン」岩ヲ包括セル沿岸、第六臺灣東岸卑南溪ヨリ火燒島ヲ含ム島石鼻ニ至ル沿岸ノ六方面ニシテ測量艦ハ松江(第一及

明治四十二年

一六四

第二方面)大和(第三方面)武藏(第四方面)葛城(第五方面)關東丸(第六方面)ノ五隻之ニ從事シ各方面トモ豫定ノ作業ヲ完了セリ又臨時測量方面ハ小濱港、下ノ關海峽東西兩口、若松港口ノ三方面ニシテ此等各地ニ改測ヲ施セリ

測量綜合成績ハ測得陸面積二、九四九平方哩、同海面積七、七二〇平方哩、同海岸線七四五哩、錘測數六〇、八四八ナリ

圖誌

本年刊行ニ係ル書誌ハ水路誌ニ在リテハ日本水路誌第二卷上第一、支那水路誌第七卷下第二ノ二種ニシテ一般書誌ニ在リテハ水路報道第九十六號、明治四十一年練習艦隊錫蘭航海報告、水路測量書(英國水路少將 Whartonノ著)及燈臺表、航海年表等ナリ

海圖刊行數ハ新刊十五版改版十八版大改正五十三版合計八十六版ナリ

本年度圖誌受拂部數ハ海圖受入六萬六千二百二十四枚書誌受入八千四十冊、拂下部數ハ海圖三萬七千四百五十八枚書誌三千三百十五冊ナリ

測器

測器事業ニ在リテハ内地製羅針儀ノ品質ハ漸次改良サレ本年ハ流動物入羅針儀ノ牌ト盆ノ内側トノ間隔ノ調節及羅針軸帽用寶石ニ改良ヲ施セリ、其ノ他電氣裝置測程儀ノ艦船備附ハ其ノ過半數ヲ終リ又獨國「カールザイス」社製稜鏡雙眼鏡ヲ艦砲射擊用トシテ購入スル等新式測器ノ裝備ニ後レザランコトヲ期セリ

人員

四十二年三月三十一日調現在員ハ高等官三十名、判任官四十名、雇員備人百三十二名、合計二百二名他ニ臨時備人四十一名、總計二百四十三名ナリ

經費

本年度歲出支出額總計三三五、〇二〇圓ニシテ内三〇四、一五七圓ハ經常部ニ屬シ三〇、八六三圓ハ臨時部

ニ屬ス、臨時部支出額中拂下圖誌製造費ハ一一、四〇〇圓ナリ

明治四十三年

一月

下ノ關海峽ノ補測ニ關シテハ曩ニ明治三十六年訓令セララル所アリ(明治三十六年測量ノ記事參照)、當部ニ於テハ明治三十七年及同三十九年同海峽東口中洲附近及西口大瀨戸高瀨附近ノ水深ヲ、同四十二年東口中ノ洲嶮ノ辻及西口大會根鹿寄洲附近ノ水深ヲ測定シ新舊兩年測ニ於ケル水深ノ變化ヲ見ルニ或部分ハ深クナリ或部分ハ淺クナリタル所アルモ只一淺洲上ニ於ケル小部分ノ移動ニ過ギズシテ新ニ淺洲ヲ生ズルカ若ハ擴張シタルコト等ノコトナク從ツテ同海峽兩口ノ水深ハ時々多少ノ變化アルニ相違ナキモ漸次水深ヲ減少スルコトハナキモノト認メ今後毎年ノ測量ハ中止致度旨上申ス、然ルニ二月官房第三一七號ヲ以テ明治三十六年海總第一一六號下ノ關海峽補測ノ件ハ當分ノ間中ノ洲沙堆並ニ其ノ附近ニ留メ其ノ他ハ中止スル義ト心得可キ旨達セララル

二月

二十五日 昨年歐洲出張ヲ命ゼラレタル測量科科員中野技師ハ任務ヲ終リ歸朝ス

三月

十六日 中野會計課長海軍經理學校甲種學生仰付ケラレ主計少監三段崎景之同課長ニ補セララル

中野技師歸朝
課長更迭

明治四十三年

一六五

明治四十三年

一六六

定員減少

三十日 水路部定員表中ヲ改正セラレ同表測量科員ノ下技師四人ヲ三人ニ、判任官ニ於テ編修書記四人ヲ三人ニ、技手三十人ヲ二十九人ニ、計ノ部高等文官七人ヲ六人ニ、判任文官四十二人ヲ四十人ニ改メラル、之各廳行政整理ノ結果ニ因ル

六月

匈牙利國萬國航海會議常設委員會へ薄紙摺海圖五葉ヲ寄贈ス

七月

二日 東京帝國大學理科學助手小倉伸吉ヲ當部囑託トシテ潮流測量竝ニ磁氣觀測ニ關スル調査ヲ行ハシム

十一日 達第九十八號ヲ以テ當部ノ醫務衛生事務ハ海軍造兵廠軍醫長ヲシテ之ヲ處理セシムルコトニ定メラル

同日達第百一號ヲ以テ水路測量ノ爲臺灣、樺太、韓國及清國各沿岸へ出張スル者ニ支給スル旅費日當宿泊料及食卓料ヲ改定セララル

八月

編曆事業調査ノ爲歐米出張中ノ當部御用取扱蘆野海軍教授歸朝ス

九月

十六日 達第百二十六號ヲ以テ水路測量ノ爲内地沿岸へ出張スル者ニ支給スル旅費日當宿泊料及食卓料ヲ改正セララル

海圖寄贈
潮流及磁氣
調査ノ囑託

醫務衛生事
務ノ處理

臺灣樺太等
ノ旅費規則
改正

蘆野御用取
扱ノ歸朝

内地測量旅
費ノ改正

十月

三十一日 清國考察海軍大臣載洵殿下隨員薩鎮冰以下ヲ隨へ當部ヲ參觀ス、當部ハ特ニ認許ヲ得テ水路誌十二部ヲ贈呈ス

十二月

一日 當部定員表中ヲ改正シ部長少將大佐ヲ中少將ト改メララル

中尾部長同日附海軍中將ニ任ゼラル

同日山澄測量科長、藤田圖誌科長ハ共ニ待命仰付ケラレ海軍大佐井内金太郎測量科長ニ、海軍中佐大野

仁助圖誌科長ニ補セララル

築地海軍用地内ニ新築中ノ當部廳舎竣工(但シ寫真室ハ未完)セシニ付本月十五、十六ノ兩日ヲ以テ之ニ移轉ス

「註」芝公園内水路部廳舎ハ明治二十七年九月舊軍醫學校跡ヲ流用シタルモノニシテ當部各種ノ作業ニ不便且能率ノ擧ラザルコト論ヲ俟タズ爾來事業ノ擴張ニ伴ヒ増改築ヲ行ヒ作業ヲ繼續シ來リタルモ固ヨリ一時ヲ糊塗セシニ過ギズ、一日モ速ニ本建築ノ運ビニ至ランコト當部多年ノ希望ナリシガ各種ノ事情ハ容易ニ之ガ實現ヲ見ザリシ所漸ク明治四十一年度ニ於テ當部改築費トシテ豫算額金二十八萬九千四百五圓(四十一、四十二年度繼續費)ヲ以テ工事施行ノコトニ定マリ即チ同年度ヨリ築地海軍用地内ニ於テ敷地面積七千四百六十五坪ヲトシテ工事ニ着手シ茲ニ竣工ヲ見ルニ至リシナリ

二十八日 圖誌科ニ編曆掛ヲ置キ將校科員ヲ之ニ配シ蘆野水路部御用取扱ト共ニ編曆事業ノ改善ニ當ラシ

明治四十三年

一六七

載洵殿下當
部參觀

部長定員ヲ
中少將ニ改
正

科長更迭

築地新築廳
舎ニ移轉

編曆掛ノ設
置

明治四十三年

一六八

當部編曆事業ハ明治三十九年二月航海曆編纂方取調委員ノ設置ヲ以テ萌芽シ茲ニ該掛ヲ置クニ及ンデ漸ク事業發展ノ緒ニ就ケリ(明治三十九年二月ノ記事参照)

事業概況

測量

本年測量事業ハ第一樺太東岸富内ヨリ以北小田寒川ニ至ル沿岸、第二同東岸樺保ヨリ以北多來加河口ニ至ル沿岸、第三擇捉東岸南西端「ベルタルベ」岬ヨリ單冠灣口禮文尻岬ニ至ル沿岸、第四天草列島及八代海、第五鎮海灣及加徳水道、第六土噶喇群島北方上ノ瀨ヨリ南方寶島ニ至ル沿岸ノ六方面ニシテ此ノ中樺太班ニハ三角測量班及經緯度測量班ヲ附セリ又測量艦ハ大和、松江、武藏及葛城ノ四艦ニシテ大和松江ハ樺太方面、武藏ハ千島方面、葛城ハ土噶喇群島方面ノ測量ニ從事セリ、臨時測量ハ下ノ關海峽東部中ノ洲附近ノ精測及大湊艦船速力標距離測定ノ二作業ナリ

測量綜合成績ハ測得陸面積三、二九九平方哩、同海面積六、四一七平方哩、同海岸線一、四〇四哩、錘測數一三四、三〇八ナリ

圖書

圖誌編纂事業ニ在リテ新刊書誌ハ日本水路誌第三卷^{第二}、支那海水路誌第六卷下^{第一}、水路特報第四十三號、^{明治四十二年}練習艦隊阿蘇、宗谷北米西岸航海報告、極東颶風論、水路測量用諸表、水路圖誌改補心得^三、東洋燈臺表及航海年表等ニシテ海圖ハ新刊十一版改版十七版大改正三十三版合計六十一版ヲ刊行セリ、圖誌受拂部數ハ海圖受入六萬七千六百七十七枚書誌同七千六百二十五冊ニシテ拂下部數ハ海圖四萬三千七百八十七枚書誌二千三百五十七冊ナリ

測器

測器事業ニ在リテハ本年初メテ稜鏡双眼鏡及一週間巻掛時計ノ内地製品ヲ試用シタル處相當ノ好評ヲ得又當部ニ於テ流動物入羅針儀ヲ創製シ之ヲ軍艦ニ取附ケ實驗シタルニ好成績ヲ得タリ此ノ外本年度ニ於テ新規採用又ハ改良ヲ加ヘシ測器ノ主ナルモノハ英國「ヂエームス、ホワイト」社製「チエトウキンド」原基用竝ニ操舵用流動物入羅針儀及司令塔用反映式羅針儀、傾針儀、測深儀硝子管、望樓用水銀晴雨計(「ステーション」型ヲ廢シ「フォーチン」型ヲ採用)等ナリ

人員

四十三年三月三十一日調現在員ハ高等官二十八名、判任官三十八名、雇員傭人百三十八名、合計二百四名他ニ臨時傭人三十六名、總計二百四十名ナリ

經費

本年度歳出支出額總計三四五、六六七圓ニシテ内三二六、八〇八圓ハ經常部ニ屬シ一八、八五九圓ハ臨時部ニ屬ス、臨時部支出額中一二、七〇八圓ハ拂下圖誌製造費ナリ

明治四十四年

三 月

築地新築建物中未完成ナリシ寫眞室竣工シ同掛ハ二十五日之ニ移轉ス

四 月

白耳義國「ルーヴェン」大學附屬製圖陳列場へ薄紙摺海圖七葉ヲ寄贈ス

五 月

明治四十四年

一六九

白耳義國大學
贈へ海圖寄

寫眞室竣工

無線電信經
度測量ノ嚆
矢

南方諸島測量ニ於テ無線電信利用ニ依ル經度測定ヲ計畫シ本月之ヲ父島硫黃島間ニ施行シ好成绩ヲ擧ゲ得
タリ、蓋シ之無線電信應用經度測量ノ嚆矢ニシテ曩ニ明治四十一年一月組織セラレタル同調査委員會ノ調
査セル結果ニ基ケルモノナリ

東宮殿下行
啓

六 月 二日 皇太子殿下當部へ行啓遊バサレ中尾部長御先導作業ノ一般ヲ御巡覽アラセラル

海圖寄贈

七 月 東北帝國大學へ海圖若干枚及朝鮮總督府航路標識管理所へ朝鮮沿岸普通海圖一揃ヲ寄贈ス

郵船會社上
海支店ニ海
圖販賣許可

八 月 揚子江航行ノ汽船ハ從來主トシテ英版海圖ヲ使用シ來リシモ近年當部刊行ニ係ル海圖ノ價值ヲ認メ之ガ使
用ヲ希望スル者漸ク加ハリ上海總領事ノ意見具申ノコトアルニ至リシヲ以テ當部ハ茲ニ日本郵船株式會社
上海支店ニ海圖販賣ヲ許可セリ

課長更迭

九 月 「註」 郵船會社上海支店ニ於テ取扱フ海圖ノ價格ハ英版海圖ノ價ト諸入費トヲ考慮ニ入レ定價ノ倍額ヲ
以テ適當ト認メ上申ノ上認許ヲ得此ノ價格ヲ以テ販賣セシムルコトトセリ

田中館博士
ノ囑託

二日 三段崎會計課長經理局局長ニ轉ジ經理學校主計長大主計高木道當部會計課長ニ兼補セララル

二十六日 官房第三二二八號ノ二ヲ以テ水路圖誌供給表中備考第十三削除ノ件認許アリ

磁氣學講習

「註」 本件ハ從來艦船ニ供給セシ薄紙摺海圖ノ規程ヲ削除方上申セシニ對スル認許ナリ

十 月

東京帝國大學理科大學教授理學博士田中館愛橘ヲ當部囑託トシテ磁氣調査ニ關スル事項ヲ依囑ス、之明年
施行豫定ノ全國磁氣測量準備ノ爲ナリ

十一 月

磁氣測量ノ準備教育トシテ水路大技士全員及技手八名ヲ選抜シテ海軍大學校教官渡邊襄ニ就テ磁氣學ヲ攻
究セシム

十二 月

部長課長更
迭
第二區第三
區ノ和文告
示廢止

一日 部長中尾中將待命仰付ケラレ海軍少將伊藤乙次郎水路部長ニ補セララル

同日海軍大主計木下國明會計課長ニ補セラレ高木大學校主計長ノ兼職ヲ免ゼラル

二十日 從來第二區第三區ノ水路告示ハ和文ヲ以テ告示シ來リタル處自今英水路部告示ヲ其ノ儘使用シ別
ニ發布セザルコトニ定ム、第二區第三區ノ水路告示ハ明治三十六年ノ頃事務多端ノ故ヲ以テ一時民間ニ

受負ハシメテ翻譯發行ヲ繼續シ來リシガ茲ニ翻譯ヲ止メ和文告示ハ本月告第四一六二號(第二區)、同第

七二一五號(第三區)ヲ以テ終刊トス

二十一日 水路圖誌供給表ヨリ實地應用簡便航海術ヲ削除シ之ヲ教育圖書トシテ海軍教育本部ノ主管ニ移
ス

事業概況

測量

事業概況

本年測量ハ第一方面小笠原列島及火山列島、第二方面四國西岸、第三方面朝鮮漢江附近、第四方面樺太東

岸(小田寒樺保間)、第五方面樺太東岸(多來加河口船越岬間)、第六方面樺東岸及室蘭港、第七方面土噶喇群島及男女群島、第八方面宮津灣近海ノ各作業ノ外經緯度班ハ根室測候所敷地内ニ於テ經緯度測量ヲ行ヒ、臨時出測班ハ鎮海灣ニ於ケル目標距離測定其ノ他朝鮮南岸暗礁探測ニ從事シ又長濱沖及淡路東岸ノ艦船速力試驗標柱間ノ距離測定ヲ行ヘリ而シテ訓令作業タル下ノ關海峽ノ水深測量ハ第二方面ノ一部ヲ以テ實施セリ

本年測量ニ從事セシ艦船ハ松江、大和、武藏、葛城及浪速ノ五艦ニシテ松江ハ小笠原、大和ハ樺太、武藏ハ千島、葛城ハ土噶喇群島ノ各方面ニ作業シ浪速ハ北海方面警備巡航ノ傍色丹島附近ノ錘測及千島列島方面ノ海潮流測定ヲ行ヘリ、又葛城ハ前記ノ外太平洋沿岸海流測定ノ目的ヲ以テ大隅海峽及九州東岸沖合ノ海流測ヲ施行セリ、葛城ノ本作業ハ天候等ノ障礙ヲ受ケ測量區域ハ少範圍ニ止マリ又成績ノ見ルベキモノナカリシガ蓋シ此ノ種測量ノ先驅ヲナスモノナリ
測量綜合成績ハ測得陸面積二、五三一平方哩、同海面積一四、八一三平方哩、同海岸線一、五一七哩、錘測數九八、七一九ナリ

圖誌

本年先島群島方面ノ測量ニ於テ石油發動機附測量艇四隻ヲ使用ス、之機動測量艇採用ノ初ナリ
圖誌作業ニ於テ本年度刊行ニ係ル書誌ハ日本水路誌第五卷第二版、同第六卷(朝鮮全岸ニシテ既版朝鮮水路誌ノ改版ナリ)、水路報道第九十八號、明治四十四年練習艦隊阿蘇、宗谷濠洲航海報告、其ノ他東洋燈臺表、航海年表等ニシテ海圖ハ新刊四版改版十三版大改正四十六版合計六十三版ナリ
圖誌受拂部數ハ海圖受入七萬八千二百六十二枚書誌受入六千六百五十一冊ニシテ拂下部數ハ海圖五萬四千

二百九十八枚書誌二千五百三十冊ナリ

測器

測器科ニ於テ本年改良ニ屬スル主ナル事項ハ一、驅逐艦水雷艇用トシテ瑞西「ナルダン」社製ノ小型經線儀ノ採用ニ、轉輪羅針儀及流動物入修整式羅針儀ノ研究ニ、新造大艦ニ電動測深儀ノ供用等ニシテ此ノ中轉輪羅針儀及電動測深儀ハ先ヅ英國ニ於テ建造中ノ軍艦金剛ニ据附クルコトトセリ尙一週間卷掛時計ノ内外品混用、稜鏡双眼鏡ノ内地製品試用等測器ノ獨立ニ大ニ意ヲ用フル所アリタリ

人員

四十四年三月三十一日調現在員ハ高等官二十九名、判任官三十九名、雇員傭人百四十三名、合計二百一十一名他ニ臨時傭人五十一名、總計二百六十二名ナリ

經費

本年度歲出支出額總計三九二、七九八圓ニシテ内三二八、八〇三圓ハ經常部ニ屬シ七三、九九五圓ハ臨時部ニ屬ス而シテ經常部中測量費ハ一〇九、〇二〇圓、圖誌費ハ五九、五〇六圓、測器費ハ五六、八二五圓、臨時部中拂下圖誌製造費ハ一四、〇〇〇圓ナリ

明治四十五年(大正元年)

一 月

第一區水路告示ハ從來各年ヲ通ジ一貫シタル番號及項數ヲ襲用セルモ本月以降ハ曆年毎ニ其ノ番號及項數ヲ改ムルコトニ改正シ又各項末ニ附スベキ(告第……號)ハ(……年告第……項)ト記スルコトニ定ム、但シ軍機水路告示ハ當分ノ間從前ノ通トス

告示番號ノ改正

磁氣測ノ實

本年施行スベキ全國磁氣測量準備ノ爲昨年十月以來磁氣講習ニ從事セル水路官及技手ニ對シ本月上旬ヨリ約三週間三浦半島及房總地方ニ於テ磁氣測量ノ實習ヲ行ハシム

二月

磁氣調査ノ囑託

東京帝國大學理科大學教授理學博士寺田寅彦ヲ當部囑託トシテ磁氣測量ニ關スル調査ヲ依囑ス

三月

電線架設

各地經度電測ニ當リ當部天測室ヨリ測地ニ至ル電信直通ノ目的ヲ以テ當部ト東京中央郵便局トノ間ニ電線二條ヲ架設スルコトナリ本月下旬竣成ス、爾後之ガ爲經度電測ニ至大ノ利便ヲ得ルニ至レリ

四月

技師兼任

十三日 昨年十一月當部囑託トシテ測量員ニ對スル磁氣講習ヲ依囑シタル海軍教授渡邊襄本日附テ以テ海軍技師ニ兼任、水路部出仕ニ補セラル

二十日 部長伊藤少將佐世保鎮守府參謀長ニ轉ジ海軍少將川島令次郎水路部長ニ補セラル

部長更迭

二十八日 全國地磁氣測量事業ハ曩ニ明治二十七年東京帝國大學震災豫防調査會ニ於テ創始シタルモノナルガ之ヲ當部ニ引繼ギ該作業ヲ繼續スルコトナリシヲ以テ當部ニ於テハ之ヲ毎十年ニ週期的測定ヲ行フコトニ定メ其ノ第一回ヲ本年及明年ノ兩年度ニ互リテ完了スルコトトシ昨年來準備ニ着手中ナリシガ

茲ニ準備完成シ各測量班(四班編制)ハ夫々作業地ニ向ケ出發ス

五月

經緯度測、磁氣測旅費、規則

二日 經緯度測量、磁氣測量等ノ爲清國又ハ朝鮮内ヲ旅行スル者ニ支給スベキ旅費、日當、宿泊料ヲ左表

ノ通定メ本月一日ヨリ實施セラル

官等	上長官	士官	兵曹長	准士官	一等下士	二三等下士	卒
高等官三等以下	高等官六等以下	候補生	候補官	五級以上	六級以下	判任官見習	備員
日當	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	六〇〇
宿泊料	三、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、三〇〇	二、〇〇〇	一、七〇〇	一、四〇〇

二十二日 木下會計課長海軍經理學校甲種學生仰付ケラレ海軍大主計藤山文三郎同課長ニ補セラル

六月

課長更迭

朝鮮總督府遞信局へ朝鮮沿岸普通海圖一揃及大藏省關稅局へ普通海圖ノ一部ヲ寄贈ス

海圖寄贈

二十二日 皇孫殿下御三方御揃ニテ築地方面海軍官衙御見學ノ御序ヲ以テ當部ニ成ラセラレ川島部長御案内御説明申上テ

七月

改元

三十日 明治天皇崩御、皇太子嘉仁親王踐祚、大正ト改元セラル

八月

二十六日 官房第三一一號(海軍大臣ヨリ)ヲ以テ

水路關係事項通報方照會

「朝鮮沿岸地方ニ於テ燈臺、浮標、海面埋立其他艦船ノ航海碇泊ニ關係アル海岸建設物ノ設廢、増改築撤却等有之候節ハ水路圖誌ニ記入スル必要有之候條其位置、種類、場所等ヲ詳記シ當局官憲ヨリ其都度

大正元年

大正元年

一七六

水路部へ直接通報有之様御取計ヲ得度旨照會セラル

九月

御大喪儀海軍儀仗隊員約千二百名十二日ヨリ十四日朝ニ至ル期間當部ニ宿泊ス

十七日 御大喪儀參列ノ爲來朝中ノ英國東洋艦隊司令長官當部ヲ參觀ス

十月

二十四日 官房第六〇五號ノ二ヲ以テ水路圖誌供給表竝ニ水路圖誌貸與品表改正ノ件認許アリ、同日官房

第九六四號ヲ以テ陸地測量部出版日本地圖ハ軍事教育圖書ニ變更セラレ從來當部保管ノ分ハ海軍教育本部へ保管轉換ス

十一月

當部測量科天測室ト東京天文臺間ニ於ケル直通電信線ヲ利用シ本月十五日ヨリ同室ノ經度測量ヲ實施シ十二月三十一日之ヲ終了ス即チ測得經度次ノ如シ(本件詳細ハ大正元年水路部年報ヲ參照スベシ)

九時一分四・三三四秒 (H 0^h 00^m 2^s)

即チ一三九度四六分五・〇一秒 (H 0^h 03^m)

因ニ水路部ニ於テ採用スル東京天文臺經度ハ綠威東經一三九度四四分三〇秒三即チ經度時九時一分五八秒〇ニシテ明治十八年九月海軍觀象臺ノ測定改正以來曾テ變更セズ其ノ後東京天文臺ニ於テ明治二十七年七月天文臺經度ヲ推算シ經度時九時一分五八秒二二二(東京天文臺年報第一冊)ヲ得タルモ之ヲ調査スルニ前記基本經度ヲ變更スルニ足ル有力ナルモノト認ムルヲ得ズ依ツテ本測量ニ於テハ當初記

測量科天測室ノ經度測

儀仗隊員ノ宿泊英國司令官ノ參觀陸圖ノ保管轉換

事業概況
測量

載ノ東京天文臺經度ニ基クモノトス(東京天文臺基本經度ハ後當部測定ニ基キ大正七年九月改正セララル)前記經度測ノ際三星對ニヨリ當部天測室ノ緯度ヲ測定シ左ノ値ヲ得タリ
北緯 三五度三九分三八秒

事業概況

本年測量ハ第一南方諸島北部、第二四國南西岸、第三千島列島北部、第四樺太東岸北船越ヨリ北知床岬ヲ經テ東岸輕帆岬ニ至ル沿岸、第五朝鮮南岸濟州島楸子島及三島ヲ包括スル未測海面ノ五方面竝ニ臨時測量トシテ浦賀港、品川灣、橫濱港、群山及釜山港、臺灣打狗港及基隆港、烏帽子島附近、下ノ關海峽各地ニ於テ作業セリ、測量艦ハ松江、武藏、大和及葛城ノ四艦ニシテ夫々第一第三第四及第五ノ各方面作業ニ從事セリ、又浪速ハ北海方面警備ノ任務ヲ負ヒ巡航ノ途測量艇、測量材料等ノ輸送ニ當リシガ六月濃霧ノ爲千島知理保以島ニ坐礁ス、上記測量ノ外磁氣測量班ハ本洲、北洲及千島、樺太、朝鮮、九州及南西諸島ノ各地ニ觀測ヲ施行シ又松江ハ第一方面ノ作業終了後太平洋岸紀伊水道ヨリ遠州灘ヲ經テ犬吠崎ニ至ル區域ノ海流測量ニ從事セリ

測量綜合成績ハ測得陸面積九三三平方哩、同海面積六、五九三平方哩、同海岸線五二〇哩(外ニ湖水二五哩)、錘測數五八、〇九二、磁氣觀測箇所百九十四ナリ

下ノ關海峽ノ水深補測ハ訓令作業ニシテ年々施行シ來リシガ本年測量後意見ヲ上申スル所アリ即チ左記ノ如シ

「明治三十七年以來ノ測量ノ結果ニ徴スレハ新ニ淺洲ヲ生スルカ若クハ擴張スル等ノコトナク今後ニ於

大正元年

一七七

テモ遽ニ水深ヲ減スルコトナキモノト斷言致シ候依テ今後毎年ノ測量ヲ中止シ三年乃至五年ニ一回驗測ヲ行フコトト致シ度

圖誌

右申ニ對シ「今後ハ三箇年ニ一回驗測ヲ行フヲ常トシ港内ノ浚渫其他中ノ洲附近ノ水深ニ影響スル如キ狀況ヲ發シタル場合ニハ臨機適當ナル驗測ヲ行フ義ト心得ヘシ」ト訓令セラレ
圖誌作業ニ在リテハ「水路告示集」ヲ發行シテ前曆年中ニ發行セシ水路告示中誌類ニ關スルモノノミテ水路誌各卷ノ頁數ノ順序ニ集綴以テ水路誌使用者ノ便ニ供シ、又既刊航海報告中明治二十四年ヨリ同四十三年ニ至ル濠洲方面ノ七種ニ四十四年同方面ノ航海報告記事ヲ綜合シ略航路ト地方トノ順序ニ據リテ序列シ「明治二十四年至同四十四年濠洲航海報告集」トシテ刊行セリ此ノ外本年度刊行ニ係ル書誌ハ露領沿海州水路誌（露領沿海州、樺太北部及堪察加半島）、「ベンガル」灣東側水路誌及航海年表、東洋燈臺表等ナリ、發行セル海圖ハ新刊十四版改版七版大改正五十版合計七十一版ニシテ受拂圖誌ノ部數ハ受入海圖八萬八千九百五十二枚同書誌七千六百六十二冊又拂下海圖ハ五萬八千五百七十一枚同書誌ハ二千九十五冊ナリ
測器科ニ在リテハ一月測器供給表ヲ改正シテ艦船兵器ノ進歩ニ伴ハシムル所アリ即チ一、艦艇排水量ノ増加ニ適應スル如ク噸數別區分ヲ變更シ二、小形三角定規ノ供用ヲ廢シ三、夜中用双眼鏡ト通常双眼鏡トノ區別ヲ廢シテ普通双眼鏡トナシ「マリンビノキニター」ヲ採用シ四、時計類及眼鏡類ノ定數ヲ増加セリ又測器ノ改良ト之ガ獨立ニハ大ニ意ヲ用フル所アリ其ノ主ナルモノハ一、驅逐艦用濕羅針儀及潜水艇用羅針儀ノ改良二、米獨兩獨樂式羅針儀ノ比較實驗三、電動測深儀竝ニ英國「ウォーカー」社製高速力艦船用測程儀ノ採用四、「ニコルソン」式（艦底）測程儀ノ研究其ノ他一週間卷掛時計、望遠鏡、稜鏡及眼

測器

人員

經費

鏡、水銀晴雨計等ノ内地製品採用ノ増加等之ナリ

明治四十五年三月三十一日調現在員ハ高等官二十九名、判任官三十九名、雇員傭人百五十七名、合計二百二十五名他ニ臨時傭人四十八名、總計二百七十三名ナリ

本年度歲出支出額總計三二八、五三二圓ニシテ内二九八、二七一圓ハ經常部ニ屬シ三〇、二六一圓ハ臨時部ニ屬ス而シテ經常部經費中九七、一六四圓ハ測量費、五二、〇八六圓ハ圖誌費、五五、八〇六圓ハ測器費ニ屬シ臨時部經費中一五、〇〇〇圓ハ拂下圖誌製造費ニ屬ス

第二編 自大正二年至同十五年(昭和元年)

第二編 自大正二年至同十五年(昭和元年)

大正二年

一月

七日 部長川島少將海軍中將ニ任ゼラル

二月

一日 在上海支那商船學校へ水路圖誌寄贈ノ件上申ノ處七日官房第三〇七號ノ二ヲ以テ認許アリ

十五日 部内ニ運動部ヲ新設シ弓道部及庭球部ノ二部ヲ設ク

三月

本月開催ノ羅甸亞米利加展覽會へ水路圖誌ヲ出品ス

二十八日 勅令第三十四號ヲ以テ水路部條例中ヲ改正セラレ當部所掌事項中ヨリ測器關係ヲ削除シ測器科ヲ廢シ又測量科所掌事項中ニ「海上氣象ノ調査ニ關スルコト」ヲ加ヘラル(四月一日ヨリ實施)

「註」 測器科ヲ廢シ測器ニ關スル事項ヲ當部所掌ヨリ除カレシハ輓近測器ノ進歩著シク今ヤ之ヲ兵器トシテ取扱フベキ機運ニ到達セルヲ以テナリ

大正二年

部長進級

圖誌寄贈

運動部新設

展覽會出品

水路部條例
中改正
測器科ノ
廢止

大正二年

一八二

勅令第三十四號(官報三月二十九日)

水路部條例中左ノ通改正ス

第二條中「航海ノ保安、測器、水路官ノ勤務及教育」ヲ「航海ノ保安及水路官ノ教育」ニ改ム

第六條 水路部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條中「測器科」ヲ削ル

第八條 測量科ニ於テハ測量原圖及其ノ水路記事ノ調製、海上氣象ノ調査並水路官ノ教育ニ關スルコトヲ掌ル

第九條 圖誌科ニ於テハ水路圖誌ノ調製、準備、配給及保管ニ關スルコトヲ掌ル
第十條 削除

第十二條中「測量科圖誌科及測器科」ヲ「測量科及圖誌科」ニ改ム

四 月

一日 達第四十七號ヲ以テ水路測器ヲ兵器ニ編入シ自今水路測器ノ稱呼ヲ廢セラル

同日達第四十八號ヲ以テ水路部處務規程ニ改正アリ即チ測器科ノ項ヲ廢シ、測量科事務分課中「海上氣象、海流及潮流ニ關スルコト」ヲ加ヘラル

又達第四十九號ヲ以テ水路圖誌水路測器經理規程ヲ廢シ新ニ水路圖誌經理規程ヲ定メ 一、從前ノ水路圖誌水路測器經理規程中ヨリ水路測器ニ關スル條項ヲ削除シ二、練習艦隊幕僚用ノ水路圖誌ハ横須賀

水路測器ノ
呼稱廢止
處務規程ノ
改正

水路圖誌經
理規程ノ改
定

定員改正

科長更迭

鎮守府兵備會計官吏ヨリ供給スルコトトシ 三、水路圖誌亡失(毀損)事由書々式ヲ定メ 四、第二區第三區水路圖誌ハ水路部ニノミ貯藏スルコトニ改メラル
測器科廢止ニ伴ヒ定員ヲ改正シ書記「八」ヲ「七」ニ技手「二九」ヲ「二八」ニ、計ノ部「二十一」ヲ「一九」ニ「六人」ヲ「五人」ニ「四〇人」ヲ「三八人」ニ改メラル
此ノ日金子測器科長海軍艦政本部部員兼海軍大學校教官ニ轉ズ、大野圖誌科長待命仰付ケラレ海軍大佐井原賴一圖誌科長ニ補セラレ

二十二日 當部ニ於ケル寫眞製版術調査ヲ囑託中ノ東京高等工業學校教授結城林藏ノ囑託ヲ解ク

五 月

九日 水路圖誌供給表同貸與品表中改正方上申ノ處認許セラレ水第二九六號同第二九七號ヲ以テ之ヲ改正ス、此ノ中海圖區域ニ關スル改正次ノ如シ即チ第一區第一部ハ「東經百十三度ト同第六十度トノ間ニシテ北ハ北緯五十五度ヲ以テ限リ南ハ北緯二十一度三十分ヲ以テ限リタル區域」

十日 水第三四一號ヲ以テ北千島方面測量ノ爲相當ノ大艦ヲ配置相成度儀上申ス、即チ從來北海道及樺太等ノ沿岸測量ニ對シテハ特ニ一隻宛ノ測量艦ヲ配置セラレ居リシ處測量事業ノ進捗ニ從ヒ今ヤ未測地ハ北千島ノ大部分ヲ殘スノミトナリ此ノ方面ニ派遣セラレベキ測量艦ハ大和、武藏等ノ小艦ニテハ不適當ナルヲ以テ大正四年度ヨリハ相當ノ大艦ヲ配置セラレル様詮議相成度旨意見ヲ開陳セリ、然レドモ本件當局ニ於テ詮議ニ至ラザリキ、左記ハ右上申ノ理由ニシテ當時ニ於ケル當部ノ測量事業ニ對スル方針ヲ察知シ得ル好箇ノ資料タルベシ

海圖區域ノ
改正

北千島方面
測量ノ爲大
艦配置ノ儀
上申

大正二年

一八三

「凡ソ一地方ヲ測量スルニ當リテハ其ノ區域内ニ於テ便宜ノ地ヲ選ヒ測量基地ヲ設クルノ要アリ基地ニハ測量員ノ宿舍竝ニ製圖室ヲ置キ一時測器材料及ヒ測量艇等ヲ格納スルコトヲ得以テ野測ノ作業ヲ完成スルト共ニ測量員等ノ寄息ニ供スヘキ場所ニシテ舟艇ノ着岸容易ナルヘキハ勿論多少ノ物資ヲモ得ヘキ所タルヲ要ス而シテ右等ノ設備ハ民家ヲ借上ケ使用スルノ例ナレトモ未開ノ地方ニ在リテハ適當ノモノヲ得ル能ハサルコト多キヲ以テ此ノ如キ場合ニハ材料ヲ携行一時舎營ヲ組立テ之ヲ應用シ測量ノ終結ト共ニ新測スヘキ他地方ニ運搬シ之ヲ地方廳若クハ相當ノ住民ニ保管ヲ依托スルノ例トナシ居レリ

明治初年沿海測量開始當時ハ毎年常備艦ノ一艦ヲ測量艦トシ測量員ヲ乘組マシメ所要ノ地ニ派遣スルノ法ナリシモ該方法タルヤ殖民地若クハ未開地ヲ測量スルニ際シ専ラ用フヘキモノニシテ我カ内地沿岸ノ如ク至ル所舟艇船夫ハ勿論其ノ材料ノ供給自由ナル場所ニ於テハ之ヲ用フルノ要ナク之ヲ以テ明治十四年以降ハ専ラ當部員ノミヲ以テ測量班ヲ編制シ各方面ニ派出測量ニ從事セシムルノ方法ニ改メ以テ今日ニ及ヘリ

此ノ間朝鮮、臺灣及ヒ北海道方面測量ニ對シテハ特ニ一隻宛ノ測量艦ヲ配置セラレタレトモ其ノ任務ハ主トシテ沖合ノ錘測及ヒ人員材料等ノ運搬ニ過キサルノ有様ニテ諸外國ニ於テ實施シ居ル軍艦乘員ノミヲ以テ行フ方法トハ多少ノ相違アリ

以上概括スレハ一ハ艦内ヲ基本トシ乘員全部ヲ以テ測量ニ從事スルモノト他ハ陸上ニ基地ヲ設ケ水路部測量員ハ陸上竝ニ附近海面ノ測量ヲ受持テ軍艦乘員ハ單ニ沖合ノ錘測ニ止マルトノ二種類ニシテ其

ノ孰レヲ用フルヲ得策トスルカハ測地ノ狀況ニ從ヒ決スヘキモノナリ

昨年度ヨリ開始セシ北千島ノ測量ハ其ノ最北占守島ヨリ着手セリ同島片岡灣ニハ報公義會ノ一部殘留シ且海軍炭庫ノ設備アルノミナラス艦船ノ碇泊モ亦稍可ナルヲ以テ測量ニ要スル諸準備ハ總テ此ノ地ニ設ケ占守島阿賴度島及ヒ幌筵島全部ノ測量ハ片岡灣ノ基地ニ於テ豫定ノ如ク測得シ得ヘシト雖モ大正四年度ヨリ着手スヘキ溫爾古丹以南ニ在リテハ執レモ適當ナル港灣ニ乏シク且人跡至ラサル場所ノミナレハ假令測量ニ要スル設備ヲ此ノ地方ニ施シタリトテ之カ保管ヲ托スル能ハス加フルニ其ノ沿岸ハ斷岸絶壁ノミ多クシテ舟艇ノ着岸容易ナラス又風潮常ニ強ク濃霧ハ夏季中晴ル、コト稀ニシテ多數ノ島嶼所々ニ散在スル等適當ノ保護ナクシテ小舟艇ノミ外海派出ハ頗ル危険ナルヘキノ感アリ

測量艦ニ於テモ占守島ノ炭庫ヲ遠サカルニ從ヒ載炭量少額ノモノニ在リテハ炭水補給ノ爲屢往復ノ要ヲ生シ隨テ測量事業ニ從事スルノ日數ヲ減少スルニ至ルヘシ

此等ノ不利ヲ排除シ有効ナル測量ヲ實施センニハ陸上ニ於ケル設備ヲ廢シ測器、測量艇ノ格納ハ勿論製圖及ヒ測量竝ニ船夫ノ起臥ニ至ルマテ一切艦内ニ於テ施行スルニ在リ故ニ大和型ノ測量艦ニ於テハ到底此ノ要望ニ應シ難ク左記條件ニ適スル相當ノ大艦ヲ以テ之ニ代ヘラレンコトヲ希望スル所以ナリ

測量艦ニ必要ナル條件

- 一、固有乘員ノ外水路部測量員士官三人技手四人船夫其ノ他五十人ニ對スル設備ヲ爲ス事
- 二、測量艇六隻以上ヲ搭載シ得ルコト
- 三、汽機測深器一臺ヲ備フル事

大正二年

一八六

磁氣測量ノ
終了

四、完全ナル製圖室ヲ設クル事
五、無線電信機ヲ有スルコト

二十六日 昨年四月開始セシ第一回全國磁氣測量事業ハ本年ハ之ヲ本洲、四國、九州、臺灣及離島ノ各地ニ施行シ本月ヲ以テ全ク其ノ豫定作業ヲ了リ本日第三班ノ歸京ヲ最後トシテ磁氣測量員全部歸京ス

六 月

海軍大臣ノ
巡視

日本近海氣
象圖ノ刊行

二十六日 齋藤海軍大臣當部ヲ巡視セラル
本月日本近海氣象圖ヲ刊行ス、本圖ハ明治十五年ヨリ同四十三年ニ至ル二十九年間ノ帝國艦船ノ海上氣象報告ヲ採收シ中央氣象臺、測候所、海軍望樓及隣邦氣象觀測所ノ各觀測成績ヲ參酌シテ調製シタルモノニシテ曩ニ明治四十二年設ケタル氣象掛ノ編纂ニ係ルモノナリ、本圖完成スルヤ之ガ編纂ニ要セシ諸材料ノ提供ヲ得タル日本郵船會社、大阪商船會社、本邦各地測候所、外國測候所、農商務省水產局、水產講習所ノ各所ニ本圖若干部ヲ贈與セリ

九 月

朝鮮總督府
ト增設告示
ノ協定

一日 朝鮮沿岸ニ於テ海圖上ニ記載ナキ島嶼岩礁等發見ノ場合ニハ朝鮮總督府ヨリ一應當部ニ商議ノ上同府告示ヲ發スルコトニ協定ス

十二月

海圖番號ノ
改正

海圖番號ハ從來一號ヨリ一千號迄トシ一千號以上ヲ雜圖トセシモ已ニ一千號以下ハ充實セシテ以テ次ノ如ク改メ明年一月ヨリ實施ノコトトス即チ從來ノ番號ハ其ノ儘トシ雜圖ハ三千號以上トシ一千號ヨリ二千

朝鮮沿岸精
密圖ノ發行

部長、科課
長ノ更迭

號迄ヲ各地方別ニ適宜割當ツ而シテ八百號ヨリ一千號迄及一千八百五十一號ヨリ二千號迄ヲ將來第一期擴張豫定區域ニ、二千一號ヨリ三千號迄ヲ第二期擴張豫定區域ニ配ス

朝鮮南岸及南西岸ハ船舶ノ通航次第ニ頻繁トナリ現行普通海圖ノミニテハ一般船舶ノ航海保安上不便少カラザル實狀ニ在リシヲ以テ一層精密圖ヲ發行スルコトトス

一日 部長川島中將待命仰付ケラレ海軍少將江口鱗六水路部長ニ補セララル

同日井原圖誌科長筑摩艦長ニ、藤山會計課長海軍經理學校主計長ニ夫々轉ジ海軍大佐金子滿喜及海軍主計少監上田範治ハ夫々圖誌科長及會計課長ニ補セララル

十一日 水路ニ關スル諸報告中緊急ノモノノ特別通報ニ關スル規定ヲ設ケ大正三年一月ヨリ實施ノコトニ定ム

規定左ノ如シ

水路ニ關スル諸報告中緊急ノモノノ特別通報規定

左記事項ニ關スル諸報告中緊急通報ヲ要スト認ムルモノハ水路告示ヲ發行スルノ外尙ホ左記ノ方法ニ依リ特別ニ通報ス

- 一、頻繁ナル航路ニ於ケル岩礁等ノ發見
 - 二、頻繁ナル航路ニ於ケル漂流物、沈船
- 但シ本邦領土並ニ關東州ノミニ限ル

◎特別通報個所並ニ通報ノ方法

大正二年

一八七

- 一、各艦隊各鎮守府及要港部へハ其ノ時ノ狀況ニ應シ適宜電報ス
- 二、海軍部外

日本郵船株式會社

東洋汽船株式會社

日本船主同盟會東部事務所

大阪商船株式會社東京出張員

遞信省管船局

右ハ電話ニテ緊急通報アル旨通知シ受取人ヲ出サシメ通報文ハ謄寫版刷ニシテ渡スコト

但シ遞信省管船局ニハ當部ヨリ特使ヲ以テ送達ス

當分右ノ方法ニ據ルト雖モ他日時機ヲ得ハ尙ホ左記ノ如ク各地港務部等へモ電報通知セントス

將來電報通告先並ニ地方別（○符ハ通告スルモノ）

北 洲	北海道遞信局	○	○	○	○	○	○	○	○
	神奈川縣港務部	○	○	○	○	○	○	○	○
千 島 列 島 太	福岡縣港務部	○	○	○	○	○	○	○	○
	兵庫縣港務部	○	○	○	○	○	○	○	○
本 洲 北 岸	大阪築港港務部	○	○	○	○	○	○	○	○
	長崎縣港務部	○	○	○	○	○	○	○	○
本 洲 東 岸	三務所	○	○	○	○	○	○	○	○
	池	○	○	○	○	○	○	○	○

水路測量標
條例ヲ朝鮮
臺灣樺太等
ニ施行

本洲南岸	○	○	○	○	○	○	○	○	○
南方諸島	○	○	○	○	○	○	○	○	○
本洲北西岸	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内海、四國	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州	○	○	○	○	○	○	○	○	○
南西諸島	○	○	○	○	○	○	○	○	○
臺灣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
朝鮮、關東州	○	○	○	○	○	○	○	○	○

右特別通報ノ件ハ水第五九五號ヲ以テ海軍大臣宛報告シ同時ニ遞信省管船局（各地港務部並ニ各汽船會社）宛申進（依頼）ス

二十四日 勅令第三百十三號及同第三百十四號ヲ以テ水路測量標條例ハ官有地ニ關スル規程ヲ除キ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ施行スル旨公布セラル、同日勅令第三百十五號ヲ以テ朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ於テ水路測量標建設ノ爲官有地ヲ使用スルノ件公布セラル即チ「朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ於テ水路測量標建設ノ爲官有地ノ使用ヲ要スルトキハ所管廳ニ通知シ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得、水路測量ノ爲官有ノ建物若ハ其ノ敷地又ハ牆垣籬柵ヲ施シタル官有地内ニ立入ラムトスルトキハ水路測量官ハ豫メ之ヲ所管廳ニ通知スヘシ」

大正二年

一九〇

事業概況

測量

本年測量ハ第一南方諸島、第二八重山列島附近、第三濟州島及楸子島、第四樺太東岸、第五千島幌筵島附近ノ五方面竝ニ臨時作業トシテ佐世保港外、浦賀水道、六連島近海、奄美大島海峽、相模沿岸逗子、葉山附近及伏木河口ノ各地ニ於テ施行シ測量艦ハ松江ヲ第一方面ニ、武藏ヲ第四方面ニ、大和ヲ第五方面ニ、關東丸ヲ第二及第三方面ノ作業ニ從事セシメタリ、而シテ前年度ヨリノ繼續作業タル磁氣測量ハ本年之ヲ本洲、四國及淡路島、九州及離島、臺灣各地離島ニ於テ施行シ其ノ豫定作業ヲ完了セリ

測量綜合成績ハ海岸測量ニ在リテハ測得陸面積一、〇五一平方哩、同海面一七、六四〇平方哩、同海岸線五〇九哩、錘測數三九、九〇八ニシテ磁氣測量ニ在リテハ本洲七十一箇所、四國及淡路島十六箇所、九州及離島二十六箇所、臺灣十六箇所、合計百二十九箇所ノ觀測點ヲ得タリ

圖誌
水路誌名
稱ノ改正

圖誌作業ニ在リテハ從來刊行ノ支那海ニ關スル水路誌ハ之ヲ揚子江水路誌、東叢島水路誌、支那沿岸水路誌、支那海東側水路誌、支那海西側水路誌、麻刺加海峽水路誌及「スマトラ」島水路誌ノ七種ニ改稱編纂スルコトニ定メタリ、之英版支那海水路誌ハ其ノ區域ヲ變更シ支那海ノ東岸ト西岸トヲ別卷トシ別ニ揚子江水路誌ヲ刊行スルコトニ改メタルヲ以テ當部ニ於テモ之ニ倣ヒ前記ノ如ク改正スルコトトセリ、又水路誌表紙ノ色別ヲ改メ從來支那海水路誌ハ一様ニ黄色表紙ヲ用ヒタルヲ今後ハ地方別ニ各其ノ特徴トスル彩色ヲ採リ之ヲ該水路誌表紙ノ色別トセリ即チ支那沿岸水路誌ハ黄色、揚子江水路誌ハ淡赭色、東叢島水路誌ハ綠色、支那海東側水路誌ハ褐炭色、支那海西側水路誌ハ藍綠色、麻刺加海峽水路誌ハ白色、「スマトラ」島水路誌ハ赤褐色ヲ用フルコトトス

刊行書誌ハ東叢島水路誌第一卷(呂宋島南西岸、「ミンドロ」西岸、「パ」ラワン」東岸及「ボルネオ」北東岸)、日本水路誌第二卷上追補第一、同第二卷下追補第一、同第三卷追補第一、水路圖誌改補心得第一、日本近海氣象圖、東洋燈臺表、航海年表等ニシテ刊行海圖ハ新刊十六版改版十版大改正四十版合計六十六版ナリ

圖誌ノ受入部數ハ普通海圖二萬三千三百六十二枚同書誌五千七百九十三冊、拂下圖誌ハ海圖六萬八百四十五枚内雜用海圖二千四百九十枚書誌三千五百四十一冊ナリ

人員

大正二年三月三十一日調現在員ハ高等官三十名、判任官三十六名、雇員備人百五十八名、合計二百二十四名他ニ臨時備四十一名、總計二百六十五名ナリ

經費

本年度歳出支出額總計二三〇、二九三圓内二一四、二四三圓ハ經常部ニ屬シ一六、〇五〇圓ハ臨時部ニ屬ス、經常部支出額中測量費ハ八五、四二九圓ニシテ圖誌費ハ四五、六五〇圓ナリ而シテ臨時部支出額中拂下圖誌製造費ハ一五、〇〇〇圓ナリ、本年度經費ハ之ヲ前年度ニ比スレバ總額ニ於テ金九萬八千餘圓ノ減少ヲ示セリ之測器料廢止ニ伴フ經費ノ削減ト本年行ハレタル行政整理ニ因ル經費ノ節減ニ基ク

大正三年

一月

十日 水路圖誌ニ眞方位使用竝ニ其ノ呼稱ニ關スル規定ヲ設ケ自今眞方位及磁針方位ヲ併用スルコトトス

(詳細大正二年水路部年報参照)

大正三年

一九一

水路圖誌ニ眞方位ノ採用

大正三年

一九二

製版掛ノ新設

假用海圖ノ改稱

拂下海圖ノ官報廣告

英、米水路部出版圖誌ノ購入

二 月

二日 圖誌科内製圖掛ノ一部タル寫眞部ト彫刻掛ノ一部タル石版部トヲ合併シテ新ニ製版掛ヲ設ク、之製版術ノ進歩漸ク顯著トナリシ結果ニシテ茲ニ新掛ヲ設ケ寫眞及寫眞應用製版ニ關スルコト竝ニ石版、亞鉛版ノ調製ニ關スルコトヲ掌ラシム、此ノ日假用海圖ノ名稱ヲ雜用海圖ト改稱ス

同日 拂下水路圖誌ハ自今毎年二回（一月及七月）之ヲ官報ニ廣告スルコトニ定ム

十三日 本月二日水第一一號ノ六ヲ以テ支那沿岸ヨリ東叢島ニ至ル水路誌刊行ノ件ニ關シ上申セシ處同九日官房第二七六號ノ二ヲ以テ認許アリ由ツテ漸次之ヲ刊行ノコトトス

十七日 英版水路圖誌竝ニ米國水路部出版水先圖購買數ヲ左ノ通改メ高田商會ト契約締結ス

英國水路部出版圖誌

一、海圖 新刊竝ニ改正ノ都度 (New Charts, New edition of Charts)

但シ第一區、第二區ハ壹枚宛、第三區ハ六枚宛

一、水路誌及同追補 新刊ノ都度

但シ第一區ハ貳部、第二區ハ拾貳部、第三區ハ六部宛

米國水路部出版水先圖

一、北太平洋水先圖 (月刊)

一、南太平洋水先圖 (年四回發行)

一、印度洋水先圖 (月刊)

出版ノ都度四枚宛

三 月

二十五日 海圖上ニ記載セル羅針ノ偏差ハ自今大正元年及同二年當部測量ニ係ル偏差圖ヲ使用シ新刊改版大改正等發行ノ年月ヨリ五年後ニ於ケルモノヲ圖載スルコトニ定ム、偏差ノ年月ヲ五年後ト定メタルハ海圖ハ十年ヲ以テ改版ノ期間トスル當部方針ノ中間ヲ執リタルニ外ナラズ

四 月

當部刊行圖誌類ノ販賣ハ從來日本郵船株式會社ニノミ許可シアリシガ本會計年度ヨリ雜用海圖ニ限り小林又七 (川流堂) ニモ販賣ヲ許可ス

五 月

二十八日 本邦基準經度確定ノ目的ヲ以テ左記理由書ヲ添ヘ大正四年度ニ於テ東京「グラム」間經度測量致度旨上申ス

理由書

當部測量ニ於テ經度ハ常ニ東京天文臺ヲ基トシテ之ヲ實測ス故ニ東京天文臺ノ經度ニ差異アリトスレハ即チ海圖上ノ位置悉ク同様ノ差異アルコトトナル

現今採用ノ東京天文臺經度ハ明治十九年海軍觀象臺ニ於テ決定セル綠威東經九時十八分五十八秒〇二ニシテ其ノ出所ハ次ノ如シ即チ明治七年英國人ノ測定ニ依リ印度「マドラス」ノ經度五時二十分五十九秒四二ト決定セラレ而シテ明治十四年及同十五年米海軍ニ於テ浦鹽斯德、長崎、上海、廈門、香

大正三年

一九三

羅針偏差ハ當部測量ヨリ採用

川流堂ニ雜用海圖ノ販賣許可

東京「グラム」間經度測量ノ上申

港、馬尼刺、聖「ゼームス」、新嘉坡、「マドラス」以上九個所ノ東洋諸港間ノ經度測量ヲ施行シタル結果「マドラス」、長崎間ノ經度差之ニ據リ決定シ而シテ一方ニハ明治七年ヨリ同十四年ニ涉リ數回本邦諸官廳又ハ外人ノ行ヒタル經度測量ノ結果ヲ纏メテ長崎、東京天文臺間ノ經度ヲ定メ上記三種ノ成果ヲ結合シテ前記ノ決定經度ヲ得タルモノナリ

然ルニ前記米海軍測量ニ於テ凡ソ經度測量ニ見逃ス可カラサル個人差ノ改正ヲ缺キアルヲ以テ此ノ測量結果ハ東洋諸港ノ經度連絡ニ唯一ノ材料ナルニ關セス到底不精確タルヲ免レストハ一般ノ定評ナリ近年ニ至リ印度測量部ニ於テ明治三十三年迄ノ諸測量結果ヲ研究シ「マドラス」經度ハ前記ノモノヨリ時ノ〇秒二（即チ角度ニ於テ三秒）ヲ増加スベキモノト決定シタルタメ今般英國水路部ハ當部ニ公文ヲ發シ英國海軍海圖ニ於テハ自今「マドラス」以東東洋諸地ノ海圖上ノ經度ヲ時ノ〇秒二増加セシメ從テ東京天文臺ノ經度ヲ九時十八分五十八秒二ニ改ム可キノ通知ヲナシ且當部ニモ同様ノ改正ヲ採用スルノ意ナキヤヲ問合セ來リタルモ當部ノ意見ニ依レハ經度基準ノ改正ハ全海圖ノ改正トナリ其ノ關係スル處大ナルヲ以テ輕々ニ之ヲナス能ハス而シテ現今採用ノ經度ハ畢竟「マドラス」經度ニ基キタルヲ以テ同地ノ經度ニシテ確ニ改正ヲ要ス可キモノトセンカ當部發行海圖ノ經度ニモ當然同量ノ改正ヲ施ス可キカ如シト雖モ「マドラス」長崎間ノ經度差ハ前記ノ如キ不確實ノ測定ニ成リ「マドラス」迄ヲ如何ニ改正スルモ同地以東ノ連絡ニ於テ夫以上ノ差異アリ後日再改正ノ必要ニ迫ラルルヤ明カナルヲ以テ右ニ關シテハ當部ニ於テ只目下研究中ナル旨ヲ回答シ置ケリ

明治七、八年ノ交露國陸軍ニ於テ露本國ヲ經テ西比利亞ヲ橫斷シ經度測量ヲ施行シ其ノ結果浦鹽斯德

ノ經度決定セリ之ト前記米海軍ノ明治十四、五年測量ノ際長崎浦鹽斯德間ヲモ連絡シタルヲ以テ之ヲ用ヒ東京天文臺經度ヲ誘出セハ現今採用ノ價ヨリ時ノ〇秒四大トナル又米國ニ於テ十餘年前太平洋海底電信線ヲ利用シテ桑港「ホノルル」「ミッドウェー」「グアム」馬尼刺ノ經度精測ヲ施行セリ之ニ基キ且前記明治十四、五年米海軍測量ノ馬尼刺、香港、厦門、上海、長崎ノ連絡ニ依リ東京天文臺ノ經度ヲ誘出セハ現今採用ノ經度ト殆ト一致ス又同年頃加奈太政府ニ於テ「バンクーバー」ヨリ太平洋ヲ南西方ニ斜斷シテ「ニュージールランド」ヨリ遠ク濠洲「シドニー」ニ達スル海底線ニ依リ「ニュージールランド」ノ諸地及濠洲中「シドニー」迄ノ經度連絡ヲ施行セリ而シテ之ヲ明治七、八年頃迄ニ英人ノ行ヒシ「シドニー」新嘉坡間ノ連絡及前記米海軍所測中新嘉坡、長崎間ノ連絡ヲ利用シテ同様東京天文臺經度ヲ誘出セハ現今採用ノモノヨリ時ノ〇秒二五小トナル

之ヲ要スルニ今日ニ於テハ大體四個ノ連絡系統ニ依リ我カ經度ノ基準タル東京天文臺經度ヲ誘出シ得可キモ何レモ明治十四、五年米海軍所測ノ不確實ナル連絡ニ據ルコトトナリ到底深ク信賴シ難ク且「マドラス」經由ノモノ、米國及馬尼刺經由ノモノ、及加奈太濠洲經由ノモノハ香港又ハ新嘉坡以東ハ共通ニシテ且不完全ナル連絡線ニ據ルヲ以テ三個獨立ノ測定トシテノ價値ハ大部没却セララルルモノト云フ可シ

故ニ今東京天文臺經度ヲ確實ナラシメント欲セハ明治十四、五年米海軍測定ノ東洋沿岸經度連絡ニ據ルヲ止メ別ニ直接確カナル地點ニ連絡ヲ行フニアリ而シテ此ノ目的ニ對シ實行可能ノ方法ハ米領「グアム」島ニ當部員ヲ派遣シ東京「グアム」間ノ海底電信線ヲ利用シテ東京「グアム」間ノ經度精測ヲ施

行シ以テ米大陸ヨリ馬尼刺ニ達スル確實ナル經度連絡點ト直接連絡ヲ探ルニアリトス
 會テ十餘年前桑港、馬尼刺間海底電信線開通スルヤ直ニ米國沿岸測地局ニ於テ桑港、馬尼刺間經度精
 測ヲ施行シ又之ト前後シ加奈太「バンクーバー」濠洲間海底電信線開通スルヤ加奈太政府ニ於テ直ニ
 加奈太「ニュージールランド」濠洲間ノ經度精測ヲ施行シ之ニ據リ何レモ大西洋北米大陸及太平洋ヲ横
 斷スル確實ナル連絡ヲ以テ一ツハ比律賓群島一ツハ「ニュージールランド」濠洲各地ノ經度決定スルニ
 到レリ

今ヤ我カ政府及米國電信會社ノ共同使用ノ海底電信線東京「グアム」間ニ直通スルアリ本邦測量ノ體
 面上ヨリモ此ノ際當部ニ於テ至急東京「グアム」間ノ經度測量ヲ決行シ以テ我カ基準經度確定ニ歩ヲ
 進ムルノ要アリト認ム

「註」 右上申ニ引續キ測地學委員會委員長田中館博士ハ海軍大臣宛本邦基準經度確定ノ爲大正四年
 度ニ於テ東京「グアム」間及浦鹽斯德長崎間ノ經度測量ヲ施行サレ度旨建議セリ、斯クテ本年十一
 月東京「グアム」間經度測量實施ニ關スル大臣訓令ニ接シ茲ニ翌大正四年一月右經度測量ヲ施行セ
 リ

二十九日 測量科長井内大佐海軍少將ニ任ゼラレ待命被仰付、海軍大佐小黑秀夫測量科長ニ補セララル
 本月水第一五三號ヲ以テ編曆事業ノ獨立ヲ期スル爲獨立推算ノ設備ヲ完成セラレンコトヲ上申ス
 當部編曆事業ハ去明治三十九年以來之ニ着手シ毎年航海年表ヲ刊行シ來レルモ其ノ天象位置ニ關スル部ハ
 英版天文曆ヲ資料トセル處アリ、本年原本ノ入手遅延ノ爲編纂ニ支障ヲ來セシ等不都合尠カラザルニ付本

科長更迭
編曆事業獨
立ノ上申

上申ヲナセリ

「註」 右上申ハ直ニ詮議ニ至ラズ次デ歐洲大戰ノ勃發スルヤ益本事業獨立ノ必要ヲ痛感シ翌大正四年四
 月本件再ビ上申スル所アリ爾後引續キ編曆事業ノ獨立ニ就キ努力セシ結果漸ク大正八年度ニ於テ本件實
 施ニ必要ナル豫算ノ一部ヲ得テ編曆科ノ新設ヲ見ルコトトナレリ

六 月

二日 海軍技師齋藤俊次郎ハ本年第二測量方面タル南西諸島ノ測量ニ從事セシガ多良間島ノ作業ニ從事中
 偶颶風ノ襲來スル處トナリ同技師ノ乗組メル測量艇ハ顛覆ノ難ニ遭ヒ之ガ爲同人ハ遂ニ殉職セリ

七 月

九日 達第九十四號ヲ以テ水路部處務規程中左ノ通追加セララル
 第四條ノ二 水路部ニ於テ餘力アルトキハ海軍部内各廳ヨリ印刷ノ委託ヲ受クルコトヲ得

十日 航空機ノ發達ニ伴ヒ將來航空圖ノ製作ヲ必要トスルコトアルベキニ想到シ金子圖誌科長ハ之ガ試作
 ヲ決意シ「横須賀至東京」圖ノ製作ヲ命ゼリ蓋シ之當部ニ於ケル航空圖製作ノ嚆矢トス

本月日本近海磁針偏差圖ヲ刊成ス、本圖ハ大正元年(明治四十五年)及同二年ニ互リ當部ニ於テ觀測セル
 結果ニ基キ算定調製セルモノニシテ實ニ當部測定ニ係ル斯種圖ノ創刊ナリ

八 月

十八日 上田會計課長丹後主計長ニ轉ジ藤山海軍經理學校主計長當部會計課長ニ兼補セララル
 二十三日 獨逸國ニ對スル宣戰ノ詔勅下ル

齋藤技師ノ
殉職

委託作業ノ
規程設定

航空圖ノ試
作

磁針偏差圖
ノ刊成

課長轉任

對獨逸國宣戰

本月初歐洲ノ風雲漸ク急テ告グルヤ當部作業ハ頓ニ緊張ノ度ヲ加ヘ圖誌作業ニ在リテハ圖誌ノ供給頻繁トナリ殊ニ特種海圖(水路部年報参照)ヲ刊行シテ急需ニ應ズル等暑休ヲ廢シテ殘業執務セリ又測量作業ニ在リテハ朝鮮西岸ニ作業中ノ測量班ハ命ニ依リ豫定作業ヲ中止シ山東方面ニ向フコトトナリ班長富士川中佐以下班員軍艦松江ニ乘組ミ戰地ノ測量ニ從事ス、二十三日當部ハ海軍戰時給與規則施行細則ヲ適用スベキ官衙ト定メラレ當日以後當部勤務員ハ戰時増給ヲ受ク

九 月

一日 藤山會計課長橫須賀鎮守府附ニ轉ジ海軍大主計田村孝次(海軍大學校主計長兼軍醫學校、經理學校、艦型試驗所主計長)當部會計課長ニ兼補セラル

十一日 本日ヨリ執務時間ヲ改メテ午後六時迄トシ、尙各科課ニ於テ事務ニ差支ナキ限り土曜日午後四時

日曜祭日ハ正午以後便宜退廳セシムルコトヲ得ト定ム

十 月

一日 執務時間ヲ平常ニ復シ高等武官ノ宿直ヲ廢ス

十日 田村會計課長特別陸戰隊附ニ轉ジ海軍主計少監花井申海軍大學校主計長兼軍醫學校、艦型試驗所主計長水路部會計課長ニ補セラル

十五日 歐洲大戰ノ餘波ハ漸ク作戰區域ヲ擴大シ帝國艦船ノ行動區域著シク擴張セルニ反シ部版水路圖誌發行區域ノ之ニ伴ハザルヲ遺憾トシ部長江口少將ハ圖誌發行區域ノ擴張ヲ決意シ茲ニ案ヲ具シ部版圖誌ヲ第二區全部ニ及ボシ之ヲ二十一箇年(大正四年三月十九箇年ニ改ム)ノ繼續事業トシテ大正五年度ヨ

課長更迭

執務時間ノ改正

同右

課長更迭

圖誌刊行區域ノ擴張計

リ之ニ要スル豫算並ニ人員ヲ增加相成度儀上申ス

〔註〕 部版圖誌發行區域ノ擴張ニ關シテハ當局ニ於テモ亦之ヲ認ムル處アリシモ差當リテハ特種海圖ノ刊行ニ依リテ急需ニ應ズルコトトシ之ヲ以テ區域擴張ノ階梯トナセリ而シテ豫算人員等ハ大正五年度ニ於テ一部ノ配付増員ヲ見ルコトトナレリ

二十日 曩ニ獨領南洋群島ノ我が占領スル所トナルヤ之ガ測量ノ必要生ジ茲ニ該方面ヲ測量スベキ訓令ニ接シ即チ植賀水路大監以下ヲ以テ測量班ヲ編成シ運送船ニ搭乘シテ本日橫須賀ヲ出發ス

〔註〕 此等ノ測量班員ハ本年度豫定計畫ニ從ヒ夫々千島方面ニ或ハ南西諸島其ノ他ノ各地ニ作業シ九月下旬各業ヲ了ヘテ歸京シタルノミニシテ殆下旅裝ヲ解ク暇ナカリシガ右出測ノ命ヲ受クルヤ各員勇躍作業地ニ向ヒ炎熱未開ノ生地ニ在リテ能ク困苦缺乏ト闘ヒ無事任務ヲ達成シタリ蓋シ我が水路測量史上特筆スベキ事項ナリト謂フベシ

十二 月

一日 部長江口少將馬公要港部司令官ニ補セラレ大湊要港部司令官海軍少將上村經吉水路部長ニ補セラル

事業概況

本年測量ハ第一千島列島幌筵島南部、第二同得撫島、第三朝鮮西岸黑山諸島、第四關東丸作業ニ係ル南西諸島、第五伊勢海三河灣及其ノ附近、第六陸奥海灣、第七清水港ノ七方面ニ分チテ作業ヲ施行シ測量艦ハ前記關東丸ノ外大和、武藏、松江ノ三艦夫々第一第二及第三ノ各方面ノ作業ニ從事セリ而シテ各方面ト

南洋群島ノ測量

部長更迭

事業概況

測量

大正三年

1100

モ概テ豫定作業ヲ完了セシガ第三方面ハ偶日獨開戰ノ爲作戰地域測量ノ命ヲ受ケ八月下旬作業ヲ中止シテ山東方面ニ向ヘリ、又十月下旬ニ至リ獨領南洋群島ノ我が占領ニ歸スルヤ臨時測量班ヲ編成シテ該方面ノ測量ニ從事セシメタリ、上記各地ノ外臨時測量トシテ基隆港口及馬公、鹿兒島灣及野母崎、舞鶴港外ノ補測其ノ他備讃瀬戸及明石海峡ニ於ケル潮流測定ヲ施行セリ
測量綜合成績ハ測得陸面積二、七四八平方哩、同海面積七、八〇一平方哩、同海岸線一、〇九三哩、錘測數一一八、九九八ナリ

圖誌

本年度圖誌作業ニ在リテ特筆スベキハ部版海圖區域ノ擴張ヲ計畫シ差當リ時局ニ應ズル緊急處置トシテ特種海圖ヲ發行シ之ニ伴フ告示並ニ水路誌ヲ刊行シタルコトナリ而シテ此ノ種ニ屬スル圖誌刊行數ハ水路誌八種、海圖四百七十版ニ及ベリ、以上ノ外本年度刊行ニ係ル圖誌ハ書誌ニ在リテハ日本水路誌第一卷第二、改版、東叢島水路誌第二卷（バナイ、ネグロス、セブ、ボホル諸島、ミンドロ島北岸及東岸、マスバ）、水路測量術（元水路部海軍少將井内金太郎、テ、レーテ兩島西岸及南岸、ミンダナオ島北岸及西岸、並スルー、叢島）、水路測量術（測量科長ノ編述ニ係ル）、日本近海ノ潮汐（水路部測量科囑託理學士、小倉伸吉ノ編述ニ係ル）、水路圖誌改補心得追補、水路告示集、航海年表、東洋燈臺表等ニシテ海圖ニ在リテハ新刊十五版改版十六版大改正五十八版合計八十九版ナリ
本年度圖誌ノ受入部數ハ普通海圖七萬千九百六十五枚同書誌四千二十八冊特種海圖三萬九千三百九十八枚同書誌二千四冊ニシテ拂下圖誌ノ部數ハ海圖四萬七千六百九十六枚雜用海圖九千三百二十四枚書誌三千二百冊ナリ

人員

大正三年三月三十一日調現在員ハ高等官二十七名、判任官三十四名、雇員備人百四十四名、合計二百五十五名他ニ臨時備三十二名、總計二百三十七名ナリ

經費

本年度歳出支出額總計三一七、六九三圓ニシテ内二二四、六六三圓ハ經常部ニ屬シ一五、〇〇〇圓ハ臨時部ニ又七八、〇三〇圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、而シテ經常部支出額中測量費ハ八五、五六一圓、圖誌費ハ五二、二六五圓ニシテ臨時部支出額ハ總テ拂下圖誌製造費ナリ

大正四年

一月

昨年五月東京「ガム」間經度電測ノ件上申ニ對シ同年十一月之ガ實施ニ關スル訓令ヲ受領シ爾來諸準備ニ著手シ「ガム」島電信所使用ニ就テハ合衆國政府ノ承認ヲ經テ舊臘當部測量科中野技師及福村技手ノ兩名ヲ同島ニ派遣シ東京ニ在リテハ當部天測室ニ於テ小倉囑託及技生一名測定ニ從事スルコトニ定メ茲ニ準備完成シ即チ本月六日ヨリ觀測ヲ開始シ同月二十日ヲ以テ作業ヲ完了セリ

右觀測ノ成果ハ東京天文臺大子午儀經度綠威東經九時十八分五十八秒七五一（±〇秒五八）ニシテ現時採用ノ經度ヨリ大ナルコト時ニ於テ零秒七二（角ニ於テ十秒八）ヲ得タリ

二月

八日 外國版海圖ノ覆版又ハ外國海圖ニ據リ編纂シタルモノノ標題記事記載例ヲ改ム

「註」右記載例ハ後大正十四年三月之ヲ廢ス

三月

大正四年

1101

東京「ガム」間經度電測

圖誌擴張計
正畫期間ノ改

昨年十月計畫セシ部版水路圖誌發行區域擴張ニ關スル方案中第二區圖誌完成期二十一箇年ヲ十九箇年ニ改ム、之大正三、四年度ニ於テ臨時軍事費作業ニ依リ第一期計畫作業ノ大部分ヲ完成セルヲ以テナリ（大正三年十月ノ記事參照）

四月

艦隊編制中ニ新ニ戰隊、水雷戰隊ヲ加ヘラレタルヲ以テ之ニ伴ヒ水路圖誌供給表ニ改正ヲ行フ

圖誌供給表
ノ改正
特種海圖ノ
貸與

昨年八月以來部版海圖補充ノ目的ヲ以テ發行シ之ヲ部内ニ供給セル特種海圖ハ一般船舶ニ於テモ要望スル向少カラズ由ツテ出願ノ上認許ヲ得タルモノニ限り之ヲ貸與スルコトトセリ

二十日 海軍海圖及雜用海圖ノ定價ヲ改正シ本日ヨリ實施ス即チ海圖大版一圓三十錢、全版八十五錢、

左版五十錢、右版二十五錢、ズ版十五錢、雜用海圖ハ夫々三十錢、二十錢、十錢、五錢、四錢、但シ雜圖（海軍海圖）ノ定價ハ從前通トス

海圖定價ノ
改正

五月

本月ヨリ海圖區域第二區ニ屬スル海圖ハ漸次部版海圖トシテ之ヲ刊行ス

第二區部版
海圖ノ刊行
基準經度確
定ニ關スル
上申

本年一月施行シタル東京「グアム」間經度測量報告書成リ之ヲ提出ス、而シテ此ノ報告書ト共ニ我が國基準經度改正ニ關シ上申スル處アリ即チ本件測量ノ結果東京天文臺大子午儀經度ハ綠威東經九時十八分五十八秒七五（±0.58）ニシテ現今採用ノ經度ト〇秒七以上ノ大差ヲ生ジタルニ就テハ我が基準經度ハ早晚改正ノ必要アリ且前記ノ通告正然ルベキガ如シト雖モ本件ノ如キ其ノ關係スル處極メテ廣クシテ其ノ決定ハ最モ慎重ナラザルベカラザルモノニシテ此ノ上尙多少調査研究ノ餘地アリトナシ、本測量主任官タリ

シ中野技師ノ意見書（東京上海間及東京浦鹽間經度測量ノ實施ニ依リ基準經度確定ヲ要ス）ヲ添ヘテ之ヲ提出ス

「註」越エテ七月測地學委員會委員長田中館博士ハ東京上海間及東京浦鹽間經度測量ニ關スル建議案ヲ海軍大臣宛提出シ當局ニ於テモ此等ノ議ヲ容レ翌五年十月東京浦鹽間經度測量實施ニ關スル訓令ノ發布ヲ見ルニ至レリ、斯クテ同年十一月該測量ヲ實施ス

海圖用紙
（高砂紙）
ノ納入

海圖用紙ハ從來「ケント」紙ト鳳凰紙トヲ混用セシガ後者ハ紙質ノ脆弱ナルト大量生産ノ不可能ナルトノ缺點ヲ有シ前者ハ有事ニ際シ供給杜絶スルコトアルベキヲ憂ヒ之ガ自給自足ノ計畫ヲ立テ兵庫縣高砂町三菱製紙會社ニ命ジテ製作ニ當ラシメ本月二十九日其ノ第一回ノ納入ヲ見タリ（此ノ用紙ハ會社所在地名ニ因ミテ高砂紙ト通稱シ以テ今日ニ至ル）

六月

從來當部ノ寫真亞鉛版ノ製版法ニハ紙燒法ヲ採リ來リシモ當部圖誌科技生松島德三郎ハ亞鉛直寫法ノ極メテ有利ナルニ着目シ銳意研究ノ結果遂ニ之ヲ大成セリ、此ノ法ハ當部寫真亞鉛版作業ニ裨益スルコト尠カラズ因リテ獎勵ノ爲同技生ニ對シ海軍省ヨリ金五十圓ヲ賞與サレタリ

亞鉛直寫法
ノ完成

八月

三日 北海北面ノ測量ニ對シ本年ハ軍艦大和、武藏ヲ以テ南北二班ニ分チ配置セラレタルモ來年度ヨリ施行豫定ノ區域ニ對シテハ大正二年五月水第三四一號上申ノ通大型測量艦（船）ヲ配置サルル様取計ハレ度旨其ノ筋ニ協議ス（大正二年五月ノ記事參照）

北海方面測
量艦配置ノ
件

大正四年

1104

海圖記載事項ノ改正

五日 海圖内容ノ充實ヲ期センガ爲比較的重要ナラザル事項ハ圖上ヨリ之ヲ削除スルノ方針ヲ採リ左記各號ノ通實施ノコトニ定ム

一、海圖表題記事中底質略號ハ記載セズ

二、欄外記事中左ノモノハ記載セズ

(イ) 販賣所ニ關スル記事

(ロ) 英文小改正年月

(ハ) 英文刊行年月及大改正年月

三、漸長圖ニ於テ經度ニ關スル記事ハ左例ノ如ク簡單トス

綠威東經 (東京天文臺 139° 44' 30" E = 基ク) Longitude East from Greenwich

但シ小尺度ノ圖ハ括弧内ノ記事ヲ省略スルコトアリ

十一月

二日 當部發行ニ係ル歐文告示ハ之ガ發行ノ動機ヲ詳カニセズト雖モ明治二十一年英國公使館ニ於テ同國

東洋艦隊用トシテ水路告示ノ英譯ヲ依囑シ來リシニ因由スルモノノ如ク爾來各國之ニ倣ヒ外國公使館

宛送付ノモノハ之ヲ英譯シ來リシモ人員及經費ノ關係上今後之ヲ廢止センコトヲ企圖セシガ當局ニ於テ

ハ未ダ其ノ時機ニアラズトノ意見ナリシヲ以テ從前通發行ノコトトセリ

〔註〕 本件ハ後大正七年ニ至リ之ヲ廢止ス

十四日 圖誌科内技術ニ關スル掛ハ製圖、製版、彫刻及印刷ニ四分シアリシガ本日以後彫刻掛ハ之ヲ製版

歐文告示廢止ノ企圖

彫刻掛ヲ製版掛ニ合併

記念植樹

掛ニ合併ス

本月十日御即位ノ大典ヲ舉ゲラレ當部ニ於テハ同月二十九日御大典記念トシテ植樹式ヲ行フ (構内ニ銀杏

苗木百本ヲ植樹ス)

十二月

十三日 部長上村少將待命仰付ケラレ海軍少將釜屋六郎水路部長ニ補セラレ

同日測量科長小黑大佐海軍少將ニ任ゼラレ待命仰付ケラレ海軍大佐丸橋彦三郎測量科長ニ補セラレ

十六日 當部版海圖ニ對シテハ種類、級別、尺度等ニ就テ一定ノ標準ナク區々ニ涉リ不便尠カラザルヲ以

テ今後作製スベキ海圖ニ對シ執ルベキ標準ヲ左ノ如ク定メタリ (詳細ハ大正四年水路部年報ヲ見ルベシ)

(甲) 海圖ノ種類

海圖ヲ其ノ内容ヨリ體別シテ左ノ三種トス

(イ) 全整圖

(ロ) 適用圖

(ハ) 概測圖

又圖法ヨリ分類シテ左ノ四種トス

(イ) 漸長圖

(ロ) 平面圖

(ハ) 多圓錐圖

海圖ノ種類、級別、尺度等標準ノ制定

部長科長更迭

大正四年

1105

- (一) 投影圖
- (乙) 海圖ノ級別
 - (イ) 總圖
 - (ロ) 航洋圖
 - (ハ) 航海圖
 - (ニ) 海岸圖
 - (ホ) 港泊圖
- (丙) 海圖ノ尺度
 - (イ) 總圖 適宜但シ航洋圖ヨリモ小尺度
 - (ロ) 航洋圖 一哩ニ付約〇・〇三吋
 - (ハ) 航海圖 一哩ニ付約〇・一六吋
 - (ニ) 海岸圖 一哩ニ付約〇・五〇吋
 - (ホ) 港泊圖 一哩ニ付自約一・〇〇吋至約八・〇〇吋
- (丁) 漸長ノ程度

漸長圖法應用ノ程度ハ凡ソ左ノ標準ニ據ル

 - (イ) 總圖 尺度ニ依リ程度ヲ定ム
 - (ロ) 航洋圖 每一度漸長

- (ハ) 航海圖 每三十分漸長
- (ニ) 海岸圖 每三十分、每二十分、每十分漸長
- (戊) 圖積

圖積ハ左ノ標準ニ依ル

稱呼 寸 法

大版	全版以上ノ圖積ノモノ
全版	漸長圖 37.4 × 24.4 平面圖 38.0 × 25.0
二分一版	漸長圖 24.5 × 17.5 平面圖 25.0 × 18.0
四分一版	漸長圖 18.1 × 11.6 平面圖 18.5 × 12.0

事業概況

測量

事業概況
 本年測量ハ第一方面千島列島溫禰古丹島附近、第二方面同列島得撫島附近、第三方面東京海灣、第四方面大村灣、第五方面先島群島尖頭諸嶼、第六方面朝鮮巨濟島附近、第七方面大連灣ノ各地ニ於テ施行セシ外昨年未ヨリ繼續セル事件關係作業タル南洋群島及膠州灣方面ノ測量ニ從事セリ、測量艦ハ大和、武藏、熊野丸及松江ノ四艦ニシテ大和、武藏ハ千島方面、熊野丸ハ第五方面、松江ハ南洋群島方面及膠州灣ノ測量ニ從事セリ

測量綜合成績ハ測得陸面積三、九五七平方哩、同海面積六、九六二平方哩、同海岸線一、七〇三哩、錘測數一七九、三〇三ナリ

大正四年

二〇八

圖誌作業ニ於テ實施シタル主ナル事項ハ 第一昨年八月日獨戰役開始以來着手シタル特種海圖ノ刊行、第二部版海圖ノ整理、第三圖誌編纂資料ノ選擇、第四基本圖式寫真銅版及寫真石版ノ採用、第五製版法ノ改良(亞鉛直寫法ノ完成、彫刻銅版形付法ノ改良、銅版ヨリ亞鉛版轉寫法ノ成功)、第六海圖原版トシテ亞鉛版ノ採用、第七二版制ノ採用、第八海軍航空圖ノ調製、第九海圖用紙ノ改良、第十海軍海圖及雜用海圖ノ定價改正、第十一誌類編纂(イ)水路誌附録ノ編纂準備(ロ)雜書ノ整理(ハ)第一區海圖區域外ノ水路告示等ニシテ此等ノ詳細ニ關シテハ大正四年水路部年報ニ記載シアルヲ以テ此處ニハ省略ス

本年度刊行ニ係ル書誌ハ支那沿岸水路誌第一卷(總記、珠江一名廣東河及珠江、西江間ノ諸水道、香港及附近諸島、フオーカイノ角至廈門港)、支那沿岸水路誌第三卷(揚子江以北支那沿岸)、水路報道第九十九號、水路圖誌取扱心得、大正三年水路告示集其ノ他艦船ノ航海報告、東洋燈臺表、航海年表等ニシテ海圖ハ新刊十八版改版八版大改正四十七版計七十三版ノ外特種海圖六百九十三版ナリ而シテ圖誌ノ受入部數ハ普通海圖二萬九千五百三十五枚同書誌受込七千一百一冊特種海圖受込六千七百四枚、拂下海圖六萬三千五百八十六枚(內雜用海圖一萬三百七十六枚)同書誌四千三百四十五冊ナリ

人員 經費

大正四年三月三十一日調現在員ハ高等官二十四名、判任官三十三名、雇員備人百五十四名、合計二百一十一名他ニ臨時備五十六名、總計二百六十七名ナリ

本年度歳出支出額總計二八八、五二七圓ニシテ内二一七、六六五圓ハ經常部ニ屬シ二〇、〇〇〇圓ハ臨時部ニ又五〇、八六二圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、而シテ經常部支出額中測量費ハ金八七、一八七圓ニシテ圖誌費ハ金四七、七二六圓ナリ又臨時部支出額ハ總テ拂下圖誌製造費ニ屬ス

大正五年

二月

昨年來常部刊行雜書ノ整理ニ着手中ノ處本月左記冊子ヲ合セ尙其ノ他ノ資料ヨリ補足シテ「水路圖誌取扱心得」ヲ編纂刊行ス

水路圖誌改補心得第一改版 大正二年十月

右 同 追補 大正三年十月

圖誌地名記法 明治三十六年五月

水路記事教則 明治三十六年六月

二十六日 軍艦滿州ヲ測量艦ト定メラル、同艦ハ三月伊勢灣外ノ鍾測次テ房總半島方面沖合ノ海流測量及其ノ他ノ作業ニ從事ス蓋シ之滿州ノ測量任務ニ就キシ初ナリ

三月

二日 「水路部刊行海軍海圖式」ヲ刊行ス、之襲ニ明治四十年發行ニ係ル「日本海軍海圖式」ヲ加除訂正シタルモノナリ而シテ従前ノ圖式ハ圖積四分一ナリシガ今回之ヲ二分一ニ擴大セリ

四月

一日 當部定員外トシテ中少佐大尉二名上等筆記一名ヲ臨時増置セラル之圖誌刊行區域擴張ノ爲ナリ

大正五年

二〇九

水路圖誌取扱心得ノ刊

軍艦滿州ノ測量艦就役

海圖式ノ改正

臨時増置

大正五年

110

暴風標ノ名稱改正

五 月
九日 從來慣用シ來レル「暴風標」ナル名稱ハ「暴風雨標」ト彼此混淆シ錯誤ヲ生ジ易キ虞アルヲ以テ自今「地方暴風標」ト改稱シ其ノ旨告示ス

職員ノ増加

十一日 圖誌科勤務海軍技手山本元吉海軍技師ニ任ジ海軍技術本部部員兼水路部圖誌科科員ニ補セラル、同日同科技生泉三之助海軍技手ニ任ジ海軍艦政本部附兼水路部附ヲ命ゼラル此等兩名ノ任官補職ハ曩ニ本年四月定員外ヲ置カレシト同一ノ理由ニ因ルモノニシテ本年度ヨリ着手スベキ圖誌刊行區域擴張ニ要スル人員ナリ

水路誌附録ノ刊行

六 月
軍港、要港、商港等ノ港則及信號規程類ハ各水路誌ノ關係箇所ニ記載シアルモ斯クテハ取扱上ノ不便少カラザルヲ以テ此等ノ規則規程類ヲ別ニ輯集スルノ方針ヲ定メ昨年來之ガ準備ニ着手シ茲ニ其ノ内日本領土及租借地ニ關係スル部分ヲ「水路誌附録第一卷」トシテ發行ス之此ノ種書誌ノ創刊ナリ

課長更迭

十九日 花井會計課長生駒主計長ニ轉ジ海軍大主計神代興三同課長ニ補セラル

定員増加

七 月
十五日 當部定員ヲ改正セラレ測量科科員「九」ヲ「十二」ニ、圖誌科科員「六」ヲ「八」ニ増員八月一日ヨリ實施セラル、測量科科員ノ増員ハ測量區域ノ擴張セル結果ニシテ圖誌科科員ヲ増サレタルハ本年四月及五月ニ増置セラレシト同一理由ニ因ル

九 月

紙焼場ノ新設

二十一日 紙焼場ノ新設成リ自今紙屑類ハ總テ此ノ燒場ニテ燒却スルコトニ定メ機密保持上遺憾ナキヲ期ス

伊東教授囑託

十 月
一日 當部寫眞製版作業ハ尙改良進歩ノ餘地大ナルモノアルニ鑑ミ之ガ研究指導ノ爲東京美術學校教授伊東亮次ヲ當部囑託トス

十六日 大正四年八月五日告達事項中經度記入方左ノ通改ム

Longitude East from Greenwich (東京天文臺 139° 44' 30" E = 基ク) 經度威線

東京浦鹽間經度電測ノ訓令

二十四日 官房第一六三〇號ノ四ヲ以テ東京天文臺經度確定ノ爲水路部ニ於テ東京浦鹽斯德間經度測定ヲ施行スベキ旨訓令セララル
當部ハ右訓令ニ基キ本月下旬中野技師及隅野技手ヲ浦鹽ニ派遣シ本年十一月ニ於テ長崎浦鹽間次デ登大正六年一、二月ノ交長崎東京間ノ經度測定ヲ實施シ訓令作業ヲ終ル

十二 月

部長更迭
長崎浦鹽間經度電測終了

一日 部長釜屋少將朝鮮總督府附武官ニ轉ジ海軍少將布目滿造水路部長ニ補セラル
十五日 曩ニ準備ニ着手セシ長崎浦鹽斯德間經度電測ハ十一月二十五日作業ヲ開始シ本日ヲ以テ終了ス
(大正六年二月ノ記事參照)

事業概況
測量

事業概況
本年測量作業ハ第一方面千島列島春牟古丹島及捨子古丹島、第二方面同列島知里保以島及新知島南西部附

大正五年

111

大正五年

一一一

近、第三方面東京海灣南部、第四方面佐世保、第五方面鹿兒島海灣、第六方面朝鮮南海島附近ニ於テ施行セシ外軍艦滿州ノ房總半島及常陸沖合海流測量及其ノ他ノ作業、備瀨瀬戸潮流測量、布良經度測量及事件第一、第二(長崎浦鹽間ノ經度電測)ノ諸作業ヲ實施セリ而シテ測量艦ハ前記滿州ノ外大和、武藏、松江ノ三艦ニシテ夫々第一、第二方面及事件第一ノ測量ニ從事セリ
測量綜合成績ハ測得陸面積一、五二九平方哩、同海面積三七、一八三平方哩、同海岸線一、二七九哩、鍾測數一四三、八四〇ナリ

圖誌

本年圖誌作業中主ナル事項ハ前年度ニ於テ承認ヲ得タル第二區水路圖誌擴張作業、日本水路誌書名ノ變更、水路誌附録ノ刊行、水路告示附録ノ部内發行、水路誌類字詰ノ變更、航海年表ノ分卷刊行、編纂部ノ分課改變竝ニ佛獨掛ノ増置、水路圖誌供給表貸與品表ノ改正、技術研究部ノ新設等ニシテ此等ノ細目ニ關シテハ大正五年水路部年報ニ詳記シアルヲ以テ本書ニハ之ヲ省略ス

本年度ニ於ケル刊行圖誌ハ日本水路誌第二卷上追補第一、水路誌附録第一卷、同第二卷、日本水路誌第四卷、同第五卷、揚子江水路誌第一卷揚子江口、至漢口、地中海方面ニ關スル水路誌、水路報道第百號、艦船航海報告ノ類、水路部沿革史、東洋燈臺表、航海年表等及海圖新刊二十三版改版八版大改正二十七版合計五十八版、特種海圖三百八十四版ナリ而シテ圖誌ノ受入部數ハ普通書誌八千七百四十七冊同海圖六萬九千二百一枚特種書誌七百六十八冊同海圖三萬六千二百六枚ニシテ拂下書誌ノ部數ハ七千七百九十五冊同海圖數ハ十一萬七千三十枚(内雜用海圖七千四百一十一枚)ナリ

人員

大正五年三月三十一日調現在員ハ高等官二十七名、判任官三十七名、雇員備人百八十二名、合計二百四十六名

經費

六名他ニ臨時備人八十名、總計三百二十六名ナリ
本年度歳出額總計三一〇、七九七圓ニシテ内二三九、〇八八圓ハ經常部ニ屬シ四三、〇〇〇圓ハ臨時部ニ屬シ八、七〇九圓ハ臨時軍事費ニ屬ス而シテ經常部水路費ハ一五六、七六一圓(内測量費八七、四二九圓、圖誌費六三、〇七〇圓)ニシテ前年度ニ比シ金一萬六千五百餘圓ノ増加アリタルハ即チ部版圖誌發行區域擴張ニ要スル圖誌費ノ増額及之ニ伴フ雜費ノ増加アリタルニ基ク又臨時部ニ在リテ拂下圖誌製造費ハ金二萬圓ニシテ前年度ニ比シ増減ナシト雖モ船舶運輸激増ノ結果ニ要スル海圖及水路誌ノ供給多カリシ爲新ニ大正三年臨時事件費ノ款項追加セラレ拂下圖誌製造費豫算金二萬三千圓ノ増額ヲ見タリ

大正六年

二月

五日 曩ニ明治四十年十二月港泊圖ニ米尺度記入ノコトニ定メ實施シ來リタル處自今尺度〇・二五吋以上ノ海圖ニモ之ヲ記入スルコトニ改ム、同日海圖上記載ノ羅針儀ヲ改メ從來眞方位ト磁針方位トノ兩者使用上混同シ易カリシ缺點ヲ除去セリ

東京浦鹽斯德間經度測量事業ハ昨年末其ノ一部タル長崎浦鹽間ノ作業ヲ終リ本年一月十五日ヨリ其ノ殘部作業タル長崎東京間ノ電測ヲ開始シ本月二十一日ヲ以テ了リ茲ニ本事業ヲ完了ス(詳細ハ水路部報告第一冊「東京天文臺ノ經度決定」ヲ見ルベシ)

大正六年

一一三

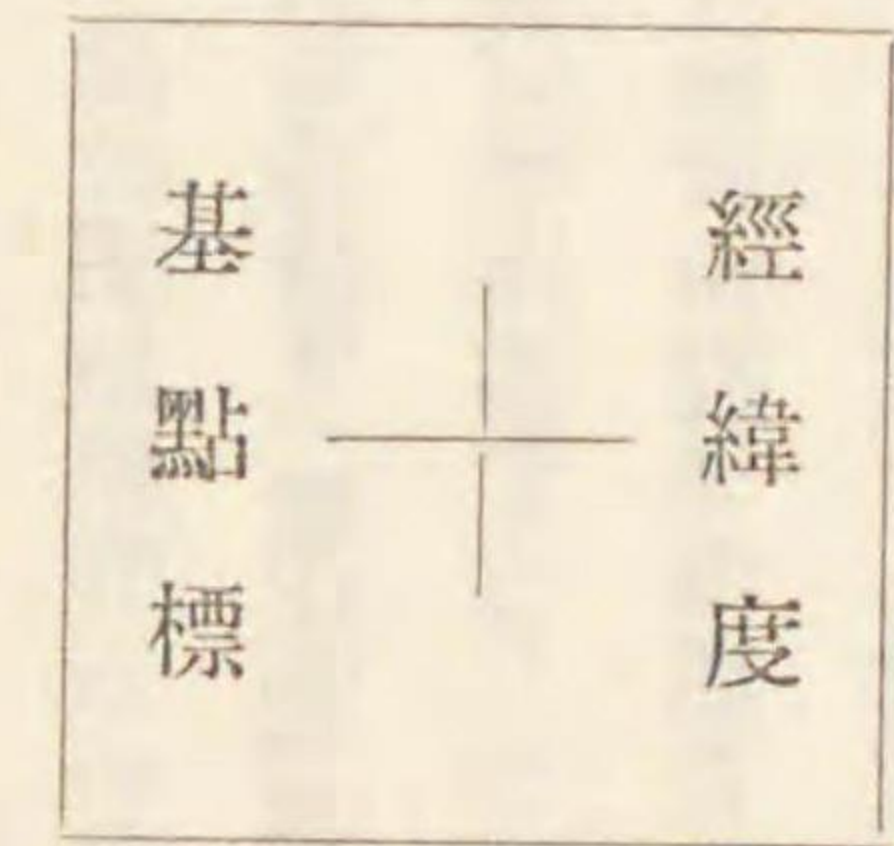
東京浦鹽間
了經度電測完

海圖上記載
事項ノ改正

右經度測量ノ結果ハ東京天文臺經度東經九時十八分五十八秒六五七(±0秒一〇)ニシテ之ヲ先年測得ニ係ル東京「グアム」間經度測量ノ結果ト比較スルニ其ノ差僅ニ〇秒〇九四ニシテ兩測定公算誤差ヨリ之ヲ許容シ得ベキ量ナリトス、斯クシテ西方西比利亞經由及東方米國經由ノ兩經度連絡ハ東京ニ到達シ兩者ノ平均値ヲ求メ東京天文臺子午儀經度東經九時十八分五十八秒七二七(±0秒〇五〇)ヲ得タリ、此ノ經度値ハ即チ我ガ國基準經度トシテ採用スベキモノニシテ後大正七年九月文部省告示ヲ以テ之ガ決定ヲ見ルニ至レリ(大正七年九月ノ記事參照)

因ニ大正四年及今回施行セル經度測量ノ東京ニ於ケル地點ハ舊水路部天測室ニシテ現今東京市中央卸賣市場入口附近街路交叉點ノ略中央ニ位ス、當部ハ此ノ記念スベキ地點ノ保存ヲ企圖シ東京市ト相謀リ該地點路面ニ標識ヲ設置シ且水路部副官官舎圍壁ノ外側ニ之ガ由來書ヲ刻記セリ

經緯度基點標由來



此ノ附近一帶ハ元海軍用地ニシテ此ノ場所ノ東方約三十五米、街路交叉點中央路面ノ標識ハ水路部構内天測室ニ設置セシ子午儀測臺ノ位置ヲ示シ、北緯三十五度三十九分三十七秒八東經百三十九度四十六分十五秒六ニ在リ、大正四年乃至六年其ノ測臺ニ據リ經緯度精測ノ結果從前稱ヘラレタル我ガ國經度二十秒餘ノ誤差アルヲ發見シテ測地學上貴重ナル貢獻ヲナセシ由緒アル地點トス、道路開設ニ當リ其ノ跡ヲ保存シ且茲ニ其ノ由來ヲ誌ス

昭和八年十二月

東京市

水路部

四月

課長更迭
膠州ノ就役

一日 海軍主計少監齋藤勝助水路部會計課長ニ補セラレ神代大主計水路部會計課長ノ兼職ヲ免ゼラル
此ノ日特務艦膠州ヲ測量艦ト定メラレ同艦ハ本年測量方面タル大東島近海及其ノ他ノ測量ニ從事スルコトトナレリ蓋シ之同艦ノ測量任務就役ノ初ナリ

五月

仁川觀測所
ニ磁氣觀測
ノ依頼

二日 本邦各地ニ於ケル磁氣要素ノ連續測定ハ豫テ當部ノ希望セシ處ナリシガ偶朝鮮總督府仁川觀測所ニ於テ磁氣測定ノ計畫アルヲ聞知シ茲ニ關係各部ニ交渉ノ結果同所ニ磁氣要素ノ測定ヲ依頼スルコトトナレリ

「註」 仁川觀測所ト磁氣測定ニ關スル交渉ハ此處ニ始マルト雖モ諸種ノ關係ヨリ實際其ノ該測定報告ヲ得シハ大正十年ニシテ其ノ後一時缺測アリシガ大正十五年三月ニ至リ三要素ノ觀測ヲ依囑スルニ及ビテヨリ爾來今日迄之ガ報告ヲ受ケ居レリ

六月

海圖上燈臺
着色ニ橙黃
色ノ採用

七日 海圖上燈臺ノ位置ハ從來朱點ヲ施シ其ノ周圍ヲ黃色ニ着色シテ之ヲ明示シタルモ朱點ハ燈臺ノ正位置ヲ不明ナラシムルノミナラズ二種ノ着色ハ印刷上手數ヲ要スルノ不利アリ且歐米ノ海圖モ近年單色ニ改メタルヲ以テ茲ニ當部ニ在リテモ橙黃ノ單色ヲ選定シ燈臺ノ正位ヲ標示スルコト現海圖式ノ如ク改メテ一層明瞭ナル如クセリ蓋シ橙黃色ハ晝夜ヲ通ジ識別最モ明瞭ナルヲ以テナリ

大正六年

大正六年

二一六

曩ニ明治四十四年水路告示集ヲ刊行シテ以來既ニ六年ヲ經過セルモ其ノ効果ハ期待ニ副ハザルモノ多カリシテ以テ之ヲ廢止スルコトニ定ム即チ本月發行ニ係ル大正五年水路告示集ヲ最後トシテ其ノ發行ヲ停止ス而シテ水路告示ノ保存期限ハ之ヲ十箇年ト定メタリ蓋シ水路圖誌ハ十箇年ヲ以テ一新スルノ方針ニ基クモノナレバナリ

八月

二十日 齋藤會計課長吳海軍經理部課員ニ轉ジ神代海軍大學校主計長再ビ當部會計課長ニ兼補セラレ

十月

一日 夜半ヨリ東京地方ハ大暴風雨ノ襲フ所トナリ當部被害亦相當ニ大ニシテ寫真室其ノ他ノ窓硝子破損シ器具機械類ヲ損傷ス

三十日 水路部從業員共濟會設立ニ關スル登記ヲ完了シ茲ニ當部從業員ニ對スル完全ナル救濟機關ヲ得タルハ當部沿革史上特筆スベキ事項ナリトス、之ヨリ先本年三月之ガ設立ヲ企畫スルヤ當部ニ關係アル船舶竝ニ海運業者ノ此ノ企圖ニ贊助シ寄附金ノ申出ヲ爲シタルモノアルヲ以テ寄附金受領方テ上申シタルニ八月一日認許ヲ得次テ水路部從業員共濟會寄附行爲ニ基ク財團法人設立ノ件上申ニ對シ同年十月二十日認許セラレ茲ニ初メテ其ノ設立ヲ見ルニ至レリ

十一月

水路部報告第一冊「東京天文臺ノ經度決定」(英文)ヲ出版ス、此ノ書ハ曩ニ當部ニ於テ施行シタル東京「ゲーム」間竝ニ東京浦鹽斯德間經度測量ノ報告書ニシテ中野海軍技師編述ニ係ル

十二月

一日 圖誌科長金子大佐海軍少將ニ任ジ待命仰付ケラレ海軍大佐岡村秀二郎圖誌科長ニ補セラレ本月北太平洋氣象圖(一月分)及北太平洋海流圖ヲ刊行ス、前者ハ主トシテ一八八二年ヨリ一九一七年ニ至ル三十六年間ノ帝國艦船ノ氣象通報ヲ基礎トシ且中央氣象臺、馬尼刺氣象臺及米獨水路部ノ刊行物ヲ參照シ月別ニ編纂セルモノノ第一圖ニシテ後者ハ主トシテ一八九一年ヨリ一九一六年ニ至ル二十六年間ノ帝國艦船ノ諸報告ニ基キ四季別ニ編纂セルモノノ冬季圖ナリ、而シテ此等兩圖ハ曩ニ大正二年當部刊行ニ係ル日本近海氣象圖ト共ニ斯種圖誌ノ先驅ヲ爲スモノト謂フベシ

測量

本年測量ハ第一方面鎮海馬山浦及釜山附近、第二方面下關海峽附近ノ改測及潮流測量、第三方面千島列島新知島及計吐夷島附近、第四方面同列島羅處和、松輪島附近、第五方面大東島、第六方面三崎瀬戸附近改測、第七方面測量艦滿州ノ臺灣堆ノ錘測其ノ他探礁及洋中錘測、第八方面千島列島占守島磁氣測量及同列島松輪島經緯度測量、第九方面釜山及下關兩地ノ經緯度測量ノ外臨時出測ハ佐世保港外ノ探礁、事件方面測量艦松江ノ事業之ナリ、測量艦ハ前記滿州、松江ノ外武藏、大和及膠州ノ三艦ニシテ夫々第三第四及第五ノ各方面ノ測量ニ從事セリ

測量綜合成績ハ陸面積五四三平方哩、海面積七、八三七平方哩、海岸線八四九哩、錘測數一一八、五六六ナリ茲ニ當部測量事業上特筆スベキハ本年千島列島及大東島ニ於ケル測量ヲ以テ本邦領土全沿岸ノ測量ヲ完成シタルコト之ナリ

大正六年

二一七

大正六年

二一八

圖誌作業ニ於テ實施シタル主ナル事項ハ (一) 航海年表ヲ改正シテ大正七年度分ヨリ上卷ニ於テ新ニ惑星ノ視半徑及地平視差ヲ掲ゲ下卷ニ於テ拂曉表ノ新掲及潮信表報時信號等ヲ增補訂正シタルコト (二) 燈臺著色ノ變更 (本年六月ノ記事參照) (三) 航海報告摘録ヲ發行シテ艦船ヨリノ航海報告中必要事項ヲ成ルベク速ニ艦船ニ配付テ期シタルコト (四) 水路告示集ノ廢止 (本年六月ノ記事參照) (五) 水路告示資料ニ佛國及蘭國水路告示ノ採用 (六) 水路誌製本法ヲ改良シテ之ヲ綴込式ト爲シタルコト等ナリ、本年度刊行ニ係ル書誌ハ日本水路誌第一卷 (總記、本洲南岸、四國南岸、九州東岸)、支那海東側水路誌第二卷 (支那海東部、巴拉ワ、揚子江水路誌第二卷 中揚子江、鄱陽湖內部、同第三卷 上揚子江、宜、東叢島水路誌第四卷 Mindanao 北東岸、東及洞庭湖並漢口至宜昌 岸、南岸 (Celebes Sea 間) Celebes 北岸及 Borneo 東岸一部、日本水路誌第七卷追補第一、水路誌附錄第一卷追補第一、同第二卷追補第一、水路報道 第百一號、自大正元年 濠洲方面航海報告集、大正 五年 水路告示集、其ノ他航海年表東洋燈臺表等ニシテ海圖ハ新刊二十九版改版十五版大改正二十版合計六十四版、特種海圖ハ四十二版ヲ刊行セリ

圖誌ノ受入部數ハ普通海圖八萬三千九百三十五枚同書誌一萬四百十五冊同特種海圖一萬九千四百四十一枚拂下海圖十萬八千四十一枚 (雜用海圖五千八十七枚ヲ含ム) 同書誌一萬五百五十九冊ナリ

大正六年三月三十一日調現在員ハ高等官三十名 (內兼務二名)、判任官三十九名、雇員備人二百二十二名、合計二百九十一名他ニ臨時備七十名、總計三百六十一名ナリ

本年度歲出支額總計三三九、六九二圓內二四八、七二二圓ハ經常部ニ屬シ四九、二八八圓ハ臨時部ニ、四一、六八〇圓ハ臨時軍事費ニ屬ス而シテ經常部支額中水路費ハ一五八、一八七圓 (內測量費八七、三九五圓、圖誌費六四、四六三圓) ニシテ臨時部支額中四七、〇〇〇圓ハ拂下圖誌製造費ナリ

本年度ニ於ケル新營及修繕工事中主ナルモノ左記ノ如シ

- 一、渡廊下新營二箇所 (圖誌科第一號倉庫ヨリ印刷掛ニ通ズルモノ) 及印刷掛ヨリ亞鉛版修正室ニ通ズルモノ)
- 二、物置新營 (測量科ニ屬スルモノ)
- 三、使丁室湯沸竈改造

大正七年

二月

從來各國大使館ヲ經由シテ當該國官憲ヘ送付シツツアリシ歐文水路告示ハ之ヲ廢止シ本月ヨリ邦文ノ水路告示ヲ送付スルコトニ改ム (大正四年十一月ノ記事參照)

二十七日 海圖上ニ記載スル文字其ノ他ノ事項ニ付改良ヲ施シ製圖、製版能力ノ増進ヲ期ス、之畢竟事業繁多ナルニヨリ重要程度大ナラザルモノヲ省略シ事業ノ進捗ヲ計ランガ爲ニ外ナラズ、詳細ハ大正六年水路部年報ニ記載シアリ就テ見ルベシ、此ノ改正ニヨリ測量出所ノ記事ヲ簡單トナシ測量官ノ氏名ハ之ヲ圖載セザルコトトナレリ

三月

十四日 水第一九六號ヲ以テ水路測量用船頭船夫等ハ官役人夫備入ノ方法ニ據リ採用方上申ノ處茲ニ認許

大正七年

二一九

大正七年

1110

ヲ得タリ

四月

定員増加
科員ノ歐米
出張

一日 當部定員中圖誌科ノ部科員「八」ヲ「九」ニ計ノ部「三〇」ヲ「三一」ニ改メラル

八日 圖誌科科員海軍少佐志和爲於菟水路事業視察ノ爲歐米各國出張仰付ケラレ五月初出發六箇月ノ期間ヲ以テ英、米、佛、伊ノ各國ヲ巡視セリ其ノ視察事項ノ大要左ノ如シ

部長御前講
演
特命檢閱

一、圖誌製版印刷ニ關スルコト 二、圖誌編纂資料選擇狀況 三、私設製版印刷工場並ニ製圖用製紙工場ノ狀況 四、水路部ノ制度ニ關スルコト 五、航海術測量術ノ進歩及其ノ程度 六、測量製圖用器具機械ノ發達並ニ取扱等 七、氣象海流等ノ調査ニ關スルコト 八、圖誌製造材料及同拂下ニ關スルコト

十二日 部長布目少將本日及五月十日ノ二回ニ互リ「水路事業ニ就テ」御前講演ノ光榮ヲ擔フ

十六日 特命檢閱使海軍大將吉松茂太郎當部ノ檢閱ヲ施行セラル

五月

三日 達第六十四號ヲ以テ判任官以下臨時手當支給規則ヲ發布セラル之諸物價騰貴ノ結果ナリ

六月

上等兵曹ノ
臨時増置

十八日 大正五年四月當部臨時定員トシテ上等筆記ヲ置カレタル處之ヲ廢シ上等兵曹一名ヲ臨時増置セラ

七月

三十一日 達第一二六號ヲ以テ當部勤務軍人軍屬ノ父母妻子ニシテ診斷ヲ願出ヅル者ニ對シテハ海軍造兵

廠軍醫官ノ診斷ヲ受クルコトヲ得ル旨達セラル

八月

二十一日 官房第二八五七號ニ據リ當部勤務者中職務繁劇ノ者ニ限リ當分ノ間退廳時限後二時間以上服務スルコトニ定ム蓋シ本月初西比利亞出兵事件勃發ノ爲作業多忙トナリシ結果ニ外ナラズ又此ノ事件ノ爲當部ニ服務スル軍人ハ大正七年八月ヨリ起算シ大正三年十一月十日陸海軍省告示第二項後段ニヨリ從軍年ヲ加算セラルコトナレリ

二十二日 大臣訓令ニ基キ測量科科員門司海軍少佐外七名ヲ以テ臨時測量班ヲ編制シ事件方面ノ測量ニ從事セシム、即チ同班ハ運送船高崎ニ乗組ミ測地ニ向ヒ八月三十日ヨリ十月十七日ニ至ル期間間宮海峽方面ノ測量ニ從事セリ

九月

基本經度ノ
改正

十九日 曩ニ當部ニ於テ測定セル東京天文臺經度ハ其ノ後關係各部協議ノ結果本日附文部省告示ヲ以テ左ノ如ク發布セラレタリ

文部省告示號外

自今在東京市麻布區飯倉町東京天文臺大子午儀ノ中心ノ經度ノ値トシテ正ノ百三十九度四十四分四十分秒九ヲ採用ス

本邦ニ於ケル經度ハ自今前項ノ値ニ據リ之ヲ定ムルモノトス

大正七年九月十九日

文部大臣

大正七年

1111

海軍大臣
陸軍大臣

因ニ從來ノ我ガ國基本經度ハ海軍觀象臺ノ測定値ニ係リ明治十九年七月勅令第五十一號ヲ以テ公布ノ手續ヲ執ラレシガ今回ハ文部省告示ニ據ラレタリ蓋シ本件主管ハ文部省ニ屬スルガ故ニシテ其ノ陸海軍大臣ノ連署ヲ見タルハ各省之ニ關係ヲ有スレバナリ

右改正ニヨリ當部刊行圖誌中ニアル經度ノ基本トシテ記載ノ東京天文臺經度東經百三十九度四十四分三十秒(三十秒三)ヲ自今東經百三十九度四十四分四十一秒(四十秒九)ニ改メ左ノ如ク處理ス

一、海圖ハ同時ニ之ガ改訂ヲ實施シ難キヲ以テ今後ノ新刊改版等ノ度毎ニ之ヲ改正スルコトトシ改正ノ分ハ圖誌目錄ニ◎符ヲ附シテ之ガ區別ヲ明ニセリ

二、東洋燈臺表ハ本年刊行ノ分ヨリ之ヲ改訂セリ

三、水路告示中關係海圖及經度ヲ示ス場合ニ於テ改訂セル海圖及經度ニハ◎符ヲ附シテ其ノ區分ヲ明ニセリ

水路部報告
第二册ノ刊
行

本月水路部報告第二册「大正元、二年磁氣測量報告」(英文)ヲ刊行ス、本書ハ曩ニ當部初メテノ作業トシテ施行セル全國ニ亙ル磁氣測量ノ結果ヲ取纏メタルモノニ香港、除家滙觀測所等ノ永年記錄及米國「カーネギー」協會地球磁氣學部ノ木船「カーネギー」ニ於テ施行セル本邦南海磁氣測量ノ結果ヲ加味シテ推算シ大正三年七月完成シタル磁氣圖ノ結果ヲ出版シタルモノナリ

十月

水路官任用
ノ廢止

一日 勅令第三百六十五號ヲ以テ海軍高等武官任用令ヲ制定公布、同時ニ海軍高等武官補充條例ハ廢止サレ茲ニ水路官任用ノ制度ハ廢止ノコトトナレリ

「註」 水路官任用制度ハ曩ニ明治三十三年規定サルル所アリシガ(三十三年三月ノ記事參照)水路少技士候補生ノ採用ハ明治三十八年ノ二名ヲ以テ爾來中絶ノ姿ニ在リ且我ガ水路測量進捗ノ現状ハ水路官ノ必要性ニ乏シク寧ロ之ニ代フルニ將校(兵科)ヲ以テシ技術者トシテハ文官技師ヲ之ニ配スルヲ以テ最モ策ノ得タルモノナリトノ意見ニ一致ヲ見茲ニ右制度改正ノコトアルニ至ル

二日 省令第十一號ヲ以テ明治三十三年海軍省令第三號海軍水路少技士候補生採用試驗規則ヲ又同日達第百七十六號ヲ以テ明治三十三年達第三十號海軍水路少技士候補生實務練習規則ヲ廢止サル

十二月

一日 測量科長丸橋大佐海軍少將ニ任シ待命仰付ケラレ海軍大佐金丸清緝測量科長ニ補セララル

同日神代會計課長富士主計長ニ轉シ海軍大學校主計長海軍大主計清水敬一當部會計課長ニ兼補セララル

從來水路告示ノ發定期日ハ不定ニシテ隨時發行スルヲ例トセシガ作業ノ都合上之ヲ定期トスルヲ便トシ本月七日告示第七〇號ヨリ毎週土曜日ニ之ヲ發行スルコトニ一定ス但シ緊急ノモノハ臨時トス

事業概況

本年測量ハ第一方面打狗、基隆兩港及附近、第二方面内海中部潮流測量、第三方面舞鶴及秋田ノ經緯度測量、第四方面舞鶴、第五方面周防灘並ニ徳山灣、第六方面大阪灣、大阪港及神戸港、第七方面大同江及鎮南浦、第八方面瀬戸内海探礁、第九方面霞ヶ浦、第十方面別府灣及豊後水道北部、第十一方面軍艦滿州ノ

水路少技士
候補生關係
規程ノ廢止

科(課)長更
迭

水路告示ノ
定期發行

事業概況

測量

臺灣堆及臺灣南西方海面ノ錘測等、第十二方面軍艦武藏ノ本洲東岸錘測、第十三方面軍艦大和ノ南西諸島、對馬西水道補測及竹邊灣南方疑礁探查ノ諸作業ノ外臨時出測トシテ鎮海灣外探礁、事件第一間宮海峽方面、同第二南洋方面ノ作業ヲ施行セリ

測量綜合成績ハ測得海陸面積四四、二一九平方哩、同海面積四三、〇四三平方哩、同海岸線九五五哩、錘測數八三、二二二ナリ

圖誌

本年度圖誌科ノ作業ハ概ネ前年度ノ方針ヲ襲用シタルモ海軍省軍令部等ヨリノ委託作業其ノ他臨時ノ諸作業多ク加フルニ測量作業ハ臨時軍事費支辨ニ係ル大發展アリ之ニ伴フ製圖事業ノ負荷ハ稍過重ニシテ其ノ根本方針タル圖誌十箇年一新ノ計畫ハ自然崩解ノ止ムナキ傾向ヲ來サントセリ蓋シ圖誌科經常費ノ配給ハ數年來其ノ要求額ニ副ハザリシト時局ノ影響ニヨル諸物價ノ騰貴トハ大ニ之ガ因ヲ爲セリ、此處ニ於テ作業員ヲ督勵シ殘業ヲ課シ日曜公暇日ノ出勤ヲ命ジ大ニ事業ノ進捗ヲ計リシガ一方民間ノ好景氣ハ作業員ニシテ解雇ヲ願出ヅル者漸次増加シ當科ハ百方之ガ防止策ヲ講ゼシモ遂ニ多數ノ解職者ヲ出スニ至リ作業ノ進捗ヲ妨ゲタルコト尠カラザルモノアリ、世間ノ好況ハ斯クシテ當科ニ影響スル所アリシガ尙茲ニ特筆大書スベキハ海運界ノ發展ニ伴フ拂下圖誌需用額ノ激増シタル一事ニシテ別項記載ノ如ク實ニ未曾有ノ大數値ヲ示セリ之ガ爲當部印刷事業ノ如キハ一時全力ヲ之ニ集中スルモ猶且及バザルノ狀況ヲ呈シ連日ノ殘業ハ愈緊張シ晚秋ヨリ冬季ニ涉ル晝間ノ短縮ト共ニ殘業ノ大部分ハ全然夜業ト化セリ、斯クノ如ク圖誌科ノ作業ハ諸般ノ影響ヲ受ケ事業發展上多大ノ困難ニ遭遇シタルモ圖誌ノ調製量ハ總額ニ於テ昨年度ニ優リ之ニ加フルニ拂下圖誌ノ激増ノ爲石版印刷器械ニ臺ノ増設ヲ見ルニ至リ印刷力ヲシテ殆ド倍舊ノ狀況ニ到ラ

シメタリ、本年度圖誌作業ニ於テ實施シタル重ナル事項ハ(一)毎年曆ノ供給停止(二)航海年表ヨリ恆星平位及經緯度表ノ削除並ニ同書誌中報時信號表ノ擴張(三)水路告示保存期限ノ制定(四)距離表ノ編纂(五)海圖上特種鐵道ノ記號制定(六)圖誌目錄ノ改正(本目錄ハ從來ニ樣ニ區分シ一ハ海軍部内用ニシテ之ヲ水路圖誌目錄ト稱シ他ハ海軍部外一般用ニシテ之ヲ刊行圖誌目錄ト名ヅケ必要ノ向ニ賣却セルモノナリ然レドモ斯クノ如クニ樣ニ區分スルハ多クノ手數ヲ要スルヲ以テ大正八年一月刊行ノ分ヨリ兩者ヲ纏メテ一冊トシ尙其ノ大サヲ二倍大ト成シ橫綴ニ製本セルコト、海圖索引ヲ附圖トシテ末尾ニ附セルコト等ノ改訂ヲ行フ)七)東洋燈臺表ノ隔年若ハ三箇年ニ一回刊行(八)朝鮮ノ地名改正ニ基ク圖誌ノ改訂方針(九)夜標着色法ノ改正(十)海圖番號附與法ノ改正(海圖番號ハ大正二年十二月ノ規定ノモノアリト雖モ大正五年部版圖誌擴張計畫ニヨリ適用シ難キモノヲ生ゼルト尙將來部版發展ノ大勢ヲ考慮シテ改正ス、因ニ此ノ海圖番號附與法ハ後大正十年十二月更ニ改正サレ以テ今日ニ至ル)十一)海圖定價ノ變更即チ現行海圖定價ハ大正四年ノ制定ニ係リ諸物價暴騰後ノ現狀ニ適用シ難キニ至レルヲ以テ茲ニ大版一圓五十錢、全版一圓二十錢、之版八十錢、之版五十錢平均一圓ニ改正ス、以上ノ外ハ本年九月ノ項ニ記述セシ基本經度ノ改正等ナリ此等ノ詳細ニ關シテハ大正七年水路部年報ヲ參照スベシ

本年度刊行書誌ハ日本水路誌第八卷(千島列島)、同第九卷(樺太南部)、露領沿海州水路誌(露領沿海州、樺太北部及堪察加半島)、支那海東側水路誌第一卷(ボルネオ西岸北部及北西岸、ナツ)、支那海西側水路誌第一卷(馬來半島東岸、暹羅海灣、バ)、東叢島水路誌第三卷(菲律賓諸島東岸北部、中)、水路誌附錄第一卷追補第二、水路報第百三號、遭難船舶一覽、海上氣象學概論、其ノ他航海年表東洋燈臺表等ナリ、海圖ノ刊行數ハ

大正七年

二二六

新刊六十一版改版十六版大改正十一版合計八十八版外ニ特種海圖改版三十二版アリ

本年度圖誌ノ需用ハ部内用ニ在リテハ受入海圖七萬九千九百三十八枚同書誌八千七百五十八冊同特種海圖七千八百二十枚ニシテ昨年度ニ比シ大差ナキモ拂下用ニ在リテハ實ニ空前ノ増加ヲ示セリ即チ海圖三十七萬八千四百九十四枚（雜用海圖九千五百五十七枚ヲ含ム）書誌一萬四千二百九十八冊ニ及ビ前年度ニ比シ海圖ニ於テ二十七萬餘枚書誌ニ於テ四千冊ノ激増ヲ示セリ蓋シ海運界好況ノ絶頂ト見ルベシ

人員

大正七年三月三十一日調現在員ハ高等官三十一名（内兼務二名）、判任官三十八名、雇員備人二百三十五名、合計三百四十四名ニ臨時備四十四名、總計三百四十八名ナリ

經費

本年度歲出支額總計五五八、九五二圓内ニ二五四、三七七圓ハ經常部ニ屬シ二四四、八七一圓ハ臨時部ニ、五九、七〇四圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、之ヲ前年度ニ比較スルニ總額ニ於テ實ニ二十一萬九千餘圓ノ増額ヲ示セリ之主トシテ拂下圖誌製造費ニ於テ十四萬四千圓ノ増加ヲ見タルト大正三年臨時事件費ニ於テ五萬一千餘圓（主トシテ判任官以下臨時手當）ノ増額アリタルニ由ル蓋シ一般海運界ノ活況ト諸物價騰貴ノ結果ニ外ナラズ

營繕

新營繕工事中ノ重ナルモノハ新營ニ在リテハ（イ）軍機圖誌作業室（ロ）天測室（ハ）揭示場（上記各項共本年着手大正八年一月三十日竣工）、修繕工事ハ（イ）展覽室改造（編曆科室トナル）（ロ）銅版印刷室石版印刷室間隔壁取除模様換ノ二件ニシテ前者ハ本年七月後者ハ同十二月竣功ス

大正八年

一 月

臺灣方面ニ於ケル地磁氣年差觀測ニ對スル永久の施設ノ必要ヲ感ズルコト久シカリシガ客年九月ニ至リ臺灣總督府ト交渉ヲ進メタル結果同府ノ好意ニヨリ臺北測候所内ニ磁氣觀測所ヲ新築スルコトトナリ茲ニ之ガ竣功ヲ告ゲ即チ同測候所ニ依囑シテ磁氣觀測ヲ開始ス

二 月

暗礁探測作業ニ於テ掃海ノ有効且必要ナルヲ認メ本年別府灣方面測量班ヲシテ之ガ研究ニ當ラシムルコトトシ茲ニ同班ハ探礁用小掃海索ヲ以テ該實驗ニ着手セリ蓋シ當部ニ於ケル掃海測量ニ關スル具體的研究ハ實ニ之ヲ以テ嚆矢トス

三 月

二十六日 勅令第三十一號（官報二十七日）ヲ以テ水路部條例中左ノ通改正、四月一日ヨリ實施セラ

水路部條例
ノ改正

掃海測量ノ
研究

臺北測候所
ノ磁氣觀測
ノ依囑

ル

第七條中「測量科圖誌科」ヲ「測量科、圖誌科、編曆科」ニ改ム

第九條中「圖誌科ニ於テハ」ノ下ニ「航海年表ヲ除クノ外」ヲ加フ

第十條 編曆科ニ於テハ航海年表ノ調製、準備、配給及保管ニ關スルコトヲ掌ル

四 月

大正八年

二二七

編曆科ノ新
設
定員増加

部版圖誌
張作業ノ基
礎確立

特種海圖ノ
整理

處務規程ノ
改正
日本船主同
盟會ニ圖誌
販賣ノ許可

大正八年

二二八

一日 當部條例ノ改正ニヨリ茲ニ編曆科ノ新設成リ圖誌科長岡村大佐編曆科長ニ兼補セラレ
同日定員ニ改正アリ圖誌科科員「九」ヲ「十」ニ編曆科定員新ニ科長一(兼務)科員四(内兼務三)並ニ
書記「七」ヲ「八」ニ、編修書記「三」ヲ「六」ニ、技手「二八」ヲ「三八」ニ増員セラレ
右定員ノ改正ハ編曆科新設ニ伴フ人員ト部版圖誌擴張ニ要スル定員トノ増加ニシテ後者ハ大正五年以來
ノ懸案ナリシ處茲ニ初メテ當部希望ノ定員ヲ配セララルルニ至レリ

曩ニ大正三年十月時局ニ鑑ミ部版圖誌刊行區域ヲ第二區全部ニ普及スルノ必要ヲ認メ案ヲ具シテ上申スル
處アリシニ對シ五年度以降經費並ニ人員ノ一部ヲ増額増員サレシヲ以テ同年度ヨリ擴張計畫ニ着手シ爾後
連年不足ノ人員及經費ノ増額ヲ上申セシモ諸種ノ支障アリテ承認ヲ得ルニ至ラズ經費ノミハ臨時軍事費ヲ
以テ一時補填セラレタルモ定員ノ増加ハ依然實現スルニ至ラザリシガ本年度ニ至リ始メテ所要ノ増員ト共
ニ經費ノ増額承認セラレ爰ニ第二區水路圖誌完成作業ニ要スル諸般ノ基礎ヲ確立スルコトヲ得ルニ至レ
リ

特種海圖ハ今回時局ノ終ヲ告グルト共ニ整理ノ必要ヲ認メ即チ第三區ニ屬スル特種海圖及水路誌ハ總テ之
ヲ廢シ第二區ニ屬スル分ノミヲ當部ニ於テ維持スルコトニ定ム

達第三十六號ヲ以テ當部處務規程ヲ改正セラル、之條例改正ノ結果ニヨル

當部刊行ニ係ル拂下圖誌ノ販賣所ハ明治二十八年日本郵船株式會社ニ之ヲ指定シ爾來同社東京本店ノ外神
戶、長崎、函館、大阪、門司、上海、釜山各地ノ同社支店ヲシテ之ガ販賣ヲ取扱ハシメタル處世界大戰ノ
影響ハ我が海運界未曾有ノ好況ヲ呈シ大正七年ニ及ンデハ其ノ絶頂ニ達シ海圖類ノ需要ハ異常ノ大激増ヲ

來セリ此處ニ於テ販路ノ不備ハ愈痛切ニ感ゼラレ船舶界ニ縁近キ書肆、船具商、其ノ他船舶會社ノ一部ニ
於テハ水路圖誌類ノ販賣方ヲ願出ヅル者相踵デ起レリ、然レドモ何レモ之ニ適當ノモノヲ得難カリシガ恰
モ大正七年度末ニ到リ社外船主ノ協同團體タル日本船主同盟會ヨリ圖誌類販賣方願出アリ依ツテ當部ニ於
テハ其ノ内容ノ健實ナルヤ否ヤニ就キ十分調査ヲ行ヒ概ネ左記ノ事實ヲ認定シタルヲ以テ事情ヲ具シ同會
ニ圖誌拂下方ヲ其ノ筋ニ上申セリ

一、營利本位ニ非ザル事

二、永續販賣ヲ續行シ且客筋ニ對シ一般ニ親切ナル事

三、基礎鞏固ニシテ一時ノ不況ニ倒レザル事

四、改補及取引機關ヲ完全ニ設備スル事

然ルニ船主同盟會ハ素一箇ノ私立團體即チ法律上何等ノ權威ナキ結社ニ過ギザリシカバ會計法規上官トノ
間ニ賣買ノ契約ヲ締結スル能ハザル關係アリ依ツテ圖誌拂下ヲ引受クルニ先チ同會ヲシテ法人組織ニ改メ
シムル必要アリシモ同會ノ組織變更ニ對シテハ理事會若ハ總會ノ決議ヲ經ルヲ要スル等容易ニ其ノ機運ニ
到ラズ且一旦同會ノ決議ヲ經ルモ爾後之ヲ當局ニ請願ノ手續ヲ要スルヲ以テ同會ヲシテ直ニ法人組織ニ改
革セシムルハ困難ト言ハンヨリモ寧ロ不可能ナリキ然ルニ一方圖誌類ノ拂下ハ會計年度ノ始期ヲ以テ開始
スルヲ最モ便トシ又船主同盟會ニ於テモ海運事業ノ好勢其ノ極ニ達セル今日一般ニ圖誌類ノ供給不如意ヲ
訴フル折柄一日モ早く進ンデ之ガ發賣ヲ擴メ一般ノ不便ヲ一掃シ圖誌ノ供給ヲ成ルベク早く圓滑ナラシメ
度切願アリ當部ハ乃チ此等ノ關係ヲ當局ニ説明シ其ノ諒解ヲ得テ同會書記長石川茂一ナル者ノ名義ヲ以テ

大正八年

二二九

大正八年

1110

當分拂下ヲ契約スルコトトシ本年度早々之ヲ開始セリ

本月透寫式製版法ノ完成ヲ告ゲ當部製版作業ニ根本的ノ革新ヲナセリ、從來最モ廣ク海圖製版ニ應用サレ
ツツアリシ方法ハ寫眞亞鉛版ニシテ明治年間ヨリ幾多ノ改良進歩ヲ經テ最近ニ到リ顯著ナル發達ヲ遂ゲタ
ルモ尙多クノ缺點ヲ有シ未ダ之ガ完成ニハ前途遼遠ナルモノアリ而シテ之ガ改善ハ製版法ノ骨子ヲ改ムル
ニアラザレバ容易ニ達成スベクモ非ズ此處ニ於テ當部圖誌科科員海軍中佐志和爲於菟ハ技手松島德三郎及
技生棚橋弟丸ヲ督シテ刻苦研鑽之ガ改革ニ精勵シ遂ニ透寫式製版法ノ發明ニ成功スルニ至レリ

五月

水路圖誌供給表ヲ改正ス

六月

本月二十四日ヨリ七月十六日ニ至ル間英京倫敦ニ於テ國際水路會議ヲ開催サレ駐英武官左近司、山口ノ兩
海軍中佐帝國海軍委員トシテ之ニ參列ス、本會議ノ目的ハ一、各國刊行海圖及其ノ他ノ水路圖誌ノ構成、
編纂等總テ同様ノ方式ヲ採用シ以テ各國相互ノ使用ニ便ズルコトニ、各國水路事業ニ關スル報道ヲ迅速
ニ交換シ得ベキ組織ヲ制定スルコトニ、全國ノ水路專門家ヲシテ當該問題ニ關シ討議商量ノ機會ヲ與フ
ルコト以上ノ三項ニシテ英國政府ノ提議ニヨリ本年初メテ之ガ會合ヲ見タルモノナリ而シテ日、英、米、
佛、伊、亞、白、伯、智、支、丁、希、和、諾、葡、暹、西、瑞ノ十九箇國及英國植民地濠洲、印度
及埃及ノ各代表之ニ參會シ各種ノ決議事項ヲ見タルガ就中最モ注目ニ價スベキハ水深標高ノ尺度トシテ米
式採用ヲ全會一致ヲ以テ可決セラレタルコト之ナリ

七月

六日 長崎縣南高來郡小濱村前面一帶ノ海灣ハ從來適當ノ名稱ナカリシガ今回之ヲ海圖上橋灣ナル名稱ヲ
附與スルコトニ關係方面ト協議ノ上告示ス、同海灣ヲ橋灣ト名付ケシハ同海岸千々石村ハ故陸軍中佐橋
周太ノ出生地ナルノ故ヲ以テ同中佐ノ名ニ因ミタルモノニシテ時ノ第一艦隊司令長官ノ意見提出ニ基
ク

八月

一日 清水會計課長ノ兼職ヲ免ゼラレ海軍主計少監箕浦維成新ニ會計課長ニ補セラレ

九月

六日 航海上ノ諸報告ヲシテ當部ノ要求ニ適應セシメ且之ヲ簡明ナラシムル爲別紙雛形ノ如キ用紙ヲ發行
シ之ヲ航海報告用紙ト稱シ各鎮守府文庫及圖誌販賣所ニ備ヘシメ所要ノ向ニハ無代價ニテ交付スルコト
トセリ(雛形略ス)

十月

本年四月樺太廳大泊測候所内ニ磁氣觀測所ヲ設置相成度旨上申セシ處認許セラレ茲ニ設備整ヒ同測候所ニ
磁針偏差ノ連續觀測ヲ依囑ス

十一月

一日 海軍特別大演習陪觀ノ爲來朝中ノ中華民國海軍中將李鼎新同少將陳恩壽其ノ他三名當部ヲ參觀
ス

大正八年

1111

翻譯水路誌
用ニ横書體採

科長更迭
海圖原版呼
稱ノ改正

對景圖集ノ
刊行

透寫式製版
法ノ特許

事業概況

測量

大正八年

一一三

十九日 當部刊行水路誌中其ノ翻譯ニ係ルモノノ内容區域ハ總テ原書ニ倣ヒ且六號活字ヲ用ヒ歐文ノ形式
ニテ左ヨリ始マル横書體ト定ム、形式ヲ横書體ト改メタルハ翻譯水路誌ニ在リテハ地名等ニ用フル外國
文字ヲ其ノ儘記入スル關係上之ヲ便宜トシ又六號活字トシタルハ原書ニ倣ヒ改版ノ必要上其ノ一冊ヲ譯
書ノ一冊中ニ包含セシメンガ爲ナリ

十二月

一日 測量科長金丸大佐横須賀鎮守府附付ケラレ海軍大佐關田駒吉同科長ニ補セラレ

從來海圖原版ニ大ナル改正ヲ加ヘタル場合之ヲ二種類ニ區別シ改版及大改正ト呼稱シ來リシモ此ノ兩區別
ハ主トシテ當部作業上ノ必要ニ出ヅルモノニシテ使用者ニハ何等ノ關係ナキモノナレバ爾今大改正ナル呼
稱ヲ廢シ總テ之ヲ改版ノ内ニ包含セシムルコトトセリ又再版ハ原版磨滅不鮮明等ノ爲海圖ノ内容ヲ變更ス
ルコトナク再ビ製版シタルモノニシテ此ノ場合再版年月日ヲ記入スルコトハ取扱者ヲシテ一般書籍類ノ再
版ト混同セシムルノ虞アルヲ以テ年月日ノ記入ハ之ヲ廢セリ

曩ニ對景圖集ノ刊行ヲ計畫シ客年三月以來之ガ調製準備中ナリシ處茲ニ同圖集ハ完成シ刊行ノ運ニ至レ
リ

本年四月完成テ告ゲタル透寫式製版法ハ海軍大臣名義ヲ以テ特許權出願中ノ處左ノ通査定セラレ

「本法ハ適法ニシテ特許スヘキモノトス」

事業概況

本年測量ハ内地沿岸方面ニ在リテハ九州北東岸、豊後水道及伊豫灘ノ改測ノ外軍艦大和ノ日本海西部、九

州東岸、四國南岸ノ錘測及同武藏ノ本洲東岸ニ於ケル錘測ヲ行ヒ、南洋方面ノ測量ハ軍艦滿州及特務艦松
江之ニ從事シ又樺太方面ノ測量ハ軍艦大和同武藏及特務艦膠州ノ三艦作業ニ從事セリ、而シテ各測量艦ハ
前記各方面ニ於ケル作業ノ外海洋調査即チ深海錘測、海流測定其ノ他海洋諸要素ノ觀測ニ從事セリ然レド
モ此等ノ調査ハ未ダ成績ノ見ルベキモノ少ク多ク實驗の作業ニ終レリ（海洋測量ナル語ハ當部ニ於テハ本
年初メテ用ヒラレ爾後連年測量計畫ニハ之ヲ見ルモ其ノ實際海洋測量ト稱スベキハ大正十三年軍艦大和ノ
日本海方面ニ於ケル作業ヲ以テ嚆矢トスルヲ適當トセン）

測量綜合成績ハ測得陸面積五、一七二平方浬、同海面積二二、四〇八平方浬、同海岸線一、六三八浬、錘測
數五六、五三四ニシテ他ニ經緯度測定箇所十二ナリ

圖誌作業ニ在リテハ本年度ニ於テ部版圖誌發行區域擴張ニ要スル經費ノ増額定員ノ増加アリテ作業ノ基礎
確立シ又透寫式製版法ヲ完成シテ大ニ作業能率ヲ増進セリ

本年度刊行書誌ハ日本水路誌第六卷（南西諸島、臺灣及澎湖列島）、同第七卷（北洲全岸）、支那海西側水路誌第二卷（支那
海注航路、安南北部、至廣東河口、西江）、水路誌附錄第一卷追補第三、同第四、同第二卷追補第二、水路雜俎（第八號）其ノ他
航海年表等ニシテ海圖ノ刊行ハ新刊百十八版改版三十八版大改正十八版計百七十四版特種海圖新改版四十
版ナリ、圖誌ノ受入部數ハ普通海圖六萬四千百十二枚同書誌八千八百三十九冊、拂下海圖十二萬二千二百六
枚（内雜用海圖八千八百六十五枚）同書誌一萬二千七十六冊ナリ

編曆事業ハ從來圖誌科内編曆掛ニ於テ分掌シ來リタルモ本年四月編曆科ヲ新設セラレ該作業ノ基礎確立セ
リ然レドモ之ガ獨立迄ニハ前途遼遠ナルヲ以テ本年十二月編曆科擴張ニ對シ案ヲ具シ上申スルトコロアリ

編曆

大正八年

一一三

大正九年

一三四

タリ、本年度ニ屬スル曆算作業ハ大正十三年航海年表ヨリ當部ニ於テ獨立推算セル太陽位置ヲ掲記スル豫定ニテ準備ニ着手シ年度内ニ完成ス

大正八年三月三十一日調現在員ハ高等官三十三名、判任官五十名、雇員傭人二百六十一名、合計三百四十四名他ニ臨時傭三十九名、總計三百八十三名ナリ

本年度歳出支出額總計六〇一、四七〇圓内ニ二七八、二二三圓ハ經常部ニ屬シ二一三、〇四二圓ハ臨時部ニ、一一〇、一九五圓ハ臨時軍事費ニ屬ス而シテ之ヲ前年度經費ニ比較スルトキハ軍事費ニ於テ二三、七二七圓ノ増加ヲ示セリ之主トシテ編曆科新設等ノ爲ニ要スル人員増加ノ爲俸給ニ於テ一萬六千五百餘圓ノ増加ト圖誌發行區域擴張ニ要スル圖誌費増額二、六二七圓及之ニ伴フ雜費二、八九八圓ノ増額アリシ結果ナリ

新營修繕工事中重ナルモノハ物品検査場（木造平家三十二坪）ノ新營ニシテ本年八月竣工ス

人員

經費

營繕

大正九年

一 月

本月刊行ニ係ル大正九年水路圖誌目錄ノ海圖索引（第一區ノ分）ハ圖割ヲ示ス線及其ノ海圖ヲ示ス番號ハ總テ青色ヲ以テ標示スルコトニ改訂セリ之一ハ閱覽者ノ識別ヲ容易ナラシムルト一ハ原版ノ鮮明ヲ維持スルノ目的ナリ

海圖索引ノ改正

「註」前記青色ヲ以テ標示スルコトハ大正十一年圖誌目錄樣式ノ變更ト共ニ之ヲ廢止セリ

三 月

九日 水路部圖誌科科員「少佐、大尉」一名ヲ臨時増置セラレ（四月一日ヨリ實施）

臨時増置

同日官房第六七六號ノ二ヲ以テ曩ニ水第一六三號「曆ニ掲記ノ天象位置ハ從來綠威正午ノモノナリシモ

曆ニ掲記ノ天象位置改正

大正十四年表ヨリ綠威正午ノモノトスル件」上申ニ對シ承認セラレ

四 月

昨年六月開カレタル國際水路會議ニ於テ水路圖誌ノ水深標高ハ佛式尺度即チ米式ヲ採用ノコトニ議決サレ又我が政府ニ於テモ度量衡單位ヲ將ニ佛式ニ改訂スルノ議熟シ度量衡調査委員會ノ審查議決ヲ經テ近キ將來ニ於テ實施ノ氣運ニ向フ際ナリシカバ前記國際水路會議決議事項ト相共鳴シ海圖ニ佛式單位ヲ採用スルハ主義トシテ將又方針トシテ此ノ際當部ニ於テ相當準備ノ必要ヲ認メ其ノ第一着手トシテ之ニ關スル經費及其ノ實施方案ノ大綱ヲ定メ茲ニ其ノ筋ニ上申スルコトトセリ

米式單位採用ノ上申

大正九年四月

水路部長

海軍大臣宛

米突式單位採用ニ關スル件

昨年十二月度量衡及工業品規格統一調査會ニ於ケル決議ニ基キ水路圖誌モ米突式單位ヲ採用スル事ニ

大正九年

二三五

大正九年

二二六

決定可相成候ニ付テハ既刊圖誌及大正五年度ヨリ着手セル擴張區域(第二區)圖誌モ總テ本式ノ圖誌ニ改ムルヲ要シ候ニ付テ二十五ケ年ノ繼續事業トシ大正十年度ヨリ著手ノ豫定ヲ以テ別紙ノ如ク豫算其ノ他所要事項提出候條何分ノ御詮議相成度

右上申ス

「註」 右上申ハ別紙(詳細ハ大正八年水路部年報參照)ニ於テ(一)定員ノ增加(兵中少佐大尉二、技師一、技手二〇、編修書記二、書記一)(二)豫算ノ増額(本作業ヲ完了スル迄ニ要スル經費總額三、七二九、六〇一圓、内譯繼續費トスベキモノ三、四八五、一〇一圓、初年限ノ經費二四四、五〇〇圓、年度割初年度(大正十年度)三三三、九〇四圓、次年度以降一三九、四〇四圓)及之ガ詳細ナル説明ヲ記述スル所アリテ當局ノ諒解ヲ得ルニ努メタルモ本件ハ米式單位採用ニ關スル一般法律ノ未ダ發布ニ至ラザル理由ヲ以テ其ノ發布ヲ見ル迄延期サルコトナレリ(大正十一年四月ノ記事參照)

以上ノ上申ニシテ認許ノ曉ハ爾後發行ノ圖誌類ハ内容ヲ一變スルト共ニ圖誌科事業ハ茲ニ大膨脹ヲ來スマ明ニシテ此ノ時ニ當リ大正四年上申同五年ヨリ實施ノ第二區擴張作業ヲ今少シク擴張シテ地中海、大西洋方面中我ガ船舶界ニ最モ必要ナル主要航路ノ海圖ハ豫テ一般ノ要望モアリ之ヲ容レテ所要豫算増額ヲ求ムルヲ最モ時宜ニ適スルモノトナシ左記ノ如ク立案上申スルコトトセリ蓋シ本件ハ早晚上申ノ必要アルモノニシテ此ノ際之ヲ實行スルハ圖誌科ノ改革上最モ便利トシタレバナリ

上申文左ノ如シ

大正九年四月二十日

水路部長

海軍大臣宛

水路圖誌發行區域擴張ニ關スル件

水路圖誌ノ整否ハ直接我カ軍事行動ニ影響アルハ勿論一方通商交易ノ盛衰ニ關係ヲ有スル事尠少ナラス特ニ本戰役ニ於テ一層此ノ感ヲ深カラシムルモノ有之當部ハ此ノ際豫定擴張區域以外ニ於テ少クモ左記三大航路ニ要スル海圖ノ整備ヲ企圖シ大正十年度ヨリ向フ二十五ケ年ノ繼續事業トシテ別紙ノ如ク豫算其ノ他所要事項計上候條何分ノ御詮議相成度

記

- 一、英國航路 (英、佛、蘭、葡沿岸、地中海ノ要部ヲ發行區域トシ豫定刊行數三五〇版)
- 二、北米紐育航路 (巴奈馬以北ニ於ケル北米東岸ヲ發行區域トスルモノニシテ豫定刊行數二五〇版)
- 三、南米航路 (喜望峯附近ヨリ亞弗利加西岸ノ一部及南米東岸ヲ發行區域トスルモノニシテ豫定刊行數一八〇版)

(備考)

- 一、本計畫ニヨル刊行區域ノ水路誌ハ發行セス海圖ノミニ止ム
- 二、刊行海圖ハ米突式單位ヲ採用ス

右上申ス (別紙見積書ハ茲ニ省略ス大正八年水路部年報ニ詳記シアリ)

「註」 右上申ハ旨趣ニ於テ當局ノ同意セル所ナリシモ經費節減ノ折柄特ニ緊急事業トスルニ足ラザルノ理由ヲ以テ延期ノコトトナレリ

大正九年

二二七

圖誌發行區域擴張ノ企

大正九年

二三八

編曆事業擴
張ノ上申

編曆事業ニ關シテハ昨年十二月意見ヲ提出スル所アリシガ更ニ本月水第二九一號ヲ以テ編曆事業擴張ノ緊要ナル所以ヲ上申シ大正十年度ニ於テ之ニ要スル經費二一、二九七圓（技師一、技手七ノ増員ニ對スル俸給ヲ含ム）及約百坪ノ編曆作業室ノ新築ヲ要求セリ

五月

展覽會出品

本月東京教育博物館ニ於テ「時ニ關スル展覽會」開催セラレ當部ヨリ航海年表、世界各地日時盤、日出沒曲線圖其ノ他三種ヲ出品ス

外人ノ囑託

十四日 元浦鹽斯德天文臺長「カメンスキー」ヲ當部囑託ニ傭聘シ觀測並ニ編曆ニ關スル事務ニ從事セシム

六月

小倉技師ノ
歐米出張

測量科科員兼圖誌科科員海軍技師小倉伸吉戰時ニ於ケル歐米諸國水路事業及航海曆並ニ潮汐ニ關スル事項調査ノ命ヲ受ケ本月十五日出發ス

國際水路會
議ニ關シ意
見提出

二十四日 水第四三三號ヲ以テ昨年開カレタル國際水路會議決議事項ニ關スル當部意見ヲ提出シ同追書ヲ以テ水路事業ノ益國際的發展ヲ遂グル現狀ニ鑑ミ「一、調査研究ノ爲水路部ニ定員ノ増置 二、先進國水路事業調査ノ爲適任者ヲ外國ニ駐在セシムルコト」ノ二項ニ就キ希望ヲ開陳ス

七月

「註」 右希望事項中第一項ハ當部豫テノ要望ニシテ翌七月水路部制度改正意見提出ト共ニ再ビ陳述スル所アリシモ遂ニ實現ニ至ラズ第二項亦當局ノ詮議スル所トナラザリキ

制度改正ノ
上申

十七日 當局ニ於テ海軍各廳制度改正ノ内議アリシニ對シ當部ニ於テハ研究ノ結果茲ニ制度改正ニ關シ上申スル處アリタリ、此ノ改正案ハ水路部ニ調査科並ニ副官部ノ設置ヲ主トシタルモノニシテ其ノ要旨左ノ如シ（條例案ハ省略ス）

本年六月水第四三三號ノ追書ヲ以テ詳述セル如ク當部現下ノ狀態ニ於テハ水路ニ關スル學術的方面ノ研究機關ハ頗ル貧弱ニシテ既設各科ノ作業以外廣汎ナル意味ニ於ケル水路作業ノ發達ヲ促進シ能ハザルノ憾アリ殊ニ今回國際水路會議ニ於ケル討議事跡ヲ見テ益其ノ感ヲ深カラシムルモノアルト同時ニ現狀ノ儘ニテハ到底歐米諸大國ニ比肩シテ水路作業ノ發展ヲ期シ能ハザルヲ認ムルニ至レリ故ニ之ガ對應ノ處置トシテ當部ニ相當ノ人員ヲ増置ノ上調査科ヲ新設シ調査計畫編纂ノ事ヲ掌ラシメ全然技術的方面ノ作業ト科ヲ分チ專ラ之ニ當ラシメントス
又本制度ノ改正ヲ期トシ新ニ副官部ヲ設置シテ事務ノ敏活ヲ圖リ尙從來世人ガ往々水路部ノ海軍所屬ナルヤ否ヤヲ知ラザル如キ不便ヲ防止スル爲此ノ際名稱ヲ海軍水路部ト改稱セラレンコトヲ希望ス
「註」 本年十月一日水路部條例ヲ廢シ水路部令ヲ定メラル、同月ノ記事ヲ參照スベシ

八月

定員改正

一日 定員表中圖誌科科員「十」ヲ「十二」ニ計「三七」ヲ「三九」ニ並ニ會計課長「主計少佐、大尉」ヲ「主計中、少佐」ニ改正セラル、同日本年四月一日臨時増置ノ件廢止セラル
豐後水道中佐賀ノ關及佐田岬間ノ狹部ニ對シテハ從來一定ノ名稱ナク之ガ呼稱ニ不便ナリシヲ以テ當部ニ於テハ內務省其ノ他關係方面ト協議ノ上之ニ速吸瀨戸ノ名稱ヲ附與シ海圖及水路誌ニ此ノ名稱ヲ使用スル

速吸瀨戸ノ
命名

大正九年

二二九

大正九年

二四〇

コトトセリ

「註」右瀬戸ニ關シテハ往古ヨリ速吸瀬戸又ハ速吸名門ノ稱アリ漁撈者ハ速吸瀬戸ト唱ヘ地方航海者ハ普通佐賀關海峽ト唱ヘ居リシモ歷史上ノ關係ニ因ミテ速吸瀬戸ト名附ケタリ

九月

一日 本日以降海圖ノ定價ヲ左ノ如ク改訂セリ

大判 一圓七十錢 全判 一圓五十錢

小判 一圓十錢 石判 七十錢

雜圖 高砂紙ヲ使用スルモノハ右ニ準ジ其ノ他ハ變更セズ

在來ノ海圖定價ハ大正七年九月ノ改訂ニ係リ海圖一枚ノ平均定價ハ一圓トシタルモノナルモ其ノ後物價ハ騰貴シ特ニ人員ニ對スル備給ノ著シキ騰貴ニヨリ茲ニ海圖一枚ノ平均定價ヲ一圓二十五錢ト定メ以テ各種圖積ニ對シ前記ノ如ク配價ス

二十一日 當部定員表中書記「八」ヲ「十」ニ計ノ部「五二」ヲ「五四」ニ改メラル

三十日 國際水路會議ノ決議ニ基キ從來ノ航海年表下卷中潮汐ニ關スルモノハ別冊ニ編纂シ之ヲ潮汐表ト名附ケ茲ニ「大正十年潮汐表」ヲ刊行ス

十月

一日 勅令第四百四十四號ヲ以テ水路部令ヲ制定公布セラレ、茲ニ從來ノ分科ヲ改メテ第一、第二、第三、第四及會計ノ五課ニ分テ別ニ副官ヲ置カル

海圖定價ノ改訂

定員改正

潮汐表ノ刊行

水路部令ノ制定

之ヨリ先本年七月當部制度ノ改正竝ニ定員ノ増加、經費ノ増額ニ關シ案ヲ具シテ上申スル所アリ茲ニ官制ノ改正ヲ實施セラルルニ當リ當部希望ノ一部ヲ容認セラレ從來ノ測量科竝ニ圖誌科ノ一部ヲ割キ合セテ新ニ一課ヲ設ケ書誌編纂、磁氣、海洋氣象、海圖竝ニ測量ノ計畫、水路航海海上必要ナル諸般ノ調査ヲ分擔スルコトトナリ調査計畫等ノ事務ト技術的方面ノ作業トヲ區分スルヲ得制度上一段ノ進歩ヲ見タリ然レドモ經費ト定員ノ増加ハ未ダ容認セラルルニ至ラズ其ノ結果官制改正上ノ主目的タル調査研究ノ機關ハ實際上具備スル所ナキハ遺憾トスル所ナリ
因ニ當部ノ廳名海軍水路部ト改稱スル件ハ水路部ニ海軍ヲ冠スルハ不要ナリトスル反對意見モアリテ實現ニ至ラザリキ

勅令第四百四十四號（大正九年十月一日官報）

水路部 令

第一條 水路部ハ東京ニ之ヲ置ク

第二條 水路部ハ水路圖誌ノ調製、水路ノ測量、航海ノ保安及水路科士官以下ノ教育ニ關スルコトヲ掌ル

第三條 水路部ニ第一課、第二課、第三課、第四課及會計課ヲ置ク

各課ノ事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

大正九年

二四一

副官
課長
部員
編修
附

第五條 部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス

第六條 部長ハ其ノ名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國水路部ト直接通信スルコトヲ得

第七條 部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條 部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍大臣特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十條 課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌ル

第十一條 部員及編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 水路部ニ判任文官ヲ置ク

第十三條 附ハ海軍特務士官、准士官又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

處務規程

同日達第七十一號ヲ以テ水路部處務規程ヲ左ノ通改正セララル

水路部處務規程

第一條 部長ハ水路圖誌ノ調製、水路ノ測量、航海ノ保安、水路科士官以下ノ教育ニ關スル諸法規、命令ノ制定改正追加等ノ必要ヲ認ムルトキハ案ヲ具シテ海軍大臣ニ提出スヘシ

第二條 水路部ハ常ニ海軍省軍務局、海軍軍令部及鎮守府文庫主管ト氣脈ヲ通スヘシ

第三條 部長ハ帝國ノ諸官衙公署及外國水路部ト發行圖誌ヲ交換スルコトヲ得

第四條 部長ハ水路圖誌ノ發行及廢止ハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケテ之ヲ公布シ一小部ノ改正及増補等ハ直ニ之ヲ行フヘシ

第五條 水路部ニ於テ餘力アルトキハ海軍部内各廳ヨリ印刷ノ委託ヲ受クルコトヲ得

第六條 部長ハ部下部員以下定員ノ配屬ヲ定メ之ヲ海軍省軍務局長及人事局長ニ通報スヘシ

第七條 部長ハ部務整理ノ爲部内服務規程ヲ定ムルコトヲ得

第八條 部員以下ノ命課ハ部長之ヲ行フヘシ

第九條 部長ハ每會計年度内ニ測量スヘキ區域及順序ヲ劃定シ豫メ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十條 副官ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、公文書類ノ接受發送ニ關スルコト
- 二、機密文書ノ保管ニ關スルコト

- 三、人事ニ關スルコト

- 四、部長職印及水路部廳印ノ保管ニ關スルコト
- 五、部内取締及營造物修繕ニ關スルコト
- 六、守衛使丁給仕ノ使役監督ニ關スルコト
- 七、年報及統計ノ資料ニ關スルコト
- 八、前諸號ノ外各課ノ所掌ニ屬セサル事項

第十一條 第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、水路圖誌調製及測量ノ計畫ニ關スルコト
- 二、水路圖誌ノ刊行及改廢ニ關スルコト
- 三、水路圖誌海圖、航海年表、潮汐表及天文航海諸表ヲ除クノ編纂ニ關スルコト
- 四、前號ノ原稿ノ保管ニ關スルコト
- 五、水路告示ニ關スルコト
- 六、磁氣及海洋氣象ニ關スルコト
- 七、水路及港灣ノ調査ニ關スルコト
- 八、水路ノ學術的研究ニ關スルコト
- 九、年報及統計ニ關スルコト

第十二條 第二課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、測量實施ニ關スルコト

- 二、測量原圖、水路記事ノ調製ニ關スルコト
- 三、水路測量術ノ改良及進歩ニ關スルコト
- 四、水路科士官以下測量ニ從事スル者ノ教育ニ關スルコト
- 五、測量器具ニ關スルコト
- 六、測量艇ニ關スルコト
- 七、年報及統計ノ資料ニ關スルコト

第十三條 第三課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、海圖ノ編纂ニ關スルコト
- 二、製圖、寫真、製版、印刷ニ關スルコト
- 三、前記技術ノ改良及進歩ニ關スルコト
- 四、前記技術ニ從事スル者ノ教育ニ關スルコト
- 五、測量原圖、海圖原稿及原版ノ保管ニ關スルコト
- 六、圖誌ノ準備、供給、交換、寄贈、貸與、保管及出納ニ關スルコト
- 七、保管圖誌ノ補正ニ關スルコト
- 八、拂下圖誌ニ關スルコト
- 九、年報及統計ノ資料ニ關スルコト

第十四條 第四課ハ左ノ事務ヲ掌ル

大正九年

二四六

- 一、航海年表用諸元ノ推算ニ關スルコト
- 二、潮汐ノ調査ニ關スルコト
- 三、航海年表、潮汐表及天文航海諸表ノ編纂ニ關スルコト
- 四、前記原稿ノ保管ニ關スルコト
- 五、年報及統計ノ資料ニ關スルコト

第十五條 會計課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、收入支出ニ關スルコト
- 二、購買及賣却ニ關スルコト
- 三、通常物品ノ保管出納ニ關スルコト
- 四、通信運搬ニ關スルコト
- 五、委任支拂命令官ノ印保管ニ關スルコト
- 六、年報及統計ノ資料ニ關スルコト

此ノ日部長布目少將大湊要港部司令官ニ轉ジ海軍大佐犬塚助次郎水路部長心得ニ補セラレ

部長更迭
課長、部員
ノ補任

同日制度改正ノ結果關田測量科長ハ第一課長兼第二課長ニ岡村圖誌科長兼編曆科長ハ第三課長兼第四課長ニ補セラレ其ノ他副官竝ニ部員ノ任命アリ

米單位ヲ海
圖ニ混用

昨年十二月度量衡及工業規格統一調査會ニ於ケル決議竝ニ國際水路會議ノ決議事項實施ノ爲水路圖誌ニ米單位ヲ採用スベキ機運ニ迫リ本年四月之ガ計畫及所要經費ニ關スル上申ヲ爲シタルモ當局ニ於テハ米式單

位ノ法律發布ヲ俟ツテ經費等ノ組入ヲ實施スベキ方針ナリシヲ以テ今後新ニ刊行スベキ圖類中特ニ經費ノ増額ヲ要スルコトナク從來ノ圖類ト混用シ得ベキ範圍ノモノニ限り米單位採用ノ方針ヲ樹テ新測、改測ハ米單位ヲ以テ實施スルコトニ決シ本月軍務局長ヨリ「當分ノ内水路ニ關スル度量衡使用單位ハ米式ヲ混用シ得ルコトニ決裁相成リタリ」トノ通牒ニ接スルニ及ビ茲ニ尋式及米式單位海圖ノ混用ヲ生ゼリ

十二月

一日 部長心得犬塚大佐海軍少將ニ任ジ水路部長ニ補セラレ

課長更迭

同日海軍大佐加藤勁次郎ハ第二課長ニ、又海軍技師芦野敬三郎ハ第四課長ニ夫々補セラレ關田兼第二、

岡村兼第四兩課長ノ兼職ヲ免ゼラル

出火

十六日 午後六時三十分構内湯沸場（木造平家三坪、目隠板塀木造三間共）焼失セリ

新高度方位
角表ノ刊行

本月新高度方位角表ヲ刊行ス、本書ハ當部部員海軍技師小倉伸吉ノ研究ニ係ル高度表ト海軍大學校教官海軍中佐米村末喜指導ノ下ニ同校第十九期航海學生ノ編纂セル高度方位角計算表トヲ合輯シタルモノニシテ實地航海者ニ至大ノ便益ヲ與フベキヲ認メ茲ニ之ヲ刊行ス

事業概況

事業概況

本年測量ハ海岸測量ニ在リテハ出雲隱岐列島、佐世保長崎近海、船川土崎小樽、早瀬瀬戸、九州東岸、安藝灘、相模灣西北部、測量艦大和ノ山陰北陸沖、同武藏ノ金華山沖、同滿州ノ伊豆沖其ノ他測量艦淀及松江ノ南方海面、同武藏、大和及膠州ノ樺太竝ニ北方海面ノ各方面ニ於テ、潮流測量ハ來島海峽、三原瀬戸

大正九年

二四七

ノ二箇所ニ於テ又經緯度測量ハ石垣島、宮古、境、濱田ノ四箇所ニ於テ之ヲ施行セリ
前記海岸測量ニ於テ測得陸面積四、〇三二平方哩、同海面積二六、六七六平方哩、同海岸線一、七四二哩、
鍾測數一〇、一三六ヲ得タリ

圖誌

圖誌編纂作業ハ書誌ニ在リテハ日本水路誌第十卷上、同下（上記二卷ハ舊第十卷ヲ上下ニ分チ改版シタル
モノ）、「スマトラ」東側水路誌（支那海水路誌第五卷ノ一部改譯）、瓜哇海水路誌（英版東叢島水路誌第
二卷ノ全譯）、日本水路誌第五卷追補第一、水路誌附録第一卷追補第五、大正九年東洋燈臺表上卷、大正航海年
表、大正十年潮汐表、距離表、海洋氣象便覽、航路統計圖（月別）等ヲ刊行シ海圖ニ在リテハ既定方針ニ從
ハ本年ハ第二區作業濠洲方面ニ進展スル豫定ナリシモ一般海運界ノ狀況ハ其ノ主要航路タル歐洲線、南北
米國線、濠洲線ニ要スル海圖ノ普及ヲ要望シ部内艦船ノ行動モ近來歐米航路ニ進出スルコト尠カラザルヲ
以テ豫定ヲ變更シ一部人員ヲ割ツテ前記主要航路ニ充當スベキ海圖ヲ最少限度ニ刊行スルノ方針ヲ採リ該
作業ニ着手セリ、刊行海圖ハ本邦領海ハ南洋群島ヲ除キ既刊海圖概ネ整備シ新測等ニヨル諸資料ニ依ルモ
新刊海圖ヲ刊行スルノ要比較的尠ク多クハ既刊海圖ノ改訂増補ヲ以テ足レリ、海圖新刊七十九版、改版二
十一版合計百版特種海圖改版二十六版ナリ

印刷事業ニ在リテハ本年度ニ於テ全版本臺「オフセット」器械ノ据附ヲ了シ海圖印刷作業ニ一大刷新ヲ爲
セリ蓋シ「オフセット」器械ハ其ノ性能ノ優秀ナルハ一般ノ認ムル所ナリシモ當時民間ニ於テ廣ク用フル
ハ輪轉式ニシテ海圖ノ如キ一版ニ對スル印刷枚數ノ少キモノニハ不經濟ナルノミナラズ同式ハ原版ヲ輪
ニ捲キ附クルヲ以テ海圖原版ニ適當ナラズトノ理由ヲ以テ當部ニ於テ研究ノ結果前記平臺ノ器械ヲ製造セ

シメタルモノナリ

本年度ニ於ケル圖誌ノ受入部數ハ普通海圖二八、一七四枚同書誌一〇、一九一冊ナリ、拂下圖誌ノ調製ハ海
運界不振ノ漸加ニ伴ヒ年々其ノ數ヲ減ジ本年度ニ於テハ昨年度ニ比シ約一萬枚ヲ減ジ一昨年度ニ比スレバ
實ニ二十六萬枚ノ減額ヲ示セリ即チ拂下海圖ノ數一一三、九九二枚（内雜用海圖七、九六八枚）同書誌ノ數
一五、九三〇冊ナリ

編曆

編曆事業ハ昨年四月編曆科ノ新設ヲ見タルモ其ノ際經費ノ増額ハ僅ニ廳費ノ少額ニ過ギズ依リテ同年度ニ
於テ作業ニ要スル備品材料品費等ヲ要求セシモ豫算不成立トナリ本年度ニ於テハ前年度通圖誌費中ヨリ融
通ヲ受ケ前年度ヨリノ事業ヲ繼續シ尙新ニ恒星推算準備ニ着手セリ、本年刊行ニ係ル大正十年航海年表ハ
從來ノ年表上卷ニ日月出沒、拂曉、黃昏、天象出沒方位角、日出沒改正表ヲ加ヘタリ又國際水路會議ノ決
議ニ基キ從來ノ航海年表下卷中潮汐ニ關スルモノノミナ別冊トシ之ヲ潮汐表ト改題大正十年度ノモノヲ刊
行ス

人員

大正九年三月三十一日調現在員ハ高等官三十四名（内兼務一）、判任官四十九名、雇員傭人二百六十一名、
合計三百四十四名他ニ臨時傭三十九名、總計三百八十三名ナリ

經費

本年度歳出支額總計八〇二、〇二二圓内四一五、三三九圓ハ經常部ニ、二三九、六三六圓ハ臨時部ニ、
一四七、〇四七圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、之ヲ昨年度經費ニ比較スレバ經常部軍事費ニ於テ一三五、九八五圓
ヲ増加セリ其ノ内主ナルモノハ俸給令改正及制度改正ニ伴フ人員ノ増加並ニ年末賞與等ノ爲ニ要セシ俸給
五七、九一四圓及物價騰貴ニヨル水路費七二、九二七圓ノ増加等ノ爲ナリ、臨時部ニ在リテハ拂下圖誌製造

大正十年

二五〇

營繕

費八一〇三、〇二〇圓ニシテ前年度ニ比シ一七、〇二〇圓ヲ増加シ大正三年臨時事件費ハ俸給令改正ノ結果臨時手當ノ廢止ト物價騰貴ニヨル追加豫算ノ増配トニヨリ五四、六〇九圓ノ減額ヲ示セリ

本年竣工ニ係ル新營工事中主ナルモノハ一、貯油庫（煉瓦造平家四坪）二、湯沸所（木造平家三坪但シ本年十二月燒失）三、軍機圖誌作業室（木造平家六十六坪）四、天測室及同附屬家（煉瓦造平家十二坪四九ノ四廉ナリ）

大正十年

一 月

國際水路會議ニ基ク圖式ノ變更
年報ノ官報掲載

國際水路會議決議ニ基ク圖式ハ審議ノ結果之ヲ海圖式甲トシテ昨年十二月刊行シ從前ノ海圖式ハ之ヲ海圖式乙ト命ジ茲ニ兩者ノ併用ヲ實施スルコトナレリ（詳細ハ大正九年水路部年報ヲ参照スベシ）

水路部年報ハ其ノ梗概ヲ摘録シテ官報ニ掲載シ一般ニ公示スルコトトシ其ノ書式ハ概ネ左記ニ據ルコトニ定ム

一、本邦海岸測量

測量方面 測量海面積（方哩） 測得海岸線（哩） 鍾測數

何々灣

二、海圖ノ刊行

地方別	刊行版數	新版	改版
本邦領土沿岸
.....

三、水路誌、雜圖誌ノ發行

書誌名

日本水路誌第六卷 南西諸島、臺灣及澎湖列島

右ノ外水路告示何件發行セリ

(終)

其ノ他必要ナル事項

「註」 當部年報ノ拔萃ヲ官報ニ掲記ノコトハ大正十二年震災後中絶セリ

二 月

十八日 昨年十月水路圖誌ニ米式混用ノコトニ決裁相成リタルヲ以テ使用者ノ便宜ヲ圖リ爾今刊行ノ水路誌、東洋燈臺表、航海年表等ニハ其ノ卷末ニ米尋、尋米及呎米ノ換算表ヲ掲グルコトトセリ

二十四日 測量經緯度ノ件ニ關シ左ノ通定ム

將來帝國領土經緯度網（中野技師測定）完成ノ上ハ之ヲ全国各地經緯度決定ノ基點ト定ムベキモ右完成迄當分ノ間ハ測量圖ニ添附提出スベキ各點ノ經緯度表ハ右ニ準ジ新測經緯度原點ニ基キ推算シ之ヲ保存シ置クモ實際海圖構成ニ當リテハ直接之ヲ適用セズシテ海岸圖ハ現在海圖ノ各點經緯度ヲ使用ス但シ三

大正十年

二五一

米尋等換算表ノ掲記
測量經緯度ノ件

大正十年

二五二

角連絡以外遠隔ノ島嶼ニ於テ新測經緯度原點アル場合及一般ニ分圖上ニハ前述ノ推算經緯度表ヲ適用ス

「註」各地經緯度ノ決定ニ關シテハ前記ノ通決定セシモ更ニ本年末ニ於テ海圖經緯度採用方針調査委員ヲ設ケ審議ノ結果主トシテ陸地測量部ノ三角測量ノ成果及之ヨリ導キタルモノニ據ルコトニ變更セリ（大正十一年一月ノ記事參照）

三 月

東京教育博物館ニ於テ鑛物文明展覽會ヲ開催サレ當部ヨリハ海圖製版用濕板陰板、海圖原版（彫刻銅版）、同印刷版（亞鉛版、石版）等ヲ出品ス

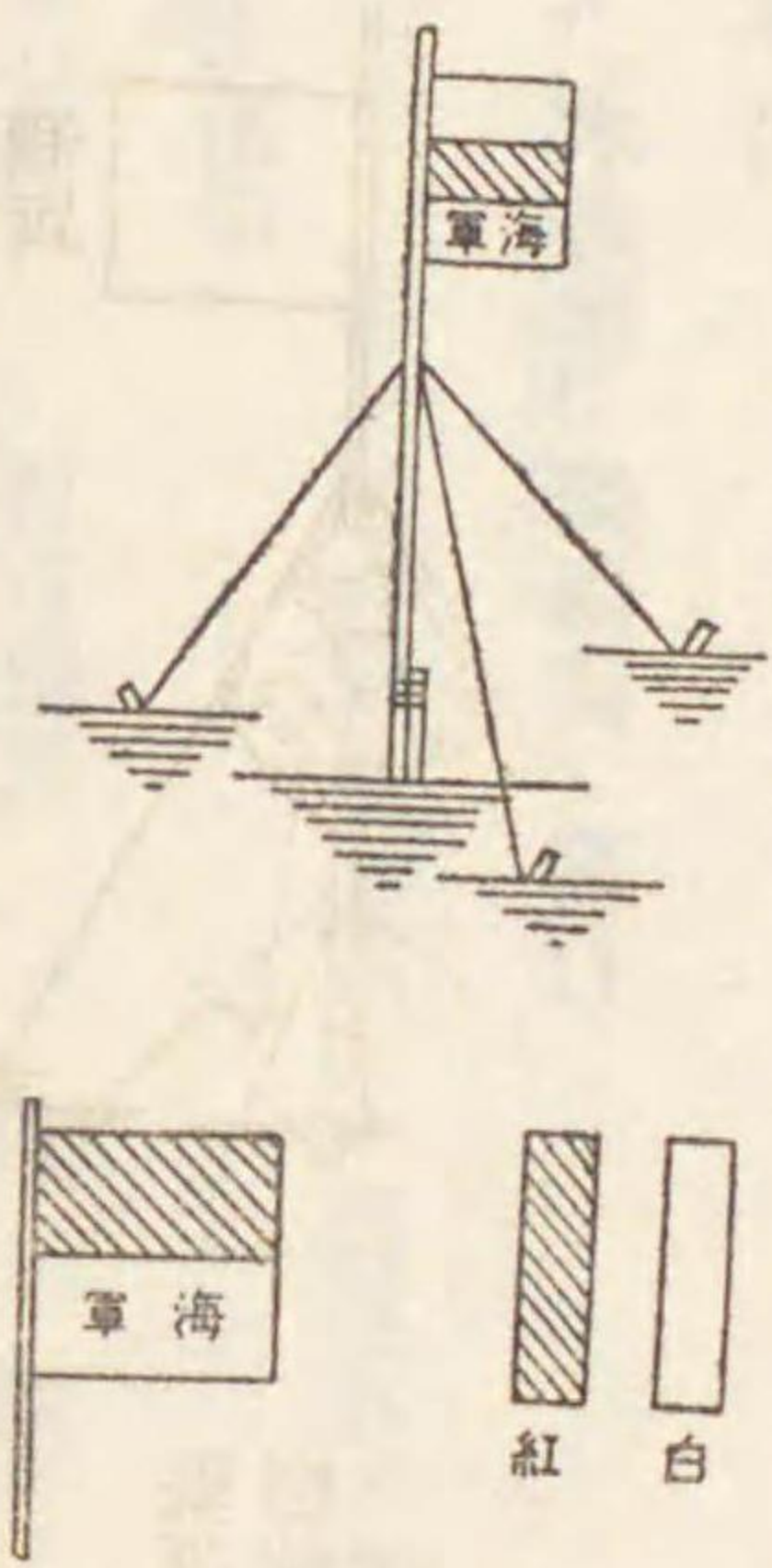
四 月

一日 明治二十三年六月海軍省告示第十六號水路測量標條例中測標ニ關スル項中第二圖及第八圖ヲ左ノ通改正セラレ度旨上申ノ處茲ニ海軍省告示第六號ヲ以テ公布セラル（明治二十三年六月同二十七年三月ノ記事參照）

展覽會出品

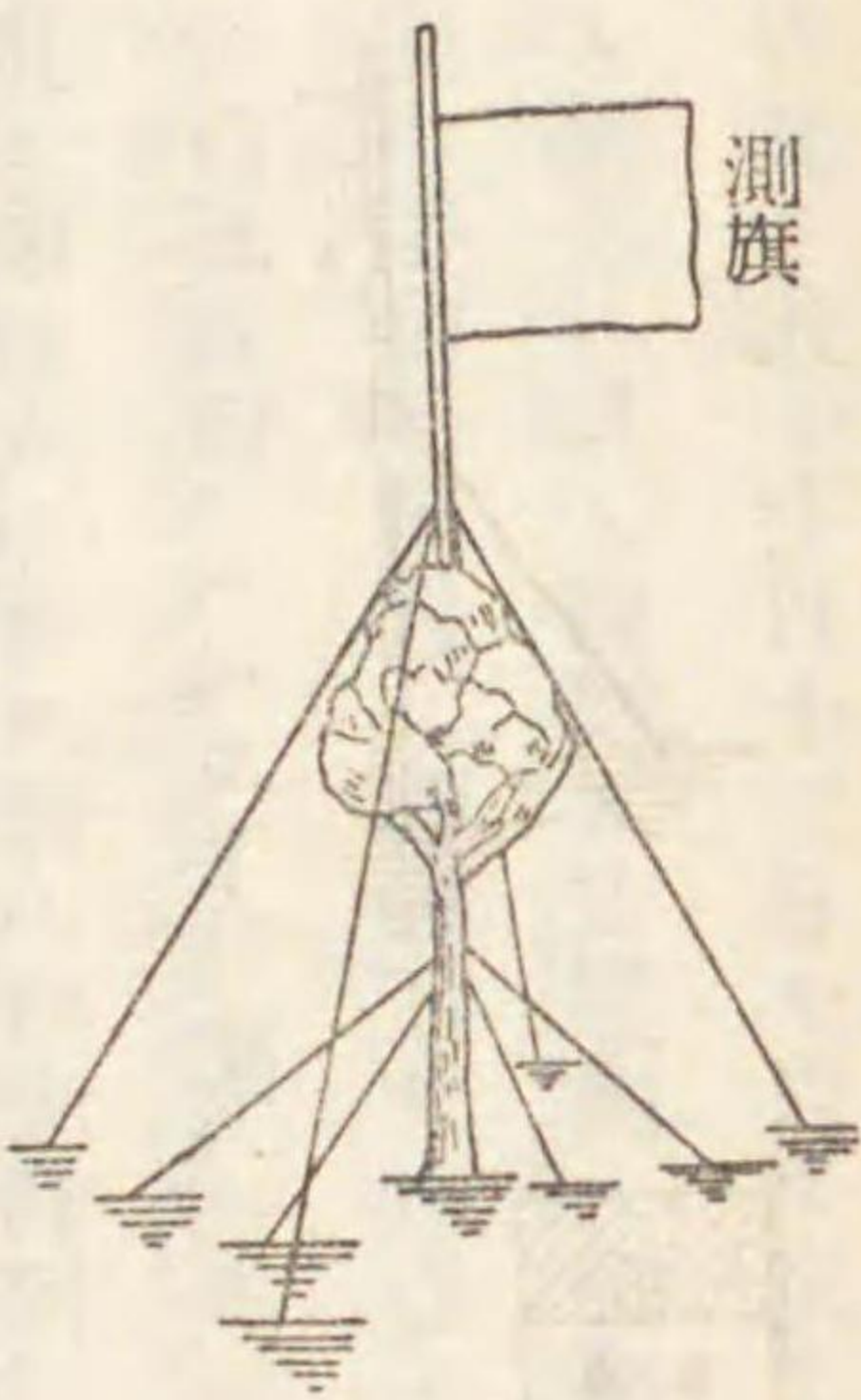
測標ノ改正

圖 二 第



紅白二色ノ金巾ヲ用キ下方白地ニ「海」ノ二字ヲ黑色ヲ以テ染ム其ノ大サハ測望ノ難易ニ應ジテ各大小アリ竿ハ竹又ハ木材、杭ハ木材片面ニ海軍水路測點ト書ス或ハ傍側ニ木標ヲ添設シテ之ニ書スルコトアルヘシ
張綱ハ鐵線ヲ用キ場合ニヨリ棕桐繩麻繩繩ヲ用フルコトアリ

圖 八 第



繁茂シタル樹枝ヲ束ネテ旗竿ノ中ニ纏フ

右改正ノ理由ハ從來ノ測旗ハ記號ナク何レニ屬スルヤ不明ノ爲之ヲ破棄若ハ奪取セラルル場合多キヲ以テ陸地測量部ト同様ノ形式トナシ、前記二種以外ノ測旗ハ使用ノ結果不都合ノ點多ク十數年前ヨリ之ヲ使用セザルヲ以テ削除シ、張綱ハ目下主トシテ鐵線ヲ使用スルガ爲ニシテ又第八圖ノ旗ハ第二圖ノ測旗ノ何レヲモ使用スルヲ以テナリ

十一日 特命檢閱使海軍大將男爵加藤定吉ノ檢閱ヲ受ク

二十一日 芦野第四課長高等官一等ニ進級依願本官ヲ免ゼラレ海軍技師中野德郎第四課長ニ補セララル

五 月

二十日 當部定員表中部員ノ部「二十九」ヲ「三十」ニ、書記「十」ヲ「十一」ニ、技手「三十八」ヲ「四十」ニ、計ノ部「三十七人」ヲ「三十八人」ニ、「五十四人」ヲ「五十七人」ニ改メラル、此ノ増員ハ主トシテ編曆事業ニ充テラレタルモノニシテ即チ増員中技師一、技手二ハ第四課ニ、書記一ハ第一課ニ配員サル、斯クシテ豫テ編曆事業擴張ノ爲要望セシ人員ハ其ノ一部ヲ増置サルルコトトナレリ

六 月

大正十年

二五三

定員増加

特命檢閱
課長更迭

大正十年

二五四

本月國際水路局成立シ當部之ニ加盟ス、本局ハ之ヲ「モナコ」ニ置キ同年十月國際聯盟ノ監督下ニ歸セリ、其ノ目的トスル所左記ノ如シ

- 一、加盟國水路機關ノ間ニ密接ニシテ永久ノ提携ヲ確立スルコト
- 二、全世界海洋上ノ航行ヲ一層容易且安全ナラシムル爲加盟國水路機關ノ水路事業ノ調和ヲ圖ルコト
- 三、水路機關ヲシテ國際水路會議ノ決議ヲ採用セシムルコトニ努ムルコト
- 四、爲シ得ル限り水路圖誌ノ齊一ヲ圖ルコト
- 五、最良ノ水路測量法ノ採用ヲ獎勵スルコト
- 六、水路學ノ理論及應用ノ進歩ヲ圖ルコト

「註」 國際水路局創立當時ニ於ケル加盟國ハ「アルゼンティン」國、白耳義國、「ブラジル」國、英帝國（聯合土國、「オーストラリヤ」）、「チリ」國、支那國、丁抹國、佛蘭西國、希臘國、日本帝國、「モナコ」國、和蘭國、諾威國、「ペルー」國、「ポルトガル」國、暹羅國、西班牙國、瑞典國ノ十八箇國ニシテ其ノ後加入シタル國ハ伊太利國、「エジプト」國、亞米利加合衆國、「ポーランド」國、獨逸國ナリシモ白耳義國、「ペルー」國、「チリ」國及諾威國ハ其ノ後脫退セリ

本年測量方面中鴨綠江附近（鴨綠江ヲ中心トシテ新義州安東龍岩浦ヲ含ム南北約三十二浬、東西約二十五浬ノ地域）ノ測量ハ其ノ區域ノ支那國ト相接スルヲ以テ同國ト協定ヲ必要トシ茲ニ左記ノ協定成立シ本月十四日ヨリ作業ヲ起シ七月十三日ヲ以テ完了ス

記

- 一、國境河川ノ測量ナルヲ以テ日支協同測量ヲ行フベシト雖モ事實ハ日支各別ニ測量ヲ行ヒ其ノ完成圖ハ相互交換スル事
 - 二、我ガ水路測量中大東溝附近支那沿岸測量ノ際ニ限り支那官憲ヲ立合ハシム
 - 三、測量技術上ノ必要資料ハ支那側ニ供給スル事
- 十八日 當部長ヨリ北海道廳長官沿海府縣知事宛海面埋立岸線變更等ノ通牒範圍ニ付左ノ如ク通知ヲ發ス
 （明治三十年一月同三十九年十二月ノ記事參照）

明治三十年官房第二九號ニ依ル海軍大臣訓令及同三十九年官房第四八二九號ヲ以テ海軍次官ヨリ申進ニ係ハル海面埋立及岸線變更通牒方ニ關シ其ノ後屢御通報ニ接シ居候處小面積ノ埋立等ハ何分之ヲ海圖ニ改訂致ス事困難ニ就キ爾今縮尺一萬分ノ一ヲ以テシテモ十分ニ圖示シ難キ物即チ平方形面積ニ於テ一〇〇〇坪以下又最大邊ノ長サ約五十間以下ノ物ハ便宜通牒方省略相成差支無之候條此ノ旨及通知候

七月

二十四日 水路部附（第四課勤務）海軍技手關守一兼練習艦隊司令部附ヲ命ゼラル蓋シ當部判任官ニシテ遠洋航海ニ從事セシハ同技手ヲ以テ嚆矢トス

九月

十五日 達第百七十七號ヲ以テ水路圖誌經理規程ヲ改正セラル、同規程ハ曩ニ大正二年三月改正セラレシ

大正十年

二五五

ガ其ノ後實驗ノ結果字句ノ訂正其ノ他改正ノ要ヲ認メ上申中ノ處茲ニ該規程ノ改正發布ヲ見ルニ至レリ
即チ此ノ規程ニ於テハ從來ノ水路圖誌供給表ヲ水路圖誌定數表ト改メ、圖誌借用期限ヲ短縮シテ六箇月
トシ又海圖區域ヲ左ノ如ク改正セリ、海圖區域ノ改正ハ南洋委任統治區ヲ第一區ニ編入セシガ爲ナリ

第一區

東經九十五度以東 赤道 以北 東經百七十度以東 北緯四度以北
東經百七十度以西 北緯六十五度以南 及 東經百七十五度以西 北緯二十度以南

第一部 東經百十三度以東、東經百六十度以西 北緯二十一度三十分以北、北緯五十五度以南
第二部 第一區中ヨリ第一區ニ屬スル區域ヲ除キタル殘ノ海面

第二區

東經三十度以東 北緯七十度以南 (第一區、亞米利加東岸、地中海以北ヲ除ク)
西經七十度以西 南緯六十度以北

第三區

第三區ハ第一區第二區ヲ除キタル殘ノ全海面トス

備考 第一區第二區ニ跨ル所ノ海圖竝ニ第一區第二區第三區ニ跨ル所ノ海圖ハ總テ之ヲ第一區海圖
トシ第二區第三區ニ跨ル所ノ海圖ハ之ヲ第二區海圖トス又第一區内ニ於テ第一部第二部ニ跨ル所ノ
海圖ハ之ヲ第一部海圖トス

米式海圖ノ
識別

二十八日 米式海圖ノ識別ヲ明ニシテ使用者ノ便ニ供スル爲爾今當分ノ間此ノ種ノ海圖ニ限り陸部ニ着色
ヲ施シ其ノ布目ヲ廢シ欄外ニ 水深 米突 (METRE) ト捺印ス、但シ雜用海圖及緊急ノ用途ニ充ツル爲
急速印刷スベキ海圖ハ布目ヲ施サザル黒一色圖トス

十一月

課長更迭

二十日 第一課長關田大佐海軍軍令部出仕ニ轉ジ第三課長岡村大佐新ニ第一課長ニ、海軍中佐三村俊夫第
三課長ニ夫々補セラレ

潮信ニ關ス
ル件一定

二十五日 海圖上ニ掲グベキ潮信ハ當部最近刊ノ潮汐表ニ據ルベキ旨定メ又該表記載區域外ニ屬スルモノ
ハ英版潮汐表ニ據ルヲ原則トシ英版潮汐表ニモ記載ナキモノハ各其ノ統治國刊行ノ海圖ニ據ルコトニ一
定ス

十二月

七日 當部刊行海圖ニ附與スベキ番號ハ部版圖誌擴張ニ伴ヒ大正七年改正シタル處更ニ之ヲ改メ左ノ方針
ニ據ルコトニ定ム

海圖番號方
針ノ改定

「註」海圖番號ノ割當方針ハ其ノ後種々ノ改正意見アルモ再三研究ノ結果一舉ニシテ之ヲ改正スルハ
頗ル困難ナルヲ以テ此ノ決定方針ヲ以テ今日(昭和十年)ニ至ル

海圖番號方針

總圖	一	二	1001	1010	800	840
北洲	三	四	1011	1050		
本洲南東岸及南方諸島	四	九	1051	1100		
内海、四國、本洲北西岸	100	164	1101	1150		
九州、南西諸島及臺灣	155	250	1101	1150		

大正十年

二五八

樺太、露領沿岸
朝鮮

支那沿岸

揚子江及江口附近
揚子江以北
揚子江以南

安南及交趾支那

暹羅海灣及馬來半島東岸

菲律賓諸島

セレベス諸島

ジロロ島及附近諸島

ボルネオ島及附近

ニューギネア島及附近

スマトラ島

ジャバ島

フロレス、チモール等諸島

布哇諸島

南洋諸島

二五 — 三〇〇

三〇一 — 三五〇

四〇一 — 五〇〇

五〇一 — 五九七

五九八 — 四八〇

七〇一 — 七五〇

六四一 — 七〇〇

五二 — 六四四

八四 — 一〇〇〇

二〇一 — 二〇五〇

二〇一 — 二〇〇〇

一三〇一 — 一三五〇

一三五二 — 一三〇〇

一三〇一 — 一三〇〇

一三〇一 — 一五〇〇

一五〇一 — 一五五〇

一五五 — 一六〇〇

七五 — 七六〇

一七〇一 — 一八〇〇

一八〇一 — 一八五〇

一八五 — 一九〇〇

一九〇一 — 二〇〇〇

一三五 — 一四〇〇

一四〇 — 一四五〇

一四五 — 一五〇〇

一六〇 — 一七〇〇

クック、マーキエサス、ソサイチー、
タブアイ諸島、タモツー叢島
エリース、ホエニックス、ユニオン、
サモア及ギルバート諸島
フィジー、トンガ及カルマデック諸島
ソロモン諸島
サンタクルーズ、トールレスバンクス、
ニューヘブライ諸島
ニューカレドニア、ローヤルチ諸島

二〇五 — 二〇〇

二〇一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二二 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二二 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

二二一 — 二二〇〇

新西蘭

濠洲 (特種海圖番號通)

ベンガル灣東岸

ベンガル灣、印度沿岸、印度洋、アデ

ン海灣、アラビヤ海、紅海 (特種海圖番號通)

アフリカ東岸、南岸、印度洋諸島 (特種海圖番號通)

アラスカ、ベーリング海、アリューシヤ

ン諸島、亞米利加西岸 (特種海圖番號ニ

雑圖

事業概況

本年度測量ハ根室附近、大湊港、大間港、伊豫灘東部、鴨綠江附近及仁川ノ各地ノ改測、横濱港及横須賀

大正十年

二五九

事業概況
測量

港ノ補測、軍艦大和ヲ以テスル北海道南岸沖、特務艦膠州ヲ以テスル濟州島東方面、軍艦滿州ヲ以テスル「バシー」水道及澎湖水道ノ各海面錘測、探礁、海洋觀測並ニ軍艦武藏及特務艦膠州ノ特別作業、特務艦松江ノ南洋方面ニ於ケル作業等ニシテ此ノ外津輕海峽ニ於テ潮流測量ヲ施行セリ
 測量綜合成績ハ測得陸面積二、八四八平方哩、同海面積四一、三二三平方哩、同海岸線一、二三五哩、錘測數一〇〇、九六四、海洋觀測二十六箇所、經緯度測六箇所ナリ

圖誌

圖誌作業中水路誌ノ刊行ハ日本水路誌第二卷、同第三卷、麻刺加海峽水路誌（英版支那海水路誌第一卷全譯新刊）ノ三種ニシテ此ノ外本年度刊行ニ係ル書誌ハ水路誌附錄第一卷追補第六、東洋燈臺表下卷、潮汐表、水路雜俎第九號等ナリ、又海圖刊行數ハ新刊百十八版改版五十三版合計百七十一版ニシテ昨年計畫セシ主要航路用タル速成寫眞鉛版即チ歐洲線三十七版、南北米國線五十五版ハ本年度ニ於テ完結シ僅ニ濠洲東岸線三十版中約半數ノ未了ノ分ヲ殘スニ留マレリ、本年度刊行雜圖中新規ニ屬スルモノハ時刻帶圖一種ニシテ航路統計圖ハ日本南海五月ヨリ十月分迄ノ六種ヲ刊行セリ、特種海圖ハ第二區海圖完成迄之ヲ維持スルノ策ヲ採リ本年度ニ於テハ新刊一版改版四十四版ヲ出版セリ
 圖誌ノ受入部數ハ普通海圖五二、六三六枚、同書誌七、二四〇冊ニシテ拂下海圖ハ四八、〇三六枚（內雜用海圖七、五二三枚）同書誌ハ八、〇九〇冊ナリ

編曆

編曆事業ノ獨立ハ大正八年以來繼續完成ニ努メ昨年四月該事業ノ擴張ニ關シ上申スル所アリシガ本年四月更ニ水第二四九號ヲ以テ其ノ緊要ナル所以ヲ上申シ編曆事業完成ノ全計畫ヲ提案シ之ガ所要經費四三、二五〇圓八七（技師二、技手一五ノ増員ニ對スル俸給ヲ含ム）ノ増額並ニ約百坪ノ編曆作業室ノ新築ヲ要求セリ

セリ、此ノ要求ニ對シ本年五月技師一、技手二ヲ増員サレタルモ技師一ハ遂ニ補充ヲ見ルニ至ラズ、又編曆完成ニ要スル經費トシテ本年度ニ於テ始メテ圖誌費五、〇五九圓ノ増額ヲ見稍面目ヲ新ニスル所アリタルモ猶僅ニ太陽、恒星ノ獨立推算及惑星ノ推算準備ヲナシ得タルニ過ギズ而シテ本年度ハ曆算ニ於テ太陽位置推算ハ大正十二年分ヲ終ヘ、大正十四年分大半終了、恒星位置推算ハ大正十四年分大半終了、惑星推算ハ準備中ナリ、編纂ニ在リテハ大正十一年航海年表、同潮汐表ヲ刊行セリ、尙潮汐表ニハ新ニ主ナル事項ニ英文目次ヲ附シ、潮時及潮高表中新ニ「チャイウ」錨地ヲ加ヘ、潮信表中日本南洋群島露領沿海州及支那ノ一部ニハ新規定ニヨル潮汐常數ヲ掲ゲ、潮信表中各地ノ潮汐及潮流記事ニ改補ヲ加ヘシ等ノ諸改正ヲ施セリ

人員

大正十年三月三十一日調現在員ハ高等官三十六名、判任官五十四名、雇員備人二百八十二名、合計三百七十二名他ニ臨時備三十四名、總計四百六十六名ナリ

經費

本年度歳出支額總計八三八、一二五圓内五〇四、五七〇圓ハ經常部ニ、一二二、六四九圓ハ臨時部ニ、二一〇、九〇六圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、此ノ中經常部ニ於テ新規ニ増配ヲ受ケタルハ國際水路會議決議實行ニ要スル經費一九、六一四圓編曆科完成ニ要スル經費五、〇五九圓ニシテ其ノ他ノ増加ハ主トシテ俸給令ノ改正ニ伴フ俸給ノ増額及水路費ニ於テ物價騰貴ニ伴フ増加ナリ又臨時部ニ於テハ軍需品整備品一〇、五〇三圓ノ減額及拂下圖誌製造費ニ於テ五三、〇二〇圓ノ減額ヲ示セリ

營繕

本年度新營修繕工事中重ナルモノ左ノ如シ

一、新 營

大正十一年

二六二

- イ、構内湯沸場（木造平家三坪ニシテ昨年末火災ニ罹リシモノノ復舊）
- ロ、器械實驗室（木造平家十五坪）
- 二、改 築
- 第二課部員及屬員室隔壁ヲ取除キ二室ヲ一室トナス

大正十一年

一 月

十八日 昨年測量ニ係ル鴨綠江附近ノ測量圖ハ今回完成セシテ以テ當時支那官憲トノ協定ニ從ヒ之ヲ上海海關各口巡工司宛送付ス（大正十年六月ノ記事參照）

二十五日 當部測量ニ依ル海圖上ノ經緯度ハ自今左記ニ據ルコトニ改メタリ

(イ) 陸地測量部ノ三角測量ノ成果及之ヨリ導キタルモノニ據ル
但シ同成果ニ據リ得ザル區域ニ於テハ從來ノ通天測成果ヨリ導キ算出ス

(ロ) 經緯度ノ算出ニハ「ベッセル」氏標準偏球ヲ基礎トスルヲ原則トス
但シ「クラーク」氏（一八六六年）ノ標準偏球ヲ基礎トセル從來使用ノ各表ノ改版ヲ完成スル迄當分ノ内其ノ儘之ニ據ルコトヲ得

「註」從來當部測量ニ依ル經緯度ノ決定方針ハ實測天文經緯度ヲ基礎トスル法ニ據リタルモ斯クテ

上海海關宛
測量完成圖
ノ送付
海圖經緯度
採用方針ノ
改正

ハ海圖編纂上地形ノ吻合セザル部ヲ生ズルノミナラズ作業ヲ著シク煩雜ナラシムル不利ヲ伴フヲ以テ客年十一月當部部員山口中佐ノ提案ニ係ル「海圖ノ原點ノ經緯度トシテ天測經緯度ノ使用ヲ止メ測地經緯度ヲ使用スルコトニ就テ」ヲ基礎トシ海圖經緯度採用方針調査委員ヲ設ケ慎重審議ノ結果原案ノ主旨ヲ採用スルヲ至當ト認メ前記本文ノ如キ決議ヲ見ルニ至リ茲ニ該方針ヲ改訂ス（詳細ハ海圖經緯度採用方針調査ニ關スル書類參照ヲ要ス）

二 月

十五日 測量用尺及基準面ニ關シ凡ソ左ノ通實施ノコトニ定ム

用尺單位 米 式

水深ノ基準面 基本水準面（略最低低潮面）

高程ノ基準面 平均水面

十六日 箕浦會計課長海軍建築本部部員ニ轉ジ海軍主計少佐伊藤勇雄同課長ニ補セラレ

二十八日 大正九年以來觀測竝ニ編曆事務囑託中ノ露人「カメンスキー」ヲ解囑ス

三 月

十五日 海圖作製方針ヲ左ノ通改定ス

我が測量區域ニ屬スル海圖ハ左記方針ニ據リ作製ス、我が測量區域外ニ屬スル海圖ト雖モ出來得ル限り之ニ準ズルモノトス

- 一、實形五萬分ノ一ヨリ小尺度ノ海圖ハ凡テ漸長圖トス、ソレヨリ大尺度ノ海圖ハ凡テ平面圖トス

大正十一年

二六三

測量用尺及
基準面ノ規
定

課長更迭

海圖作製方
針ノ改定

- 二、漸長圖ノ尺度ハ凡テ緯度三十五度ニ於ケル經度ノ長サヲ基礎トス、即チ漸長圖ノ尺度ハ緯度三十五度ニ於ケル地球上ノ經度一分ノ實際ノ長サト圖上經度一分ノ長サトノ比トス
- 三、第二項ノ海圖ニハ其ノ尺度ヲ圖ノ表題記事中ニ左記ニ據リ記載ス

$$\frac{1}{500,000} \quad (\text{Lat. } 35^\circ)$$

備考 平面圖ノ尺度ハ從來ノ通圖ノ中分緯度ニ於ケル實形分數ヲ記載ス

四、海圖ノ尺度ハ特ニ制限シ難キモ海岸ノ地形及其ノ重要程度ヲ考慮シ連續セル一地域内ノ同級海圖ハ出來得ル限り同一尺度ノモノニ依リ聯結スルヲ主旨トス

三十一日 艦船令中ヲ改正シ特務艦中ニ測量艦ヲ加ヘラレ大和、武藏、膠州及松江ノ四艦之ニ屬ス

四月

二十八日 第二區海圖新刊及米式海圖刊行方針ヲ定ム、即チ第二區海圖ノ新刊ハ大正五年ヨリ擴張作業トシテ著手シ目下進捗中ノモノナルモ大正十年度ニ於テ度量衡法ノ改正ニ伴ヒ本年度以降漸次海圖ヲ米式ニ改ムルコトトナリタル結果從來ノ方針ヲ改ムル必要ヲ認め第二區海圖ハ一通リ軍事上竝ニ一般通商上支障ナキ範圍ニ止ムルコトトシ之ヲ大正十三年度ヲ以テ完成シ次テ米式海圖トシテ新刊ノ際圖域及尺度ヲ改善シ而シテ十三年度以降擴張區域海圖整備維持ノ餘力ヲ以テ米式海圖刊行計畫實施ニ從フコトトシ又米式海圖ハ既刊海圖及第二區擴張區域ニ屬スル刊行豫定海圖ヲ總テ米式ニ改ムルモノニシテ此ノ作業ハ單ニ海圖上ノ水深高程等ノ單位ヲ米式ニ改ムルノミニ非ズシテ殆ド從來ノ海圖ヲ捨テテ新刊作業ヲ繰

第二區海圖
及米式海圖
刊行方針
ノ改定

測量艦種ノ
制定

返スコトトナリ當部ハ之ガ實施ヲ二十五箇年ノ繼續作業トシテ提案シ本年度ニ於テ其ノ年度經費ノ半額ヲ認メラレ十二年度以降其ノ全額ノ配布ヲ受クル豫定ナルヲ以テ測量實施計畫トノ關係ヲ考慮シ其ノ作業實施順序及年度ヲ定メタリ尙本邦領海及附近ニ於ケル我が新測ノ海圖ハ總テ米式トシテ刊行シ航海保安上必要ト認ムル場合ハ特ニ米、尋、呷ノ換算表ヲ圖載スルコトトセリ(詳細ハ大正十一年水路部年報ヲ参照スベシ)

第二區海圖新刊及米式海圖刊行方針

一、第二區海圖ノ新刊

大正五年ヨリ擴張作業トシテ著手セルモノニシテ今後尙十三箇年ヲ以テ完成スル豫定ニテ進捗中ナリシモ大正十年度ニ於テ度量衡法ノ改正ニ伴ヒ大正十一年度以降漸次海圖ヲ米式圖ニ改ムルコトトナリタル結果從來ノ方針ヲ改ムルノ必要ヲ認め大正十年度内ニ於テ二區内主要航路ニ當ル海圖ノ速成ニ著手シタル例ニ倣ヒ左ノ通改定スルコトニ改メ實施ノ豫定ナリ

イ、第二區内海圖ハ目下命令濟ノモノノ外約二百版ヲ速成ス、其ノ選定ハ我が國ノ立場ヨリ其ノ要否ニ鑑ミ關係多キ方面ニ厚ク關係少キ方面ニ薄ク軍事及通商上先ヅ一通リ差支ナキ程度ヲ主眼トス

ロ、速成海圖ハ一般ニ英版圖ヲ原圖トスルモ英原圖ニシテ甚シク不備ナル場合ニハ主權國刊行ノ海圖

ニ據ルモノトス

備考

速成圖トハ大體ニ於テ原圖ノ區域ヲ改ムルコトナク海圖表題ト羅針圖ヲ我ガ圖式ニ改メ寫眞亞鉛版ヲ以テ刊行セルモノヲ指稱スルモ原圖ノ鮮明ヲ缺クモノニ在リテハ正式ノ編纂法ニ據ルモノトス

ハ、本速成圖ハ今後三箇年即チ大正十三年度ヲ以テ完成シ次デ米式海圖トシテ新刊ノ際圖域及尺度ヲ改善スルモノトス、而シテ十三年度以降擴張區域海圖整備維持ノ餘力ヲ以テ米式海圖刊行計畫實施ニ從事セシムルモノトス

二、前記方針ニ依リ其ノ著手順序ヲ定ムルコト左ノ如シ

1. 亞刺斯加 二〇
 2. 波斯海灣 五
 3. 南太平洋諸島 六三
 4. 南米西岸南部 一〇
 5. 新西蘭 二二
 6. 濠洲北西岸及南岸 二六
 7. 印度洋西部 二五
- 合計 一七一

右ノ外漸次調査ノ歩ヲ進ムルニ從ヒ既刊及未刊速成區域内ニ於テ尙多少ノ増加ヲ要スル見込ナリ

二、特種海圖ノ處理

特種海圖ハ第二區擴張區域内ノ海圖ヲ完成スルニハ約二十箇年ヲ要スル豫定ナリシヲ以テ其ノ完成迄

ノ期間ニ於テ主トシテ軍事上ノ要求ヲ充サンガ爲英版海圖ヲ覆版セルモノナルモ前記第一項記載ノ如ク第二區海圖ヲ今後三箇年内ニ一般通商軍事上支障ナシト認ムル程度ニ新刊スルコトニ變更ノ結果今後速成海圖刊行區域内ノ特種海圖ハ漸次廢版トシ速成ニ洩レタル英版圖ハ其ノ原備ノ一枚ヲ英告示ニ據リ改補ヲ施シ置キ特殊ノ必要上新刊ヲ要スル場合ニハ之ヲ原圖トシ覆版スルノ準備ニ充ツルニ止ム

三、米式海圖ノ刊行作業計畫

大正十年度度量衡法ノ改正ニ伴ヒ米式單位ヲ海圖ニ採用シ既刊海圖約一、四〇〇版及第二區擴張區域ニ屬スル刊行豫定海圖約二、三〇〇版ヲ總テ米式海圖トシテ刊行スル作業ニシテ左記諸項ヲ併セ實施スルモノトス

- イ、既刊海圖ニ就キ從來ノ航海者ノ要求等ヲ斟酌シ海圖區域及尺度ノ變更
 - ロ、本邦領海及附近ノ海圖ニ就テハ緯度三十五度ノ經度尺ヲ定數トシ海圖尺度ノ統一
 - ハ、我が測量ニ據ル海圖上ノ經緯度ヲ測地經緯度ニ統一シ海圖ノ編成替ヲナス
 - ニ、國際水路會議ノ決議ニ基ク海圖圖式及高程ノ基準面ノ統一
 - ホ、海圖上ノ名稱及記事記法ノ統一
- 故ニ海圖ヲ米式ニ改ムルノ作業ハ單ニ海圖上ノ水深高程等ノ單位ヲ米式ニ改ムルノミニ非ズシテ殆ド從來ノ海圖ヲ捨テテ新刊作業ヲ繰返スコトトナリ當部ハ之ガ實施ヲ二十五箇年ノ繼續作業トシテ提案シ大正十一年度ニ於テ其ノ年度經費ノ半額ヲ認メラレ十二年度以降其ノ全額ノ配付ヲ受クル豫定ナルヲ以テ測量實施計畫トノ關係ヲ考慮シ其ノ作業實施順序及年度ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一期 本邦領海 七箇年 (自十七年至二十一年) 約四〇〇版
 第二期 本邦領海ヲ除ク第一區 六箇年 (自十八年至二十三年) 約七〇〇版
 第三期 第二區 十二箇年 (自二十四年至三十五年) 約一、六〇〇版
 然シテ右第一期作業ヲ更ニ左記年度順ニ實施スル豫定ナリ

年度	區	域	同上豫定版數	年度内完成豫定版數
一一	南洋群島		二八	二五
一二	樺太		一一	五〇
一三	千島	本洲北岸及北海道	一四	五〇
一四	本洲東岸		三四	五五
一五	本洲南岸		一〇	五五
一六	南方諸島		八	五五
一七	内海		四二	六〇
一八	四國南岸		三七	六〇
一九	九州		七	六五
二〇	朝鮮		七〇	六五
二一	其ノ他		六三	七〇

一七	南西諸島、臺灣	四〇	………
	本洲北西岸	二四	………
	其ノ他	一一	………
			七五

附記

尙本邦領海及附近ニ於ケル我が新測ノ海圖ハ總テ米式トシテ刊行シ航海保安上必要ト認ムル場合ハ特ニ米、尋、呎ノ換算表ヲ圖載ス

五 月

邦文及文字
横書ノ件

二十四日 從來當部刊行圖類ニ於ケル邦文及文字ハ横書ノ場合右方ヨリ左方ニ記註スルヲ例トセシガ爾今之ヲ總テ横列ニ左方ヨリ右方ニ記註スルコトニ改ム

「註」 書誌ニ於テ横列記註ノ件ハ曩ニ大正八年翻譯水路誌ノ場合ニ限リ之ヲ採用セシガ今回圖類ニ於テ横書ノ方式ヲ改ムルト共ニ書誌モ亦一般ニ左方ヨリ右方ニ記註スル横書體ヲ採用シ本年度ヨリ新ニ編纂ニ著手スルモノハ此ノ方式ニ據レリ

六 月

第二回磁氣
測量

本月第二回全國磁氣測量ニ著手ス、本測量ハ其ノ第一回ヲ大正元年及二年ノ兩年度ニ於テ實施シ今回ハ其ノ第二回測量ニシテ地域モ擴張シ委任統治南洋群島及支那領土ノ一部ニ涉レリ

八 月

大正十一年

大正十一年

二七〇

十二日 當部刊行圖誌類ノ記註ニ用ヒシ羅馬字綴方ハ從來「ヘボン」式ト稱スルモノナリシガ茲ニ之ヲ改メテ爾今日本式羅馬字綴方ニ據ルコトニ一定ス

「註」 日本式羅馬字綴方ハ未ダ一般ニハ使用スル所トナラザリシモ之ヲ在來ノ「ヘボン」式ニ比スルトキハ一層簡單且組織的ニシテ日本語本來ノ發音ニ最モ能ク適シ一般日本人ニ覺エ易キノミナラズ英語國以外ノ外人ニモ好適ノ美點アリ因ツテ當部ニ於テハ研究ノ結果日本式ノ採用ヲ有利ト認メ其ノ實施期ハ恰モ海圖ニ米法ヲ採用シ之ガ改版斷行ノ機ニ於テスルヲ便利トナシ茲ニ日本式綴方採用ノ議ヲ決セリ、尙當時既ニ陸地測量部ニ於テハ其ノ刊行ニ係ル萬國百萬分一地圖ニ日本式羅馬字綴方ヲ採用セルモ有力ナル一因ヲ爲セリ

因ニ今回採用セル日本式羅馬字綴方ハ後大正十四年ニ至リ當部ニ於テ用字例ヲ編纂スルニ當リ其ノ一部ニ改正ヲ加ヘ越エテ昭和三年六月官房第一九三九號ノ二ヲ以テ海軍部内ニ於ケル羅馬字綴方標準ヲ所謂日本式ニ定メラルルヤ當部ニ於テモ之ニ倣ヒ翌四年六月更ニ些少ノ改正ヲ施セリ之即チ現今使用ノ綴方ナリ

九 月

本月水路要報第一號ヲ發行ス、本書發行ノ目的ハ現今ノ圖誌及告示等ノ脱漏ヲ補ヒ且水路航海ニ關シ參考タルベキ學理實驗等ヲ一般ニ公表スルヲ主眼トシタルモノニシテ之ガ資料ハ直接ニ圖誌改補資料タラザルノ故ニ棄却シツツアル諸報告、將來圖誌資料タルベキ而モ緊要ノ事項、關係學術實驗其ノ他水路圖誌ニ關スル注意事項、豫告、廣告等ヲ以テ之ニ充テ而シテ之ガ發行ハ月刊ト定メタリ

十一月

十日 第一課長岡村大佐海軍軍令部出仕ニ轉ジ第二課長加藤大佐第一課長ニ補セララル

同十八日第三課長三村大佐軍令部出仕ニ轉ジ海軍中佐山本土岐彦同課長ニ補セララル

十二月

一日 海軍大佐河村達藏當部第二課長ニ補セララル

同日海軍大學校選科學生海軍大尉小林淑人同松良考行同近藤爲次郎ノ三名ハ各學生ヲ免ゼラレ當部部員ニ補セラル蓋シ松良大尉ハ編曆事業完成ノ爲星學研究ノ目的ヲ以テ大正八年十二月海軍大學校選科學生ニ補セラレ又小林近藤ノ兩大尉ハ水路測量研究ノ爲同學生タリシモノニシテ孰レモ斯種選科學生ノ嚆矢

ナリ

二十七日 當部定員表中部員ノ部「三十」ヲ「二十九」ニ、技手「四十」ヲ「四十三」ニ、計ノ部「三十八人」ヲ「三十七人」ニ、「五十七人」ヲ「六十人」ニ改メ大正十二年二月一日ヨリ實施セララル、此ノ改正ハ定員ヲ整理シ主トシテ編曆事業完成ノ爲當該課ニ充員ヲ見タルモノナリ

事業概況

本年測量ハ海岸測量ニ在リテハ經常費ニ於テ周防沿岸、陸中氣仙沼、湊泊地ノ各地及測量艦作業タル石卷至津輕海峽東部（明石）、野島埼至日本南海方面（滿州）、朝鮮南西岸（膠州）ノ各方面ニ於テ之ヲ施行シ臨時軍事費ヲ以テ測量艦膠州、武藏及松江ノ三艦ハ夫々北方並ニ南方ノ海面ニ作業セリ
測量綜合成績ハ測得陸面積三、九八一平方哩、同海面積六〇、八四三平方哩、同海岸線一、〇七一哩、錘測

定員改正

課長更迭

大正十一年

二七一

大正十一年

數六八、一六〇ナリ

磁氣測量ハ内地、朝鮮、臺灣、關東州及青島ノ各地ニ於テ實施シ測量地點ハ一三五箇所ナリ又潮流測量ハ豊後水道及内海西部ニ於テ之ヲ施行セリ

本年圖誌作業ニ於テ特筆スベキハ第二區海圖刊行方針ノ改訂竝ニ米式海圖刊行作業ノ開始ノ二件ニシテ共ニ本年四月ノ項ニ概述セリ、本年度ニ於ケル新刊海圖ハ百七版ニシテ本邦領土沿岸ハ比較的少ク第一區中外國領土ニ屬スルモノ竝ニ第二區ニ屬スル分多數ヲ占メ就中一昨年ヨリ著手セル重要航路ニ關スルモノハ濠洲東岸方面ニ於テ三十八版、南北米西岸方面十八版、波斯灣ニ版、「ソロモン」諸島十版ニ及ベリ而シテ改版ハ四十一版ニシテ特種海圖ハ新刊五版改版三十五版ナリ又刊行書誌ハ菲律賓諸島水路誌上卷（米版菲律賓諸島水路誌第一卷全譯新刊）、布哇水路誌（英版太平洋諸島水路誌第三卷第六編及米版水路誌其ノ他ノ資料ニ據ル）、日本水路誌第一卷追補第一、揚子江水路誌第一卷追補、同第二卷追補第一、同第三卷追補第一、其ノ他水路圖誌取扱心得、水路測量用諸表、海洋氣象觀測心得、東洋燈臺表上卷等ナリ、刊行雜圖中新規ニ屬スルモノハ北太平洋ノ天氣圖第一輯、來島海峽潮流圖ニシテ又航路統計圖ハ昨年ニ引續キ十一月分ヲ刊行セリ

編曆

本年度圖誌ノ受入部數ハ普通海圖三一、五四六枚、同書誌一〇、〇〇三冊ニシテ拂下海圖ハ六一、三〇一枚（内雜用海圖七、七一九枚）、同書誌ハ七、五六〇冊ナリ
編曆事業ハ本年度ニ於テ技師一、技手二ノ定員増加及圖誌費トシテ六千五百二十七圓ノ經費増額アリタルヲ以テ在來ノ太陽、恒星ノ獨立推算ノ維持及惑星ノ推算準備完成ニ努メ尙事業全計畫ノ完成ノ爲要スル定

人員

員増加及之ニ要スル經費其ノ他ニ付本年三月上申スル處アリタリ、本年刊行ニ係ル大正十二年航海年表及同潮汐表ハ各改良ヲ加ヘ、前者ニ在リテハ視位ヲ掲記セル恒星ノ略位ヲ新ニ加ヘ、恒星視位ハ每六十日ニ掲記セルヲ毎二十日ニ改メ、北極星緯度表及北極星方位角表ヲ改變シ又後者ニ在リテハ潮流轉換時及流速表中ニ新ニ來島海峽ヲ加ヘ尙潮信表ニ些少ノ改變ヲ施セリ

大正十一年三月三十一日調現在員ハ高等官三十六名、判任官五十七名、雇員備人二百七十二名、合計三百六十五名他ニ臨時備四十八名、總計四百十三名ナリ

經費

本年度歳出支出額總計一、〇六〇、七七九圓ニシテ内五八六、八五九圓ハ經常部ニ、二四〇、二二二圓ハ臨時部ニ、一三三、六九八圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、之ヲ前年度ニ比較スルニ主ナル増額ハ經常部ニ於テハ本年度ヨリ米式海圖刊行ニ要スル經費ノ増八〇、五六五圓（要求額ノ半額）及編曆事業ニ要スル増額七、五一五圓ノ二件ニシテ臨時部ニ在リテハ海圖米化ニ件フ備品類ノ調辨費トシテ軍需品整備費海圖新調費一三七、一四八圓ノ増加ナリ而シテ拂下圖誌製造費ハ六〇、〇〇〇圓ニシテ前年度ニ比シ一〇、〇〇〇圓ノ増加ヲ示セリ

特ニ記スベキ事項ナシ

營繕

大正十二年

三月

大正十二年

大正十二年

二七四

「シグスビー」深海測深儀ノ整備

從來深海測深ニ使用セシ「ルーカス」測深器ハ實施上不便少カラザリシ爲昨年「シグスビー」深海測深儀五臺ヲ購入シ本月此ノ中二臺ヲ測量艦膠州ニ裝備セリ

四 月

第五臺場ノ保管轉換ノ

一日 從來測量艇ハ各地軍港港務部ニ之ガ保管ヲ依頼シアリタルモ横須賀港務部ハ敷地狹隘ノ理由ヲ以テ之ガ保管ニ應ジ難キ旨照會シ來レルヲ以テ當部ニ於テハ種々研究ノ結果海軍技術研究所所屬ノ第五防禦區敷地（通稱第五臺場）ヲ以テ測量艇置場ニ適當ト認メ關係各部ニ協議ヲ進メ茲ニ同敷地ノ保管轉換ヲ受ケタリ

「註」斯クテ此ノ敷地ニハ測量艇格納ニ必要ナル若干ノ施設ヲ爲セシモ同年震災ノ爲狀況ニ變化ヲ生ゼシ等ノ事情ニ依リ之ガ利用ハ實現サルルニ至ラズ後昭和八年八月十日ニ至リ同敷地及同地内ノ建物、工作物ノ用途ヲ廢シ總テ之ヲ大藏省ニ引渡セリ

五 月

二十三日 當部定員中部員ノ部「二十九」ヲ「三十」ニ、書記「十一」ヲ「十二」ニ、技手「四十三」ヲ「五十」ニ、士官、高等文官「三十七人」ヲ「三十八人」ニ、判任文官「六十人」ヲ「六十八人」ニ改メラル

六 月

一日 部長犬塚少將海軍軍令部出仕ニ轉任海軍少將内田虎三郎水路部長ニ補セラレ
曩ニ大正八年研究ニ着手セル掃海探礁法ハ其ノ後同年秋東京灣口ノ探礁ニ適用シタルノミニシテ爾來漸ク

部長更迭
掃海探礁法ノ研究

定員改正

之ガ使用及研究ヲ等閑ニ附セラレントスル傾向ニ在リシガ昨年軍艦霧島ノ觸礁事件等ノコトアリテヨリ同法ハ再ビ一般ノ注意ヲ喚起スル處トナリ地質ニ依リテハ其ノ絶對必要ヲ認ムルニ至リ更ニ研究ヲ進ムルコトトシ茲ニ本月金田灣ニ於テ之ガ實地研究ニ從事セリ

七 月

第二回汎太平洋學術會議參列ノ爲當部部員小倉海軍技師濠洲ニ出張ヲ命ゼラル、該會議ハ本年八月中旬ヨリ九月初旬ニ互リ「メルボルン」及「シドニー」ニ於テ開催サレ同技師ハ之ニ列席シ十月歸朝ス

技師濠洲出張

八 月

昨年着手セシ第二回全國磁氣測量ハ本年之ヲ南洋群島方面ニ施行シ茲ニ業ヲ了ヘ班員ハ本月十四日歸京ス

第二回磁氣測量ノ終了

九 月

一日 午前十一時五十八分關東地方一帯ニ互リ大震アリ、當部ハ此ノ第一回ノ激震ニヨリ廳舎ノ一部崩壞シ側壁壞裂天井墜落ノ箇所ヲ生ジ又屋根瓦ノ剝落ハ甚シカリシモ人員ニ異狀ナク差當リ危険ノ虞ナカリシヲ以テ取敢ヘズ重要書類ノ整理ヲ行ヒ當直員ヲ増配シテ警戒ニ當ラシメ一般勤務者ハ歸宅セシメタリ、然ルニ其ノ後市中ニ頻發セシ火災ハ夜ニ入りテ益猛威ヲ逞ウシ漸次銀座築地方面ヨリ當部地域ニ迫リ當部モ全ク危険ニ瀕セリ、之ヨリ先加藤第一課長ハ部員海軍少佐野澤錦ニ臨時當直將校ヲ命ジテ部内ノ警戒ニ當ラシメ同夜八時以後ハ部員山口中佐次第三課長山本中佐登廳シテ一般ノ指揮ヲ掌リ防火ニ努メシガ遂ニ午後十時四十分印刷室ノ屋根ニ引火セシヲ初トシ次デ廳舎支關直上ノ屋根ヨリ火焰ヲ發シ忽ニシテ各部ニ燃エ擴ガリ警戒員必死ノ努力モ其ノ効ナク守衛詰所（重要書類搬入）、修技室、湯沸

大正十二年

二七五

室、實驗室、經線儀室、油庫及廳舍階下倉庫煉瓦造ノ部三棟ノ外全建築物ノ燒失ヲ見ルニ至レリ、斯クノ如クニシテ當部ハ此ノ災厄ニ因リ創業以來五十箇年ノ長年月ニ互リテ辛苦蒐集シタル幾多貴重ナル資料竝ニ作業ノ結晶タル測量原稿圖、海圖原版(約二千五百版)ヲ悉ク灰燼ニ歸セシメ一大損害ヲ蒙リ又之ガ爲豫定作業ニ大支障ヲ及ボセルハ詢ニ遺憾ノ極ト謂フベシ

此ノ震火災ノ爲當部勤務者中ニハ死傷者ナカリシモ其ノ家族中ニ四名ノ死者ヲ出シ又家屋倒塌、類燒等ノ罹災者ハ二百十三名ノ多キニ達セリ

當部ハ罹災後其ノ使命ニ鑑ミ作業復舊ノ一日モ忽ニスベカラザルヲ慮リ殘存建物ヲ利用シ又海軍省、軍令部ノ一室ニ於テ執務シ銳意應急ノ諸作業ニ從事セリ、此等ノ詳細ニ關シテハ大正十二年水路部年報ニ詳記シアルヲ以テ茲ニハ其ノ大要ヲ述ブルニ止ム即チ左ノ如シ

一、今回ノ大震ノ爲東京灣、相模灘附近ノ地形ニ大變動アルベキヲ豫想シ部員竹内水路中佐ヲ驅逐艦野風ニ便乗セシメ九月十一日ヨリ十二日ニ互リ該方面ノ地形水深變化ノ一般狀況ヲ調査セシメ愈改測ノ必要ナルヲ認メ震災應急費、水路改測費十二萬五千五百六十二圓ノ配付ヲ受ケ是ガ實施ニ着手セリ、而シテ先ヅ第一次測量トシテ大和及武藏ノ兩艦ニ各部員及技手一名ヲ便乗セシメ九月十九日ヨリ同月二十八日ニ互リ東京灣及房、相、豆沿岸ヲ略測セシメ其ノ結果ヲ水路告示其ノ他ニテ發表シ次デ第二次測量ニ着手ス即チ十月十一日ヨリ測量艦膠州、武藏、大和及松江ノ四艦ト測量班四箇班トヲ以テ伊豆木崎ヨリ大島南端ヲ經テ房州内海灣ニ至ル線以北ノ海面及沿岸ノ精測竝ニ伊豆諸島方面ノ補測ヲ開始シ翌大正十三年二月中旬ニ至リ完了ス

二、罹災物件中海圖原版ノ燒失ハ今後直ニ海圖ノ供給ニ支障ヲ來スヲ以テ之ガ復舊ハ最モ緊急ヲ要スル作業ニシテ即チ茲ニ軍事通商兩方面ヲ考慮シ一、〇〇〇版ヲ選出シテ之ヲ本年度内ニ恢復スルノ計畫ヲ立テ大阪精版印刷株式會社ニ交渉シテ印刷セシムルコトトシ差當リ應急需給策トシテ特ニ需要多キ海圖一五六版ヲ選定シテ本年末ヨリ翌一月ニ涉リ同會社ヲシテ印刷セシメ順次補給押下ヲ了シ殘餘ハ本年度内ニ豫定作業ヲ終レリ

三、水路告示類ハ本月二十六日ヨリ軍令部印刷所ニ於テ作業ヲ開始シ又東京高等工藝學校ニ寫眞部員ノ一部ヲ派遣シテ應急作業ニ從事セシメ其ノ他燒殘ノ建築物内ニ於テ製版原稿ノ調製、燒殘機械物品ノ手入等全從業員ハ舉ゲテ復舊作業ニ全力ヲ傾倒シタリ

斯クテ翌大正十三年三月十六日ニ至リ「バラック」建築ノ竣成ト共ニ作業復興式ヲ燒跡ニ舉行シ震災後約半歲ニ於テ事業約三割ノ復舊進度ニ達シ茲ニ漸ク復興ノ第一聲ヲ舉グルニ至レリ

二十八日 本日附ヲ以テ當部部員中ニ主計科佐尉官一名ヲ増置セラル、之震災復舊事務ノ爲特ニ臨時配員サレタルモノナリ

十月

十八日 大阪精版會社トノ海圖原版復舊ニ關スル交渉成立シ部員國生少佐ハ技手以下八名ヲ引率主トシテ燒殘在庫海圖ヨリ調製セル原稿ノ一部ヲ携ヘ大阪ニ向ケ出發茲ニ製版作業復舊ノ緒ニ就ク

二十五日 震災地測量作業ノ敏活ヲ期センガ爲第二課職員ノ一部ヲ神奈川縣三崎町第二測量班根據地ニ派遣シ當該測量實施ニ關スル課務ヲ同地ニ於テ取扱ハシムルコトトシ即チ第二課長河村大佐以下同地ニ出

臨時増員

製版作業ノ開始

第二課職員ノ派遣

大正十二年

張ス

十一月

十日 第一課長加藤大佐海軍軍令部出仕ニ轉ジ河村第二課長新ニ第一課長ニ、海軍中佐三戸基介第二課長ニ補セラル

此ノ日國民精神作興ニ關スル大詔煥發セララル

十二月

震災直後ニ於テ當部ノ罹災ヲ國際水路局ニ打電シ各加盟國水路部ヘ向ケ當部圖誌編纂資料供給方ノ斡旋ヲ依頼シタル處本月末ニ至リ英國水路部ヨリ其ノ第一回分到着ス、當部ノ罹災ハ各國水路部ノ大ニ同情スル處トナリ其ノ後續々圖誌類ノ寄贈ヲ受ケ其ノ額ハ總計海圖九、二三九枚書誌五一〇冊ニ達セリ、茲ニ此等資料提供ヲ得タル國別廳名ヲ掲記シテ感謝ノ意ヲ表ス即チ左ノ如シ

英、米、佛、蘭、伊、瑞、諾、丁、西、葡、希、暹、智、亞國各水路部（米國ハ海陸測量部共）、白工部省、支各口巡工司

二十五日 瑞典「ルドン」大學ヨリ同大學圖書館用トシテ測量地圖等ノ寄贈方申入アリタルモ當部ハ資料焼失ノ爲差當リ英文水路部沿革史、英文水路部學術報告各一部ニ止メ海圖ハ追テ原版復舊出版シ得ルニ至ラバ出來得ル限り希望ニ應ズル旨回答ス

事業概況

本年度測量實施計畫ハ海岸測量ニ在リテハ島原海灣及陸中沿岸ニ於ケル測量班作業、測量艦大和、武藏、

瑞典大學ニ圖書寄贈

外國水路部ヨリ圖誌寄贈

大詔煥發

課長更迭

測量事業概況

膠州ヲ以テスル日本海方面、本洲南岸及本洲東岸各地ニ於ケル錘測、探礁作業並ニ測量艦松江、大和、膠州及武藏ヲ以テスル特別區域ノ作業ニシテ磁氣測量ハ昨年ヨリノ繼續事業タル全國磁氣測量ノ本年度分ニ屬スル南洋群島ニ於ケル觀測作業等ナリ此等ノ實施ハ大震災ノ爲各班共豫定ヲ早メテ歸京シタルモ略豫定作業ヲ完了スルヲ得タリ、尙前記作業ノ外膠州、大和、松江及武藏ノ各測量艦ハ海洋觀測（橫斷觀測）ヲ各方面ニ互リテ實施シ海洋調査上大ニ得ル所アリタリ、震災後ハ震災地沿岸測量ニ從事セシコト前述ノ如シ

前記測量成績ハ海岸測量ニ於テ測得陸面積一、九一三平方哩、同海面積一、二〇九平方哩、同海岸線七七六哩、錘測數六八、六三八ニシテ磁氣測量ハ南洋群島ニ於テ十九箇所、色丹島附近ニ於テ四箇所ヲ觀測セリ、又海洋觀測ニ在リテハ觀測地點合計七十四箇所ナリ、此ノ外震災地測量成績ハ測得陸面積七六七平方哩、同海面積二、五九四平方哩、同海岸線四二九哩、錘測數八三、八二〇ナリ

本年度圖誌作業中海圖ノ刊行ニ關シテハ其ノ計畫ニ於テ一、「メートル」式海圖刊行 二、改測等ニ依ル第一區海圖ノ新刊及改版 三、第一區内外國領土海圖ノ維持 四、第二區海圖ノ新刊 五、特種海圖ノ維持ノ五種ニ區別シテ之ガ實施ニ當リシ處偶九月一日ノ大震災ニ依リ此等ノ計畫ハ勿論既定方針ニ大改革ヲ施スノ已ムナキニ至リ震災後ハ燒失原版ノ復舊ニ努力シ第一區海圖ノ殆ド全部ト第二區海圖ノ一部並ニ海圖式及海圖索引合計一千版ヲ應急的ニ復舊セル等臨時作業ヲ以テ終始セリ從ツテ本年度刊行海圖ハ年度末ニ於テ震災地附近測量ノ結果ニ依ル三版ヲ假製圖トシテ發行シ又地形水深調査圖（大震後ニ於ケル震災地沿岸水深變化ノ比較圖）四葉ヲ調製セシ外ハ總テ其ノ以前ノ作業ニ係ルモノニシテ新刊二十三版改版二十一

圖誌

大正十二年

二七九

二七八

大正十二年

二八〇

版合計四十四版及特種海圖四版ナリ
 書誌ノ刊行モ亦主トシテ震災前ニ行ハレ其ノ後ハ年度末ニ至リ日本水路誌第三卷追補第一ヲ刊行シタルノミ而シテ震災ニ依リ原稿及資料ヲ焼失シタル爲豫定ニ依ル能ハザリシモノ尠カラズ、刊行書誌ノ主ナルモノハ支那沿岸水路誌第三卷追補第一、露領沿海州水路誌追補第一上、同追補第一下、支那沿岸水路誌第一卷追補第一、同第二卷追補第一、日本水路誌第四卷追補第一、水路雜俎第十號及航海年表、潮汐表等ナリ
 圖誌ノ受入部數ハ普通海圖三二、二七八枚、同書誌一三、七五一冊ニシテ拂下海圖ハ八七、七四五枚（内雜用海圖七、四〇〇枚）同書誌ハ一一、三九五冊ナリ

編曆

編曆事業ハ前年度豫算ヲ踏襲シテ太陽、恒星、惑星ノ獨立推算ノ維持及航海年表、潮汐表ノ編纂ニ當リシガ九月一日ノ大震災災ニ因リ推算ニ必要ナル諸原表竝ニ大略完了シタル原稿其ノ他編纂材料ノ焼失シタルハ實ニ遺憾トスル所ナリ、然レドモ此等ノ事業ハ其ノ性質上一定ノ時期ニ刊行スルヲ要シ之ガ一部ヲ翌年ニ繰リ延ブル等ノコトヲ許サザルヲ以テ當部燒殘ノ極メテ狹隘ナル器械實驗室ニ於テ課員一同其ノ全力ヲ傾注シテ之ガ回復ニ努メタル結果年度末ニ近ヅキ十四年航海年表、同潮汐表ノ兩表共辛ウジテ脱稿スルヲ得タルヲ以テ茲ニ僅ニ支障ナク刊行シ得ルノ運ビニ至レリ

人員

編曆事業ノ獨立ハ未ダ前途遼遠ナルモノアルヲ以テ更ニ速ニ事業完成ノ爲ニ要スル定員増加竝ニ所要ノ經費ヲ大正十三年度ニ於テ要求セリ
 大正十二年三月三十一日調現在員ハ高等官三十七名、判任官五十一名、雇員備人三百三十四名、合計四百二十二名他ニ臨時備七十三名、總計四百九十五名ナリ

經費

本年度歳出支出額總計一、〇八五、八九二圓内六二二、八七三圓ハ經常部ニ、二八二、七九六圓ハ臨時部ニ、一八〇、二二三圓ハ臨時軍事費ニ屬ス而シテ上記ノ外震災應急費トシテ本省購買ニ屬スル當部用金額ハ七八〇、〇〇〇圓ナリ、之ヲ前年度經費ニ比較スレバ主ナルモノハ經常部ニ於テ水路費二五、四二一圓ノ増加、臨時部ニ於テ軍需品整備費八九、〇九七圓ヲ減シ震災應急費一四三、二四二圓ノ増額ヲ見又拂下圖誌製造費ハ本年度八六、〇〇〇圓ニシテ二六、〇〇〇圓ヲ増加セリ、臨時軍事費ニ於テハ水路費四〇、六四五圓ノ減少ニシテ支出總額ハ前年度ヨリ二萬五千餘圓ノ増額ナリ

營繕

九月一日關東大震災災ニヨリ當部廳舎全部燒失シ類焼ヲ免レタル箇所ハ左記ノ如シ
 (一)守衛詰所一棟 (二)修技室一棟 (三)湯沸場一棟 (四)便所二棟 (五)器械實驗室一棟 (六)經線儀室一棟 (七)油庫一棟 (八)倉庫(第二課二、第三課二、會計課一) (九)鉛版鑄造場一棟
 震災後舊敷地ニ假建築ヲ行フコトナリ本年十一月十日工事ニ着手シ翌十三年一月四日竣工ス

大正十三年

一 月

十日 昨年九月一日ノ大震災災ニ際シ當部勤務者中左記ノ者ハ當部ノ警戒防火等ニ當リ公務ノ爲獻身の行動ヲ爲シ其ノ行爲衆人ノ模範トスルニ足ル者ト認メ上申中ノ處本日附ヲ以テ夫々表彰セラル

海軍大佐山本土岐彦、海軍中佐山口清七、海軍少佐野澤錦二、海軍主計少佐伊藤勇雄(以上部長表彰)

大正十三年

二八一

善行者表彰

無線水路告示ノ開始

海軍書記秋山庄作（海軍大臣表彰並賞金授與）、海軍書記久田義比、海軍技手松崎善一郎、同秋元藤一、技生石塚清、同高橋滋、同林正、同齋藤貫一、同戸井田秀道、同小野正彦、同荒木宗二、筆生手島廿八、守衛花摘爲三郎、同小林捨三、使丁小島種次郎（以上部長表彰並賞金授與）、技生島藤衆次、同戸ヶ崎増吉、同伊藤次郎、同内山修治（以上部長表彰）
本月以降水路告示中緊急ト認ムル事項ハ東京海軍無線電信所ヨリ無線電信水路告示トシテ一般艦船ニ放送スルコトトセリ

「註」緊急ヲ要スル水路告示ハ去大正十二年十二月水路ニ關スル諸報告中緊急ノモノ特別通報ノ件ヲ規定シ之ヲ實施シ來リシガ近年長足ノ進歩ヲ爲セル無線電信ノ利用ニ依リ之ガ目的ヲ達センコトヲ企圖セシモ其ノ所管ノ遞信省ニ屬スルノ故ヲ以テ交渉容易ニ進マズ因ツテ差當リ部内艦船ノミニ對シ無線放送ヲ開始スルコトトセリ

二 月

事務所移轉

一日 震災後海軍省内ニ設ケシ當部事務所ハ築地燒跡ニ假廳舎竣工セシヲ以テ之ニ移轉同所ニ於テ執務スルコトトナレリ

三 月

副官官舎ノ建設

六日 曩ニ大正九年當部制度ノ改正ト共ニ副官ノ制ヲ設ケラレシモ副官官舎ハ未ダ建設サルニ至ラザリシガ過般ノ大震災災ノ結果ニ鑑ミ其ノ要ヲ認メラレ本日官房第六三四號ヲ以テ當部副官假官舎建設ノ件決裁セラレ本月三十一日同官舎ハ竣工セリ

作業復興式ノ舉行

十六日 本年初豫テ舊燒跡ニ建築中ノ「バラック」完成シ其ノ後各課ノ作業モ漸ク緒ニ就キシヲ以テ茲ニ本日ヲトシ作業復興式ヲ舉行シ朝野ノ名士ヲ招待シ此ノ機會ニ於テ當部作業ヲ紹介ス

中野技師進級

三十一日 第四課長海軍技師中野徳郎高等官二等ニ叙セラル

四 月

本月東京市主催ニ係ル震災復興展覽會開催セラレ當部ヨリ大震後相模灘附近水深變化調査圖外十點ヲ出品ス

震災展覽會出品

五 月

印刷掛技師任用

二十一日 内閣印刷局勤務成田悌五郎海軍技師ニ任ジ當部第三課勤務ヲ命ゼラル、最近當部印刷作業ハ漸ク發展セシヲ以テ之ガ指導監督ノ爲専門ノ技師ヲ必要トシ茲ニ同技師ノ任用ヲ見ル

圖誌經理規程中改正

三十一日 水路圖誌經理規程別表中ヲ改正、水路圖誌貸與品表中備考第三ニ左ノ一項ヲ追加ス

新高度方位角表 二名ニ付一部

六 月

外國雜誌社ニ圖誌寄贈

三日 米國「ナショナル ジオグラフィック マガジン」社ヨリ外務省ヲ經テ大震ニ基ク地質變化圖ノ要望アリシヲ以テ大震後ノ測量ニ係ル相模灘附近水深變化圖外三點ヲ寄贈ス

八 月

世界最深海ノ發見

軍艦滿州ハ本年測量豫定方面即チ南西諸島方面ニ散在スル疑礁探礁作業ニ從事中本月十四日野島塔南東方約八十哩ノ地點ニ於テ九千九百五十米無着底ノ深水ヲ發見學界ノ注意ヲ喚起セリ、然ルニ其ノ後調査セ

大正十三年

二八四

圖誌寄贈

シ處測量當時ノ狀況不良ナルト測量方法ニモ多少不徹底ノ點アルヲ認メタルヲ以テ採用セザルコトトセ

横濱市ニ於テ震災記念館設立ノ企圖アリ當部ニ之ガ參考トナルベキ物品ノ寄贈方申出アリシヲ以テ震災地

海面水深變化圖及震災前後ニ於ケル横濱港海圖ヲ寄贈ス

課長更迭

十一月 二十日 會計課長伊藤主計少佐陸奥主計長ニ轉ジ海軍主計少佐小菅貞三同課長ニ補セララル

部長課長更迭

一日 部長内田少將海軍中將ニ任ゼラル

五日 部長内田中將海軍軍令部出仕ニ轉ジ海軍少將植村信男部長ニ補セララル

六日 第三課長山本大佐矢矧艦長ニ轉ジ海軍中佐間崎霞同課長ニ補セララル

水路書誌表紙ノ色別

十七日 告達第二號ヲ以テ水路誌及雜書類表紙色別ヲ左ノ通り定ム

一、本邦並ニ委任統治區域水路誌 藍色

二、支那沿岸揚子江及支那海水路誌 黃色

三、露領沿海州水路誌 黑色

四、菲律賓諸島、瓜哇海、麻刺加海峽、スマトラ、セレベス、フィジー、ソサイチー諸島 綠色

濠洲及新西蘭水路誌

綠色

五、ベンガル灣、印度、ペルシヤ灣

紅海及アフリカ東岸水路誌

褐色

六、アラスカ、布哇及米國西岸水路誌

代赭

七、燈臺表、航海年表及潮汐表

鼠色

八、水路報道及雜俎

薄藍色

九、雜書

適宜

備考

右以外ノ水路書誌ハ適宜ノ表紙ヲ用フルコト

「註」 水路誌ノ表紙色別ニ關シテハ曩ニ大正二年（同年圖誌ノ項參照）定ムル所アリシガ茲ニ水路書誌全般ニ互リ表紙色別ヲ定メタリ（本件昭和六年十月告達第六二號ニテ改正アリ）

事業概況

事業概況

客年九月一日大震災災ノ厄ニ遭ヒタル當部ハ今後數年間諸般ノ設備ヲ再興シツツ經常事業ト復舊事業トヲ併行セザルベカラズ然ルニ輒近列國水路作業ノ狀況ヲ調査スルニ英、米、獨、佛ノ如キハ各全世界ニ渉ル水路圖誌ヲ刊行シツツアリ又一九一九年國際水路會議ノ開催以來水路事業ニ關スル各種ノ問題續出シ各國ノ圖誌ハ統一ノ緒ニ就クト共ニ水路事業ノ國際的關係ハ今後益濃厚ナラントシ加フルニ我ガ海運ノ急速ナル發展ヲ稽フルトキハ當部ノ將來漸ク多事ナルヲ想ハシム

當部本年度ニ於ケル事業ノ概況左記ノ記シ

大正十三年

二八五

大正十三年

二八六

測量作業ニ於テハ之ヲ海岸測量、洋中探礁、海洋測量及潮流測量ニ分チテ施行シ尙震火災燒失測量原稿圖ノ再調ニ從事セリ即チ海岸測量ハ函館港及青森灣ノ改測、備讀瀬戸西部ノ改測、竝ニ別府灣其ノ他ニ於ケル測量艦松江ノ作業ニシテ洋中探礁ハ軍艦滿州ヲ以テ南方諸島ヨリ南西諸島方面ニ散在スル「アブレオジヨス」疑礁外六礁ノ探礁ニ、特務艦松江ヲ以テ其ノ他ノ探礁作業ニ從事セシメ又海洋測量ニ在リテハ特務艦大和ヲ以テ日本海ニ於テ約三十哩間隔ニ三條ノ横斷觀測ヲ實施シテ斯種測量ニ新機軸ヲ拓ケリ、尙同艦ハ日本海中部ニ淺水部ノ存在スルヲ發見シ各方面ノ注意ヲ喚起セリ（此ノ淺水部ハ後大和堆ト名付ク）大和ノ外滿州及松江モ夫々日本南海及其ノ他ノ海面ニ於テ海洋觀測ニ從事シ豫定ノ成績ヲ得タリ、潮流測量ハ津輕海峽、豊後水道及瀬戸内海ニ豫定ノ作業ヲ完了シ其ノ他臨時測量トシテ下關海峽ノ水深調査ヲ施行セリ

前記測量ニ於ケル綜合成績ハ海岸測量ニ於テ測得陸面積二九六平方哩、同海面積六一三平方哩、同海岸線三三二哩、錘測數三九、四四三、洋中探礁ニ於テ探礁數二一、測得海面積一九、五四〇平方哩、錘測數四、六六六、海洋觀測ニ於テ觀測箇所三三七、錘測數二二八又潮流測量ニ於テ測量箇所二一〇ナリ

本人大和ハ測風氣象觀測用經緯儀ヲ以テ觀測ヲ試ミタリ、之測量艦ニ於ケル高層氣象觀測ノ始ナリ
圖誌作業中海圖關係事項ハ最近改測ニ依ル海圖ノ改版、燒失シタル未刊行原稿圖ノ復舊及處分、大阪ニ於ケル海圖ノ印刷、應急製版ニ漏レタル普通海圖ノ製版印刷、「メートル」式海圖ノ改版等ニシテ作業成績ハ新刊七十一版、改版三十二版ノ外再版海圖共合計三五一版ヲ刊行セリ、水路誌作業ハ第一區ニ屬スル日本水路誌ハ海圖ノ「メートル」式改版ニ伴ヒ改版シ同時ニ合輯ノ方針ヲ採リ冊數ヲ減少スルコトトシ又支那

沿岸、揚子江及露嶺ニ對スルモノハ爾今當部ノ資料ヲ主トシテ編纂スルノ方針ヲ立テ第二區水路誌ハ英（或ハ米）版水路誌ニ依リ原書約二十五版ニ對スルモノヲ刊行セントシ既二十一年度ヨリ引續キ實施中ニ係リ而シテ本年度ニ於テ刊行セシ水路誌ハ「スマトラ」東側水路誌追補第一及瓜哇海水路誌追補第一ノ二種ニ過ギズ其ノ他刊行書誌ハ大正十四年潮汐表、同航海年表、東洋燈臺表上卷、同下卷、新高度方位角表（英文）、水路誌附錄第一卷ニシテ震災ノ影響ヲ受ケ書誌ノ刊行ハ例年ニ比シ僅少ナリ
圖誌ノ受入部數ハ普通海圖五〇、六四三枚、同書誌一六、六五二冊ニシテ拂下海圖ハ一〇九、六二八枚（内雜用海圖二〇、四七〇枚）同書誌ハ一五、〇三〇冊ナリ

編曆事業ハ未ダ前途遼遠ナルモノアリ、本年度ハ太陽、恒星、惑星ノ獨立推算ノ維持、航海年表及潮汐表ノ編纂竝ニ震災ニ依リテ失ハレタル推算ニ必要ナル諸原表及編纂材料ノ復舊作業ニ從事セリ而シテ本年度ニ於テハ曩ニ燒失セル潮候推算器ノ代リニ新ニ同種ノ推算器ヲ購入セルヲ以テ大正十五年潮汐表ハ震災前ト略精度ヲ等シウスルモノトナレリ

大正十三年三月三十一日調現在員ハ高等官三十三名、判任官五十八名、雇員傭人三百二十名、合計四百一十一名外ニ臨時傭四十九名、總計四百六十名ナリ

本年度歳出支額總計一、〇〇八、五六一圓ニシテ内六三六、三八八圓ハ經常部ニ、三四二、六七六圓ハ臨時部ニ、二九、四九七圓ハ臨時軍事費ニ屬ス、之ヲ前年度支出額ニ比較スレバ經常部ニ於テハ圖誌費増加ノ爲一三、五一五圓ノ増額ヲ見、臨時部ニ於テハ震災應急費ヲ削除シ震災復舊費二四〇、七一七圓ノ年度割配付ヲ得又拂下圖誌費ノ増一五、〇〇〇圓アリ結局五九、八八〇圓ノ増額トナリ支出總計ニ於テ七七、三三一

大正十三年

二八七

大正十四年

二八八

營繕

本年十一月左記諸工事ヲ施行ス

- 一、印刷室殘骸ノ一部ニ屋根、窓、扉ヲ設ク
- 二、第三課倉庫側ニ便所一箇所増設ス
- 三、修技室ニ採光窓ヲ作り入口ヲ「セメント」床トナス
- 四、一號、二號「バラック」北側ニ出入口ヲ設ク
- 五、燒殘倉庫（各課所屬）床板修理ヲナス

大正十四年

一月

水路告示ニ
横書採用

本年水路告示第一號ヨリ左ヨリ右ヘノ横書體ヲ用フルコトトス但シ官報掲載ハ從前通トス（十三年十二月
告達第三號）

對景圖ノ整
理

二十二日 對景圖ハ水路誌ニ編入スルヲ原則トシ緊急ト認ムルモノニ限り海圖ニ記載スルノ方針ニ改メ從
ツテ現行ノ對景圖集ハ水路誌改版ノ際漸次整理シ將來廢版處分ノコトトス（告達第四號）

南洋群島地
名記法ノ規
定

三十一日 南洋群島地名記法ハ一般ノ規定シアラザリシヲ以テ今回之ガ記法ハ本邦領土地名記法ニ準ズル
コトヲ明ニシ普通海圖ニ關シ左ノ通定ム（告達第五號）

一、公認地名ハ漢字又ハ片假名ヲ以テ記入シ主要ナル地名ハ日本式羅馬字ヲ附シ英名（英版海圖ニ記
載セル地名）アルモノハ英名ヲ括弧内ニ附記ス

二、公認地名ナキモノハ土語ヲ片假名ヲ以テ記入シ主要ナルモノハ日本式羅馬字ヲ附シ英名アルモノ
ハ英名ヲ括弧内ニ附記ス

三、英名ノミアリテ公認名、土語名ナキモノハ英稱ヲ片假名ニテ記入シ主要ナルモノハ日本式羅馬字
ヲ附シ英名ヲ括弧内ニ附記ス

三月

十日 當部定員表中部員ノ部「三十」ヲ「三十一」ニ、「技手五十」ヲ「技手五十六」ニ、「士官、高等文
官三十八人内兼務一人」ヲ「士官、高等文官三十九人内兼務一人」ニ、「判任文官六十八人」ヲ「判任文
官七十四人」ニ改メラル、之海圖ニ「メートル」式單位採用ノ爲ニ要スル増員ニシテ大正十三年追加豫
算ニ於テ承認ヲ得シモノナリ

二十日 第二區擴張區域ニ屬スル新刊海圖ハ大正十三年度ヲ以テ一旦中止シ、爾後ハ新改測又ハ海圖計畫
變更ノ結果自然新刊ヲ要スルモノ若ハ外國版海圖新刊ノ結果自然新刊ヲ要スルモノノ外現狀以上ニ特ニ
新刊セザルコトニ定ム

第二區海圖ハ大正五年度ヨリ之ガ刊行ニ着手セシガ大正十三年度ニ於テ軍事上及一般航海用ニ支障ナキ
程度ニ達シタルヲ以テ茲ニ本區域海圖ノ擴張刊行ヲ中止シ餘力ヲ以テ米式海圖ノ刊行ニ從事スル方針ニ
改メタルナリ

大正十四年

二八九

定員増加

第二區海圖
ノ新刊中止

特種海圖ノ
廢止

測量旅費規
則ノ改正

大正十四年

二九〇

右方針決定ト共ニ現行特種海圖、同海圖索引及第二區水路圖誌目錄ヲ廢止セリ

同日告達第七號ヲ以テ前項海圖刊行方針、米式海圖ノ刊行其ノ他海圖ノ準備方針ヲ定ム

四 月

七日 本年一月海軍省令第一號內國旅費規則ノ改正ニ伴ヒ大正十年一月官房第八五號ニ依ル水路測量ノ爲
内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ出張スル者ニ支給スル減額旅費改正ノ要アリ、茲ニ別表ノ通改正方上申ノ處
本日官房第一二二三號ノ二ヲ以テ認許セラル

別表

食卓料	宿 泊		當 日		區 別 旅 費 等 級
	朝鮮 臺灣 樺太	内地	朝鮮 臺灣 樺太	内地	
二〇〇	五二〇	四六〇	二八〇	二四〇	二 等
一八〇	四五〇	三九〇	二五〇	二二〇	三 等
一六〇	三八〇	三二〇	二二〇	一八〇	四 等
一五〇	三五〇	二九〇	二〇〇	一六〇	五 等
一三〇	三二〇	二六〇	一八〇	一四〇	六 等
一二〇	二七〇	二四〇	一五〇	一三〇	七 等
一〇〇	(二七〇) (二五〇)	(二二〇) (二〇〇)	(一五〇) (一四〇)	(一一〇) (一〇〇)	八 等
九〇	(二四〇) (二二〇)	(一九〇) (一六〇)	(一二〇) (一〇〇)	(九〇) (八〇)	九 等
七〇	(一九〇) (一六〇)	(一五〇) (一三〇)	(九〇) (八〇)	(七〇) (六〇)	十 等

一、旅費等級八等以下ノ者同一測量地ニ滞在百日ヲ越ユルトキ其ノ超過日數ニ對シテハ括
弧内ノ金額ヲ支給ス

二、千島國幌筵島以北ニ出張スル者ニハ朝鮮、臺灣、樺太ノ額ヲ支給ス

三、本表ノ日常、宿泊料及食卓料ハ測量地到着ノ日ヨリ發程ノ日迄之ヲ支給ス但シ艦船乘
員測量地ニ於テ本艦船ヲ離レ測量ニ從事スルトキハ其ノ日ヨリ歸艦歸船ノ日
ノ前日)迄本表ノ額ニ依ル
(宿泊料及食卓料ハ
歸艦歸船ノ前日)

四、食卓料ハ艦船附屬又ハ官用ノ船艇ニテ測量ニ從事シ該船艇内ニ起臥スル場合ニ之ヲ支
給ス

五、艦船乗員測量ノ爲出張シ一日内ニ往復スル場合ニ於テハ出發地ヨリ目的地ニ至ル水路
三十海里以上ニ及フコトアルモ日當ハ半額ヲ支給ス

六、測量地域内ニ於ケル鐵道賃、船賃及車馬賃ハ之ヲ支給セス

六 月

從來雇員傭人ニシテ新ニ雇傭ノ際其ノ試雇傭期間中「臨時傭」又ハ「第三課傭」トシテ處理セシガ中ニハ
見習生又ハ女子解版製木工ノ如キ殆ド永續的ノモノアリ身上取扱上種々不便アルヲ以テ今後ハ所定年齢ニ
達セザルモノノ外ハ直ニ夫々相當職名ニ本採用スルコトニ内定シ之ニ關聯シテ左記二項ノ改正アリ

(一)印刷工職名ノ新設

大正十四年

二九一

印刷工職名
ノ新設

大正十四年

二九二

從來當部ニ於テ印刷作業ニ從事スルモノハ等シク「海圖印刷工」ナル名稱ヲ用ヒ來リシモ實際ハ海圖以外即チ書誌類ノ印刷作業モ累年増加ノ趨勢ニアル折柄之ガ職名新設方上申ノ結果本月十二日達第八十四號ヲ以テ追加改正セララル

印刷工並ニ
經師ニ女子
ノ使役

(二)印刷工並ニ經師ニ女子使役ノ件

活版ノ解版及製本ノ作業ハ其ノ性質上女子ニ適シ且之ヲ使役スルノ經濟的ナルニ依リ上申ノ結果本月六日認許セララル

雜書、航海
報告ノ整理

十七日 雜書、航海報告等ニシテ其ノ重要程度大ナラザルモノ又ハ既刊水路誌ニ資料トシテ編入セシモノ等多數存在セシヲ以テ此等ヲ整理スルコト左ノ如シ

一、雜書中備品ヨリ除キ貸與品ニ編入セシモノ 航海表、支那海ノ颶風、水路測量術、水路測量用諸表、極東颶風論、日本近海ノ潮汐、遭難船一覽、海上氣象便覽、ダビス氏太陽眞方向表、バードウー下氏太陽眞方向表

二、雜圖第六〇二七號世界各地日時盤ハ備品ヨリ除キ貸與品ニ編入ス

三、水路圖誌目錄ヨリ削除セシモノハ自大正元年
至大正五年濠洲方面航海報告集ヲ除ク各種ノ航海報告ノ全部十五種及雜書中小倉技師歐米視察報告、水路測量書(四十三年水路部)、氣象學(三十六年馬場信倫)、

The Sailor's Pocket Book, 1903; The Sailor's Hand Book, 1906ノ五種

前記圖誌整理ト共ニ「水路報道第六十四號」ナル名稱ヲ廢止シ之ヲ「水路雜報第七號」ニ改ム、之ニテ水路報道ハ水路圖誌目錄ヨリ消滅セリ

水路報道ノ
廢止

震災地測量

五月二十三日丹後但馬方面ニ激震アリ其ノ影響ニヨリテ或ハ水深地形ニ變化ヲ生ジタルモノナキヤヲ調査セシガ爲高等官及判任官各一名ヲ派遣シ同二十日ヨリ七日間津居山及久美濱兩地附近ノ補測ヲ施行シ實地調査セシガ海中ノ變化ヲ認メザリキ

八 月

六日 海圖上ニ記載スル艦船速力試驗標柱間ノ距離ハ明治四十年之ヲ一定シ六〇八〇呎ヲ以テ一哩ト定メシガ「メートル」單位採用ノ結果今後新刊改版海圖ハ尋式「メートル」式共「メートル」單位ニ改メ當分ノ内標柱間距離六〇八〇呎ナルトキハ一八五三・一八三「メートル」トシ括弧内ニ六〇八〇呎ト附記スルコトトス(告達第十三號)

九 月

二十八日 英文水路圖誌目錄ヲ廢止ス(告達第十五號)

同日達第三百三十一號ヲ以テ水路圖誌貸與期限六箇月ヲ一箇年ニ延長ノ件認許改正セララル、之一般ニ貸與期間六箇月以内ノモノハ稀ニシテ從來貸與手續ノ更新等少カラズ煩瑣ナリシガ期限ヲ多少延長スルモ處理上支障ヲ認メザルヲ以テ之ヲ一箇年トシテ事務簡捷ヲ期セシナリ

昨十三年七月特務艦大和ノ測量ノ結果新ニ發見シタル日本海中部ノ堆及本年六月特務艦武藏ノ新ニ發見シタル北洲西部ノ堆ニ對シ水路圖誌上左ノ通名稱ヲ附與シ度儀具申ノ結果認許セララル

英文圖誌目
錄ノ廢止

大和堆及武
藏堆ノ命名

名稱	位置	最小水深 (米)	記	事
----	----	-------------	---	---

大正十四年

二九三

大和堆	北緯 三九度一五分 東經 一三四度五二分	四三三	大正十三年七月特務艦大和ノ發見
武藏堆	北緯 四四度四七分 東經 一四〇度一五分	三一	大正十四年六月特務艦武藏ノ發見

十月

一日 假發行中ナリシ海流通報ハ水路告示附録トシテ發行ノコトニ決シ其ノ刊行回数ヲ毎月三回トシ本月ヨリ實施ス

二日 昨年三月當部副官假官舎ノ件決裁アリシ處本日官房第三二八六號ヲ以テ水路部副官官舎設置ノ件ヲ制定セラル

二十七日 大正十七年ヨリ潮汐表ニ「メートル」度量衡ヲ採用ノコトニ定ム

支那海軍海道測量局部長海軍少校陳志、同測量員海軍上尉葉可松、同梁同怡、同陳紹弓ノ四名ハ支那海軍部ノ命ニ依リ水路事業一般視察ノ爲本月末來邦約三箇月間當部ニ於テ専ラ水路測量術、海圖調製法、潮汐學ニ關シ研究調査シ尙測量作業地、測量艦、氣象臺、燈臺局等水路事業ニ關係アル諸官衙會社等ヲモ見學シ翌大正十五年一月末歸國セリ

十二月

一日 部長植村少將軍令部出仕ニ轉ジ海軍少將米村末喜水路部長ニ補セラル

同日小菅會計課長橫須賀海軍工廠會計部材料庫主管ニ轉ジ海軍主計少佐淺野要一當部會計課長ニ補セラ

海流通報ノ發行

副官官舎ノ件制定

潮汐表ニ米式ノ採用

外國人當部視察及見學

部長課長更迭

外人見學

事業概況

測量

ル

本月伊國軍艦「リビア」艦長海軍大佐 Alberto Alessio 當部ヲ見學セリ

事業概況

本年度測量ハ海岸測量ニ在リテハ (一)奄美大島及沖繩方面 (二)北見沿岸方面 (三)若狹灣(敦賀方面) (四)備讃瀬戸東部 (五)徳山灣ノ五方面及特務艦松江ノ作業方面ニシテ其ノ他丹後、但馬震災地方面ノ補測及内海航路附近ノ沈船調査ノ諸作業ニ從事セリ

測量綜合成績ハ海岸測量ニ於テ測得陸面積六〇二平方哩、同海面積一、三二四平方哩、同海岸線五九七哩及錘測數七六、五八〇ナリ、海洋觀測ニ在リテハ軍艦滿州ノ本邦南方海面、南西諸島方面等ノ海洋調査及室戸埼沖ノ探礁、特務艦松江ノ海洋觀測並ニ洋中探礁作業、同武藏ノ北海道方面ノ海洋觀測並ニ探礁等ニシテ合計觀測箇所二三三ナリ

本年度海圖關係作業ハ (一)大正九年度以降ノ測量原圖ニ依ル海圖ノ新刊改版 (二)米式改版 (三)南洋群島海圖ノ改版 (四)雜圖ノ新刊改版 (五)大正十三年度ニ於テ新刊セル第二區海圖ノ印刷 (六)震災ノ爲燒失セル雜圖及海圖ノ印刷等ノ諸項ニシテ普通海圖ノ新刊一七一版、改版一〇四版ナリ

水路誌ハ其ノ刊行區域ヲ當分ノ間東經九五度以東、同一七〇度以西、南緯二五度以北、北緯六五度以南及東經一七〇度以東、西經一五〇度以西、南緯二五度以北、北緯四〇度以南ノ區域以內ト定メ、日本水路誌ハ概ネ海圖ノ米式改版ト併行シテ改版ヲ實施シ同時ニ合輯ノ方針ヲ採リ本年十二月日本水路誌第一卷第三改版ヲ刊行ス、即チ本書ハ大正七年刊行ノ日本水路誌第一卷及大正十一年刊行ノ日本水路誌第二卷ヲ合輯

圖誌

大正十四年

二九六

編曆

改纂セルモノナリ、又揚子江水路誌ハ之ヲ三卷ニ分チテ編纂スルコトトシ八月其ノ第一卷ヲ刊行ス、上記ノ外本年度刊行ニ係ル水路誌ハ菲律賓諸島水路誌下卷、支那海東部水路誌第一改版ノ二種ナリ
大正十五年航海年表ハ太陰及日月蝕ニ關スル諸表ヲ除クノ外當部獨立推算ニ依リ編纂セリ、編曆事業ノ獨立ハ尙前途遼遠ナルモノアルヲ以テ成ルベク速ニ事業完成ノ爲要スル定員及經費ヲ大正十五年豫算ニ要求セリ、潮汐表ハ大正十七年度ヨリ其ノ區域ヲ第二區全部ニ擴張シ二卷ニ分チ度量衡ヲ米式ニ改正シテ刊行ノ豫定ニテ之ガ準備ニ着手セリ

人員

本年度圖誌ノ受入部數ハ普通海圖九一、二八三枚、同書誌一七、九五一冊ニシテ拂下圖誌ハ海圖九六、三五二枚（内雜用海圖二、五四〇枚）、書誌一四、六七〇冊ナリ
大正十四年三月末日調現在員ハ高等官三十六名、判任官五十八名、雇員備人三百四十八名、合計四百四十二名他ニ臨時備八十一名、總計五百二十三名ナリ

經費

本年度經費ハ歳出支額總計一、〇四八、七四七圓ニシテ内六三〇、六六二圓ハ經常部ニ屬シ、四一八、〇八五圓ハ臨時部ニ屬ス、而シテ之ヲ前年度經費ニ比較スレバ經常部ニ於テハ殆ド差異ナク、臨時部ニ於テハ新ニ測量費八五、〇〇〇圓ノ増加ヲ見總支出經費ニ於テ四〇、一八六圓ノ増額トナレリ

營繕

本年九月舊印刷室殘骸（百三十二坪）ニ修理ヲ施シ探光ノ爲天窓ヲ附シ又床ノ破損部全部ヲ「コンクリート」トナセリ

大正十五年（昭和元年）

一月

本年水路告示第一號ヨリ告示索引ヲ附スルコトトセリ

水路告示ニ索引ヲ附スル圖誌定數表ノ改正

十四日 官房第一一號ヲ以テ水路圖誌定數表及同貸與品表改正ノ件承認セラレ

二月

一日 本日ヨリ東京無線電信局ニ於テ水路告示中緊急ヲ要スル事項及海上船舶ニ對スル航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項ヲ無線電信ニ依リ放送スルコトニ定メラレ

水路告示ノ無線放送開始

「註」 無線電信ニ依ル水路告示ノ放送ハ去大正十三年一月以降東京海軍無線電信所ニ於テ實施シ來リシモ之ヲ一般船舶ニ及ボスコトハ當部ノ使命上最モ緊要ト認メ關係各部ト協議ノ結果茲ニ主務官廳タル遞信省告示トシテ之ガ實施ニ關スル規定ノ發布ヲ見ルニ至レリ

遞信省告示第一一七號（一月二十五日官報）

大正十五年二月一日ヨリ東京無線電信局ニ於テ左記ニ依リ水路告示中緊急ヲ要スル事項及海上船舶ニ對スル航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項ヲ無線電信ニ依リ放送ス

大正十五年一月二十五日

遞信大臣 安達謙藏

一、放送時刻 午後九時五分ヨリ同十五分迄ノ間

大正十五年

二九七

大正十五年

二九八

- 二、放送電波長 持續電波 七千七百「メートル」
- 三、放送方法

左ノ事項ヲ列記ノ順序ニ從ヒ放送ス

- (イ)海上船舶注意符號 J N T M 三回
- (ロ)自局名前置符號 | : : | 一回
- (ハ)東京無線電信局呼出符號 J J C 一回
- (ニ)通知事項 { 航路標識ノ設置改廢、航路ノ變化、暗礁、海上遭棄物、漂流物、難破船等ノ發見ニ關スル事項等 } 二回
- (ホ)通信結了符號 : : : : | 一回

「港灣狀況」ノ刊行

本月「港灣狀況」ヲ刊行ス、本書ハ航海報告其ノ他ノ資料ニ依リ第一區及第二區内港灣泊地ノ狀況ヲ調査シ一般航海者ノ參考ニ資スルト共ニ圖誌改補ノ資料トナスヲ目的トシタルモノニシテ水路誌ノ刊行區域ノ第二區全部ニ擴張セララル迄ノ過渡期ニ於テ特ニ有意義トスル所ナリ

三 月

仁川觀測所ニ於テハ去大正八年當部ノ委囑ニ依リ磁氣觀測ヲ開始セシガ其ノ觀測ハ水平磁力ノミニ限ラレ且缺測多クシテ完全ナル資料ヲ得ラレザリシヲ以テ今回新ニ當部所屬ノ觀測器械ヲ据附ケ磁氣三要素ノ觀測ヲ同所ニ委囑スルコトトセリ

本月智利公使館附武官海軍中佐 Jorge Fernandez 當部ヲ見學ス

五 月

仁川觀測所ニ磁氣三要素ノ觀測ヲ囑ス

外國武官ノ見學

課長更迭

外國版圖誌ノ購入貯藏ノ件

一日 第一課長河村大佐軍令部出仕ニ轉ジ海軍大佐山口延一同課長ニ補セララル

六日 告達第二十三號ヲ以テ外國版水路圖誌購入貯藏ニ關シ左ノ通定ム

本年度以降水路圖誌經理規程第七條ニ依ル水路圖誌(部版ヲ除ク)貯藏額ヲ左ノ通定ム但シ出師準備用トシテ購入スベキ英米版水路圖誌ノ數額ハ別ニ定ムル所ニ據ル

二 區

版別	區	域	海圖	水路誌	燈臺表	潮汐表	記事
英版	二區全部(米領ヲ除ク)		一一	一一	一一	一一	部版トシテ覆版セルモノヲ除ク
米版	米領太平洋沿岸		一一	一一	一一	一一	

三 區

版別	區	域	海圖	水路誌	燈臺表	潮汐表	記事
英版	三區全部		六	六	六	六	

九 月

南洋群島方面ニ於ケル地磁氣ノ連續觀測ハ當部豫テノ希望ナリシ所今回南洋廳ノ好意ニ依リ在「バラオ」

南洋廳觀測所ニ於ケル

大正十五年

二九九

大正十五年

三〇〇

磁氣觀測ノ開始

南洋廳觀測所内ニ磁氣觀測設備（觀測器械ハ當部所屬）完成セシテ以テ同所長大和隆ニ磁氣觀測ヲ囑託シ本月初ヨリ之ガ觀測（偏差）ヲ開始ス

十月

水路圖誌調製方針ノ規定

十六日 水路圖誌調製方針ニ關シ左ノ通定ム（告達第二十九號）

一、水路圖誌ハ刊行ノ緩急ト供給ノ便宜上刊行區域ヲ附圖ノ通區分ス（附圖略ス）

二、水路圖誌ハ資料ノ性質ト使用ノ目的ニ應ジ概ネ左記區分ニ依リ調製ス

(一) 第一種 本邦領海内（關東州及南洋群島ヲ含ム、以下同ジ）及其ノ附近ノ圖誌ニシテ軍事上及一般船舶航海上ノ要求ニ充ツルモノ

(二) 第二種 本邦領海以外ノ圖誌ニシテ主トシテ軍事上ノ要求ニ充ツルモノ

(三) 第三種 本邦領海以外ノ圖誌ニシテ主トシテ一般船舶航海上ノ要求ニ充ツルモノ

三、海 圖

(一) 第一種海圖ハ當部測量原圖ヲ基本トシテ調製ス

(二) 第二種海圖ハ外國版海圖ヲ原圖トシテ調製シ平時刊行ノ必要ナキモノハ原圖ヲ保存シ必要ニ應ジ覆版ス

(三) 第三種海圖ハ外國版海圖ヲ原圖トシテ調製ス

(四) 海圖調製上ノ細目ニ關シテハ水路圖誌取扱心得、海圖起案心得、製圖作業教範及寫眞製版作業教範ニ依ル

四、水路誌

(一) 第一種水路誌ハ當部測量中實查蒐集シタル水路記事並ニ各種資料ニ依リ調査研究シタル事項ニ基キ編纂ス

(二) 第二種水路誌ハ各統治國ノ水路誌並ニ各種資料ヲ蒐集シ第一種水路誌ニ準ジ編纂ス
平時刊行ノ必要ナキモノハ別ニ定ムル所ニ依ル

(三) 第三種水路誌ハ英版又ハ各統治國ノ水路誌ヨリ一般記事、航路及港灣泊地ニ關スル主要ナル記事ヲ拔萃シ之ニ各種ノ資料ヲ加ヘテ編纂ス

(四) 水路誌編纂上ノ細目ニ關シテハ水路圖誌取扱心得及水路誌編纂心得ニ依ル

五、其ノ他ノ書誌

當分ノ間概ネ水路誌ニ準ジ其ノ細目ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

六、前各項ニ依リ調製シタル水路圖誌ニシテ特種ノ取扱ヲ要スルモノハ別ニ定メラレタル規則、規程ニ依リ其ノ取扱ヲ定ム

〔註〕 本件昭和六年二月告達第五十四號ニテ改正アリ

又同日告達第三十號及第三十一號ヲ以テ水路誌刊行方針並ニ海圖原版ニ關スル件ヲ定ム、即チ水路誌刊行方針（當分ノ間）ハ左ノ如シ

一、第一種、第二種水路誌刊行區域ハ第一區及第二區A、B、D區域内トス

二、第三種水路誌刊行區域ハ第二區域内トス

大正十五年

三〇一

水路誌刊行方針並ニ海圖原版ニ關スル件

第三種水路誌ハ現行港灣狀況ヲ以テ代用ス

三、第一種、第二種水路誌新改版順序ハ左記ニ依ル

- (一) 本邦及揚子江水路誌ノ改版
- (二) 本邦以外ノ第一区内水路誌ノ改版
- (三) 第二区内水路誌ノ改版
- (四) 第二區A、B、D區域ノ新刊順序ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- (五) 餘力アラバC區域ノ水路誌ヲ刊行ス

海圖原版ニ關シテハ第一種海圖ノ原版ハ銅版トシ、第二種海圖ノ原版ハ亞鉛版トシ(平時覆版セザルモノハ原圖ヲ保存ス)、第三種海圖ノ原版モ亞鉛版トスルコトニ定ム(本件ハ其ノ後平凹版ノ出現ニ依リ昭和五年十月告達第五十一號ヲ以テ改正ス)

本月「モナコ」ニ於テ第二回國際水路會議開催セラレ帝國ヨリ代表トシテ海軍大佐河村達藏(前當部第一課長)、同堀悌吉(駐佛武官)之ニ列席シ諸般ノ關係問題ニ對シ研究又ハ決議スル所アリタリ、其ノ主ナル事項左ノ如シ

- (イ) 國際水路局規約
 - (ロ) 海圖
- 各加盟國輸出金額改定、新加盟國ニ對スル割當負擔金ノ規定其ノ他細項ノ改正
- 萬國記號及略語表ヲ水路局ニテ刊行スルコト、一定ノ水深ニ浚渫セル水道ノ表示法、燈臺明弧ノ着色、接續セル海圖ノ表示、海圖標題記載法ノ標準、海圖作製技術ノ研究ニ關スルコト等

第二回國際水路會議ノ開催

(ハ) 水路誌

外國沿岸ニ關スル記事ノ出所及年月ノ明記、原著水路誌ノ索引圖刊行、潮信ノ記載等

(ニ) 燈臺表

光達距離ノ研究、方位呼稱法、燈臺表ニ記載スベキ各種信號所、表ノ様式ニ關スルコト等

(ホ) 水路告示

航路標識ノ新設又ハ變更ノ豫告期限、再告示及一時關係告示法、英又ハ佛譯ニ關スルコト、世界主要各港ニハ各國水路告示ヲ一定箇所ニ備ヘ海員ノ閱覽ニ便ナラシムルコト等

(ヘ) 圖誌目錄

改正ノ日附記入、英又ハ佛譯ニ關スルコト、水路局ニテ各國原著海圖目錄ノ刊行

(ト) 雜

地名ノ羅馬字轉記ニ關スルコト、測量船ノ識別信號制定ヲ關係機關ニ提議スルコト、水路局ニテ各地經緯度標準表ノ作製、水路部見學ニ關スルコト等

(チ) 潮

調和常數ノ使用普及、海圖及水路誌ニ記載スベキ潮信、水路局ニテ世界調和常數表ヲ刊行スルコト、潮汐表ノ英又ハ佛譯ニ關スルコト等

(リ) 測量

大正十五年

昭和元年

三〇四

航空機ノ利用竝ニ掃海及音響測深ノ研究ニ關スルコト等
(又)希望事項

水路會議決議事項ノ採用ニ關スルコト、研究資料提供ニ對スル希望、一九二九年臨時水路會議ヲ開催
スルコト、局ノ移轉問題

十二月

一日 第二課長三戸大佐横須賀鎮守府附ニ轉シ海軍大佐福島寛三同課長ニ補セラル

同日淺野會計課長吳鎮守府防備隊主計長ニ轉シ海軍主計少佐滿山正己同課長ニ補セラル
二十五日 大正天皇崩御 昭和ト改元セララル

事業概況

測量作業中海岸測量ハ(一)駿河灣(二)三陸沿岸方面(三)先島列島(四)來島海峽及備後灘方面(五)宇品港及江田
内(六)軍艦滿州搭乘ノ甲測量班及特務艦膠州乗組ノ乙測量班ノ擔任方面ニ於ケル諸作業ノ外臨時測量トシ
テ名古屋港附近ノ調査及補測ヲ施行セリ、測量綜合成績ハ海岸測量ニ於テ測得陸面積二、〇一五平方哩、
同海面積九、八八六平方哩、同海岸線八三〇哩、鍾測數一〇四、三六二ナリ
海岸測量ハ滿州、膠州及大和ノ三艦之ニ從事シ滿州及膠州ハ本洲南方海面ニ行動シ觀測箇所合計一五二ニ
達シ又同方面ニ於テ洋中探礁ニ從事シ大和ノ日本近海ニ於ケル探礁ト合セテ鍾測數九〇ニ及ベリ
本年度圖誌作業中新刊水路誌ハ揚子江水路誌第二卷、同第三卷、「バンド」海諸島水路誌、支那沿岸水路誌
第三卷追補第二ノ四種ニシテ再版ニ屬スルモノハ支那沿岸水路誌第三卷ノ一種ナリ、其ノ他ノ書誌ハ港灣

圖誌

狀況、東洋燈臺表上卷、航海年表、潮汐表等ナリ

海圖刊行數ハ新刊十五版、改版八十九版合計百四版ナリ而シテ圖誌ノ受入部數ハ普通海圖五〇、八八一枚、

同書誌二一、五六四冊ニシテ拂下海圖八一四、九四九枚(内雜用海圖一一、一〇五枚)同書誌八一九、二六

〇冊ナリ

編曆

編曆作業ハ太陰、日月蝕ニ關スル諸表ノ外當部獨立推算ニ依リ編纂スルニ至リシモ尙豫算及定員ノ増加ヲ
得テ此等ニ關スル諸表ヲモ當部獨立推算ニ依リ得ル如ク準備ヲ進メツツアリ

大正十五年三月三十一日調現在員ハ高等官三十七名、判任官六十四名、雇員傭人四百七十一名、合計五百

七十二名他ニ臨時傭十五名、總計五百八十七名ナリ

經費

本年度歳出支額總計一、〇九三、四二四圓ニシテ内六四四、六一三圓ハ經常部ニ屬シ四四八、八一四圓ハ臨
時部ニ屬ス之ヲ前年度經費ニ比較スルトキハ支出額總計ニ於テ四四、六七七圓經常部ニ於テ一三、九五
圓、臨時部ニ於テ三〇、七二六圓ノ増額ヲ示セリ而シテ經費増加ノ主ナルモノハ臨時部ニ於ケル震災復舊
費年割額五〇、九三五圓増ナリ

本年ハ特記スベキ工事修繕等ナシ

營繕

(終)

昭和元年

三〇五

附表、附圖目次

附表 第一	水路部沿革一覽表
同 第二	人員經費累年比較
同 第三	測量、圖誌作業累年比較
附圖 第一	測量區域圖
同 第二	明治二十九年水路部構内圖
同 第三	大正十二年水路部平面圖
參考 圖	
第一	芝公園内水路部位置圖
第二	嘉永年間ニ於ケル築地
第三	文久元年ノ江戸圖ニ依ル築地
第四	明治元年改正圖ニ依ル築地
第五	明治十年七月海軍省廓内ノ圖
第六	海軍觀象臺（明治十六年頃）
第七	明治十七年參謀本部地圖ニ依ル築地
第八	浴恩園全景

附圖目次

- 第九 明治四十五年東京圖ニ依ル築地
- 第十 大正十四年築地海軍用地ノ圖
- 第十一 海圖第一號 陸中國釜石港ノ圖 (明治五年完成)
- 第十二 釜石港鍾測原稿圖 (明治四年八月測量)

附表第一

水路部沿革一覽表

自創立
至大正十五年(昭和元年)

年	月日	廳名	廳長	記	事
明治	二二一				
同	四	水路掛	柳 檜		兵部省海軍部主任川村純義水路事業ノ必要ヲ認メ津藩士柳檜ヲ以テ兵部省御用掛トシ水路部創設ノコトニ當ラシム
同	一一二〇	水路掛	柳 檜		兵部省海軍部ニ水路局ヲ設ケ之ヲ築地海軍操練所内ニ置ク
同	一一二〇	水路掛	柳 檜		舊築地「ホテル」ヲ買收シ之ニ移轉ス
同	二二二七	水路掛	柳 檜		廳舎類焼シ芝山内松蓮社ニ假居ス
同	八	水路掛	柳 檜		釜石港ノ銅版彫刻成リ之ヲ海圖第一號トシテ刊行ス
同	一〇一三	水路掛	柳 檜		水路局ヲ廢シ水路寮ヲ置カル
同	一一三〇	水路掛	柳 檜		芝山内海軍屬舎ニ移轉ス
同	七一九	水路掛	柳 檜		觀象臺成リ水路寮ニ屬ス

明治九	同	同	同	同	同	同	同
九一	一一二〇一三	一四一一二九	一五三一	一六二二	一九一一二九	四一二二	七一三
水路	水路局	海軍水路部長	海軍水路部	海軍水路部	海軍水路部	海軍水路部	海軍水路部
水路寮ヲ廢シ水路局ヲ置カル	水路報告(水路告示ノ舊名)第一號ヲ發行ス	寰瀛水路誌第三卷(支那東岸廣東福州間)刊成ス、之ヲ具體的水路誌ノ創刊トス	製圖課ヲ廢シ圖誌課ヲ置ク	測量課ヲ量地、觀象ノ二課ニ分ツ	海軍水路部ト改稱ス	海軍水路部官制ヲ制定セラレ、測量、圖誌、測器ノ三科及會計課ヲ置キ又海軍觀象臺ヲ置キ當部ニ屬ス	東京飯倉海軍觀象臺經度ヲ綠威東經一三九度四四分三〇秒三ト定メラル(勅令第五十一號)

同	同	同	同	同	同	同	同
七一一四	五一一九	二五一一二三	二三五二六	二二三一二二	二二六六	二二四一九	二二四一九
水路	水路	水路	水路	水路	水路	水路	水路
水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長
謀本部長ニ隸ス	測器科ヲ廢止セララル	法律第三十八號水路測量標條例ヲ制定公布セララル	水路部條例中ヲ改正、計算課ヲ會計課ト改ム又海軍軍令部條例ノ制定ニ伴ヒ部長ハ海軍軍令部長ニ隸ス	水路圖誌供給規則ヲ改正シ海圖區域ヲ第一第二第三ノ三區ニ分チ部版刊行區域ヲ第一區ト定ム	水路部條例ヲ制定公布セラレ水路部ト改稱、部長ハ海軍參謀本部長ニ隸ス	柳部長職ヲ退キ元老院議官ニ任ジ測量科長肝付大佐其ノ後ヲ襲フ	觀象事業中天象觀測ハ文部省ニ、氣象觀測ハ内務省ニ移管ス

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一一二二	一一一〇	五	一一一六	八一二八	二一五	二一五	二一五	二一五	二一五	二一五
四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一
大正二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

部

坂本 一	同	中尾 雄	同	伊藤乙次郎	同	川島令次郎	同
「明治四十年航海年表」ヲ發行ス、之同表ノ創刊ナリ	樺太測量ニ着手ス、之ヲ當部ニ於ケル同島測量ノ嚆矢トス	無線電信利用ニ依ル經度測量ノ調査ニ着手ス	氣象調査掛主任ヲ設ケ海上氣象海潮流等ノ調査ニ任ゼシム	築地新廳舎竣工シ之ニ移轉ス	第一回全國磁氣測量ニ着手ス	當部所掌事項中測器關係ヲ削除シ測器科ヲ廢止セラル	

明治二七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六一二七	九一二八	六一	三三〇	三一三〇	三一三	三一三	三一三	三一三	三一三	三一三
三九	三八	三七	三五	三三	三一	三一	三一	三一	三一	三一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

水

路

水路部長 兼行 肝付	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
芝山内舊海軍醫學校跡ニ移轉ス	當部刊行水路圖誌ハ日本郵船株式會社ヲシテ販賣セシムルコトニ改ム、此ノ月新版圖ニ歸セシ臺灣島ノ測量ヲ開始ス	水路部條例ヲ改正、部長ハ海軍大臣ニ隸ス	海軍高等武官補充條例ヲ改正、同條例中ニ海軍水路少技士候補生ヲ加ヘラル	測器科ヲ再置セラル	「オールダン」式彫刻器械ヲ採用ス	假用海圖(後雜用海圖ト改稱)ノ發行ヲ始ム	航海曆編纂方取調委員ノ任命アリ編曆事業其ノ緒ニ就ク				
松本 和	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

同	同	同	同	同	同	同	同	大正
五			四				三	二二一
四一	二二一三	六一	一	二二一	一〇	七一九	四一	一

水路

同 釜屋 六郎	同 上村 經吉	水路部長 江口 鱗六
部版圖誌發行區域ヲ第二區ニ擴張ス	本邦基準經度確定ノ資ニ供スル目的ヲ以テ東京「グアム」間ノ經度測量ヲ實施ス 海圖原版ニ亞鉛版ヲ採用ス	雜用海圖ノ販賣ヲ川流堂（小林又七）ニ許可ス 處務規程ヲ改正、部内各廳ヨリノ委託作業ヲ開始ス 戰局ノ發展ニ伴ヒ部版刊行海圖區域ノ擴張ヲ計畫スルト共ニ特種海圖ヲ刊行シテ急需ニ應ズ

同	同	同	同	同	同	同	同
		八	七		六		
一一一九	六一	四一	九一九	一〇一三〇	二二二	九	一一一

部

同 布目 滿造	東京浦鹽斯德間ノ經度測量ヲ完了ス
本月千島方面測量ノ終了ヲ以テ我が國領土沿岸ノ測量ハ一先ヅ完結ス	水路部從業員共濟會設立
東京天文臺經度ヲ東經一三九度四分四〇秒九ト改メラル、此ノ値ハ曩ニ當部ニ於テ施行セル東京「グアム」間及東京浦鹽斯德間經度電測ノ結果ニ依ル	當部條例中ヲ改正シ新ニ編曆科ヲ置カル
本月透寫式製版法完成ス	本會計年度ヨリ部版圖誌ノ販賣ヲ日本船主協會ニ許可ス
倫敦ニ於テ第一回國際水路會議開催セラレ我が代表之ニ參列ス	翻譯水路誌ニ横書體ヲ採用ス

同	同	同	同	同	同	大正
九一	八一	六一	一一	一〇	一〇	九一〇一
一	二	一	二五	六	一	一

水路

水路部長
犬塚助次郎

水路部令ヲ制定、當部從來ノ分科ヲ改メテ第一第二第三第四及會計ノ五課ニ分チ別ニ副官ヲ置カル

部版水路圖誌ニ米單位ヲ採用ス（當分ノ間尋式米式兩者混用シ得ルコトニ決裁アリ）

國際水路局成立シ之ニ加盟ス

海圖經緯度ハ主トシテ測地經緯度ニ依ルコトニ方針ヲ定ム

第二回全國磁氣測量ニ着手ス

當部刊行圖誌類ノ記註ニ用フル羅馬字ハ爾今日本式綴方ニ改ム

水路要報ヲ創刊ス

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一〇	一五	二二	一〇	一四	二二	三一	一三	九一	一二
一	一	一	二	一	五	六	一	一	一

部

同 内田虎三郎	同 植村信男	同 米村末喜
關東大震災火災ニ因リ附屬建物ノ一部ヲ除キ殆ド全部燒失ス	東京海軍無線電信所ヨリ緊急水路告示ノ放送ヲ開始ス	假建築ニ於テ作業復興式ヲ舉行ス
海流通報ノ發行ヲ開始ス	當部副官官舎設置方正式ニ決定ス	緊急水路告示ノ一般無線放送ヲ開始ス
		「モナコ」ニ於テ第二回國際水路會議開催セラレ我が代表ヲ派遣ス

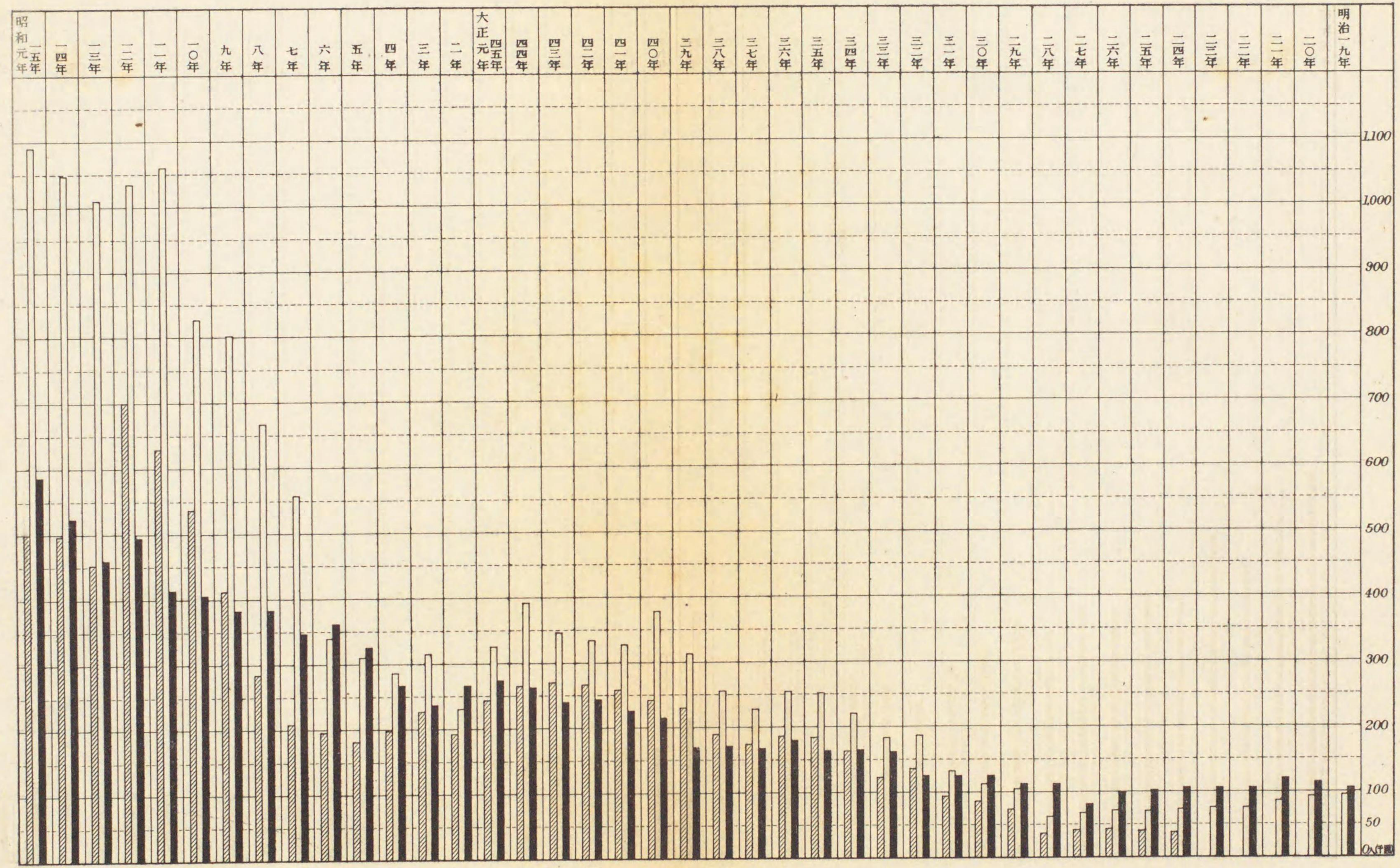
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

附表第二

人員經費累年比較

自明治十九年至昭和元年
總人員(三月末日又八月三十一日)
支出經費總額
水路費支出總額



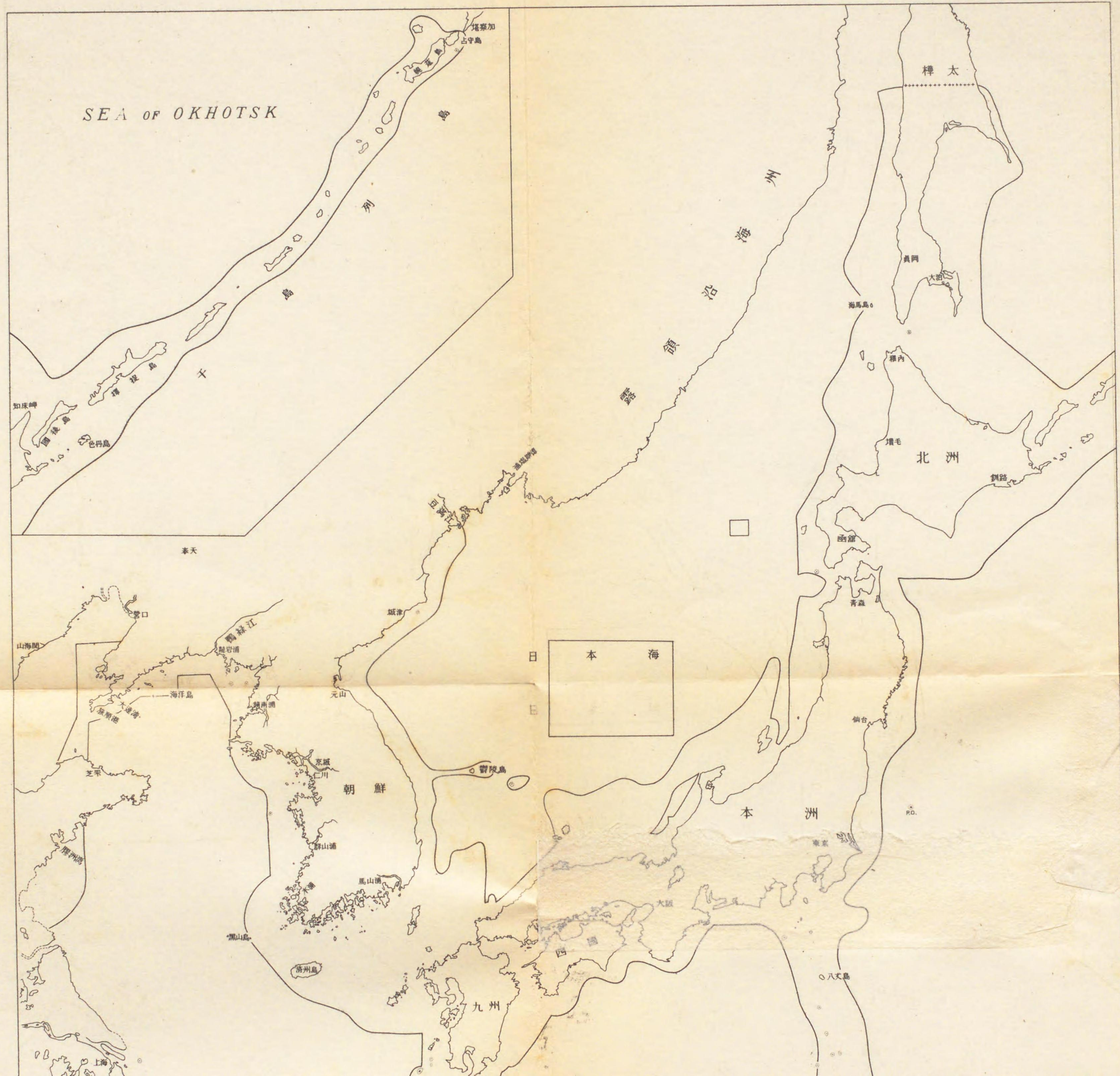
附表第三

測量、圖誌作業累年比較
自明治十九年至大正十五年(昭和元年)

年 度	測 量		海 圖 刊 行			水 路 告 示 件 數 總 計	拂 下 圖 誌	
	海 岸 線 (哩)	海 面 積 (平哩)	版 數	刊 行 數	廢 版 數		海 (枚)	圖 誌 (冊)
明治一九	九四三	一、一五七	二六	一〇	一〇	一四四	一、二〇四	一八〇
二〇	九三〇	二、七二一	二〇	〇	〇	一一一	一、九七三	二五三
二一	一、一七九	二、二四〇	二一	一	一	一八五	一、七二八	一一六
二二	八〇二	二、六一九	一九	一	一	一〇三	一、五三二	四七
二三	七九五	三、五三八	二四	四五	一五	一〇四	一、六三八	三七
二四	一、二九八	三、八五六	二七	二四	二四	一〇三	二、〇〇四	一一五
二五	六〇二	五、四二五	三三	三八	二八	一三七	二、六四〇	一四八
二六	九二九	二、三三四	三九	二八	二八	四一〇	四、八七五	三一七
二七	七〇六	一、七〇三	九一	一九	一九	四一〇	一、三六九	二九六
二八	一、九二二	二、七三四	四五	二七	二七	三三七	一、七六九二	七五五
二九	一、一二八	二、七三一	二一	一八	一八	三六二	一、八四九	一、〇〇四
三〇	一、四二四	三、五一四	二七	二二	二二	三八五	一、五七二六	九九三

昭和	元五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四
八三〇	五九七	三三二	七七六	一〇七一	一、二三五	一、七四二	一、六三八	九五五	八四九	一、二七九	一、七〇三	六、九六二
一三、五〇八一〇	八、三五九三四一	二〇、一五四一一三一	一二、二〇九六二	六〇、八四三二〇五	四一、三一三三三九	二六、六七六一三八	二二、四〇八二三九	四三、〇四三一八七	七、八三七三二〇	三七、一八三一五五	六、九六二六三五	九三二、七三六
一〇六一、五八七一	一五七一、五八三一	一〇二六、一三九九	四四二、三一二	一八二二、二九四	二二二、二七二	八五二、二六四	一〇〇二、二一一	六一二、〇七二	一〇八一、九四六	一五七一、七三四	九三二、七三六	六三、五八六
一、五〇八一	一、三五五一	八四四	八五一	七九二	六三五	六四三	五八三	八一九	七六九	七七三	六三八	六三、五八六
一一四、九四九	九六、三五二	一〇九、六二八	八七、七四五	六一、三〇一	四八、〇三六	一一三、九九二	一一一、二〇六	三七八、四九四	一〇八、〇四一	一一七、〇三〇	六三、五八六	四、三四五
一九、二六〇	一四、六七〇	一五、〇三〇	一二、三九五	七、五六〇	八、〇九〇	一五、九三〇	一二、〇七六	一四、二九八	一〇、五五九	七、七九五	四、三四五	七、七九五

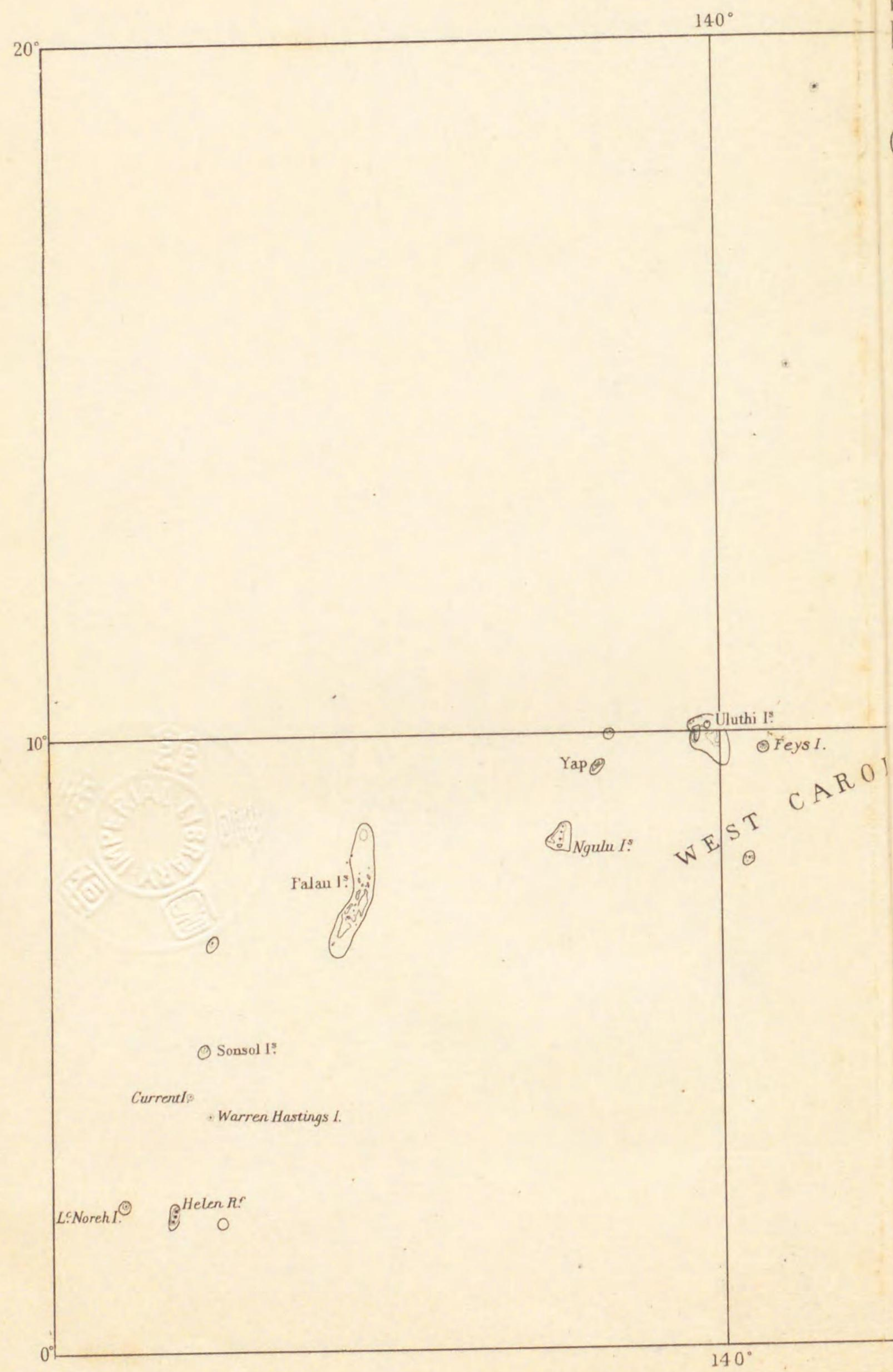
大正	元五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一
一、〇九三	五〇九	一、五一七	一、四〇四	七四五	九八八	一、〇七八	八一二	一、二四六	七〇九	一、五一七	一、七四六	二、〇三四	一、四九二	一、四二〇	一、五八一
七、八〇一五七二	一七、六四〇七二	六、五九三八一	一四、八一三七	七、七二〇九一	八、七四一二三〇	六、九七五九九	七、一〇八一三三	六、四五四九八	二、二九八二三四	八、〇七五一〇二	九、一八二七三	七、七四四六〇	四、八九九六三	五、四六四五二	五、五八九三〇
九五二、一九四	七五、七二〇	六八、七一五	五九、七一二	八〇、七〇一	一一二、六九〇	七一、六七二	一〇一、六四四	九〇、六一二	一一〇、六〇四	五一、四八〇	三〇、四二九	二九、三八六	三九、三五五	三二、三三一	二二、三一
四九〇	五二三	一、〇二一	一、五五七	一、七〇二	一、七二三	一、三一〇	七八八	九六〇	六四六	六七三	五七二	五二八	五〇六	四五二	四二二
五七、〇二〇	六〇、八四五	五八、五七一	五四、二九八	四三、七八七	三五、一七〇	五〇、八〇七	四八、三八六	五三、八三九	六〇、三八八	三三、五八〇	一五、九五九	二〇、八四〇	一七、六九二	一六、六八〇	一六、一三二
三、二〇〇	三、五四一	二、〇九五	二、五三〇	二、三五七	三、六一五	三、三六〇	三、〇三〇	五六〇	九〇〇	三二六	一、一六四	二、二〇四	七五五	六一六	九〇三



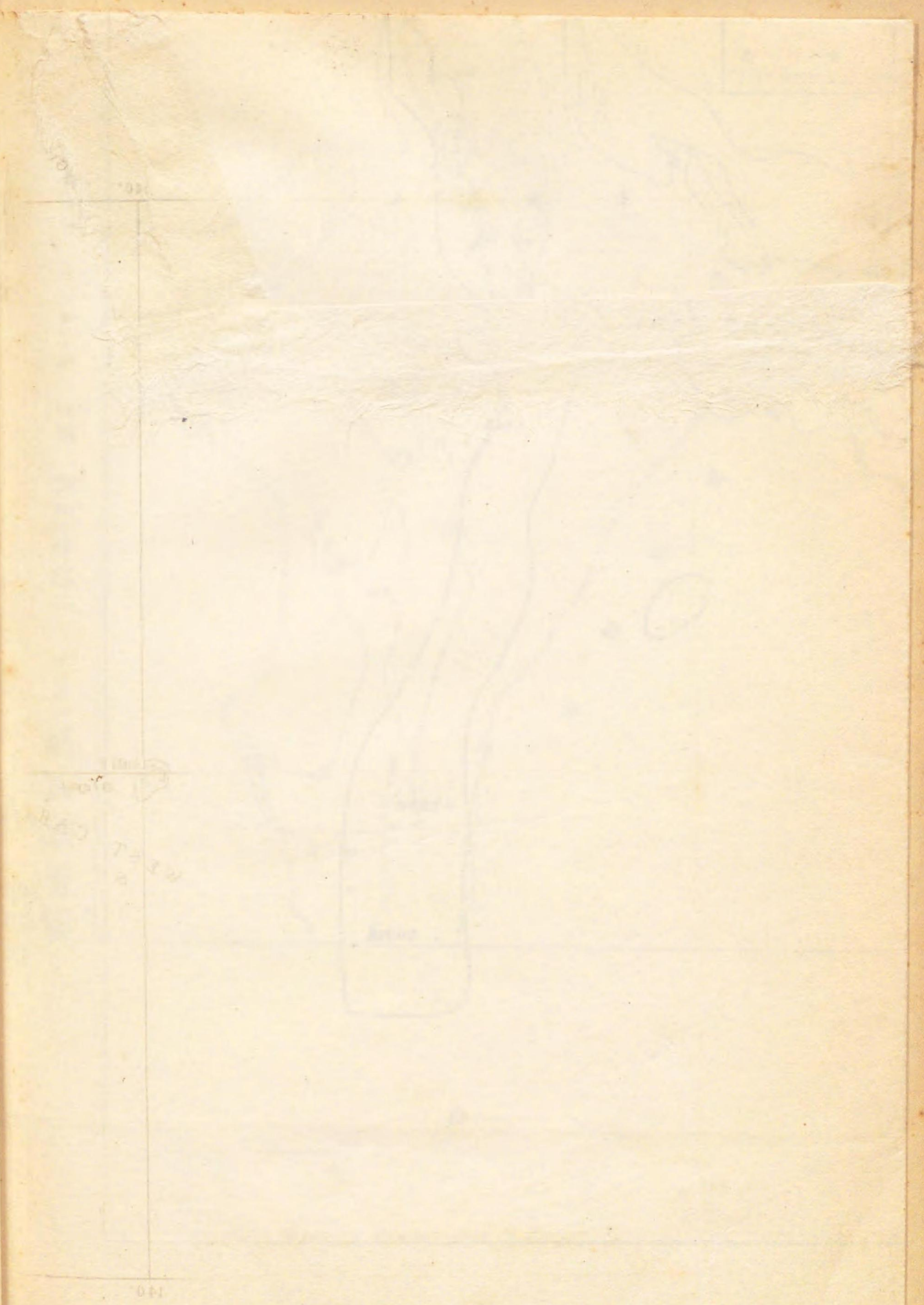
附圖第一 (4)
 測量區域圖 (其ノ一) 日本沿岸 昭和二年三月三十一日現在



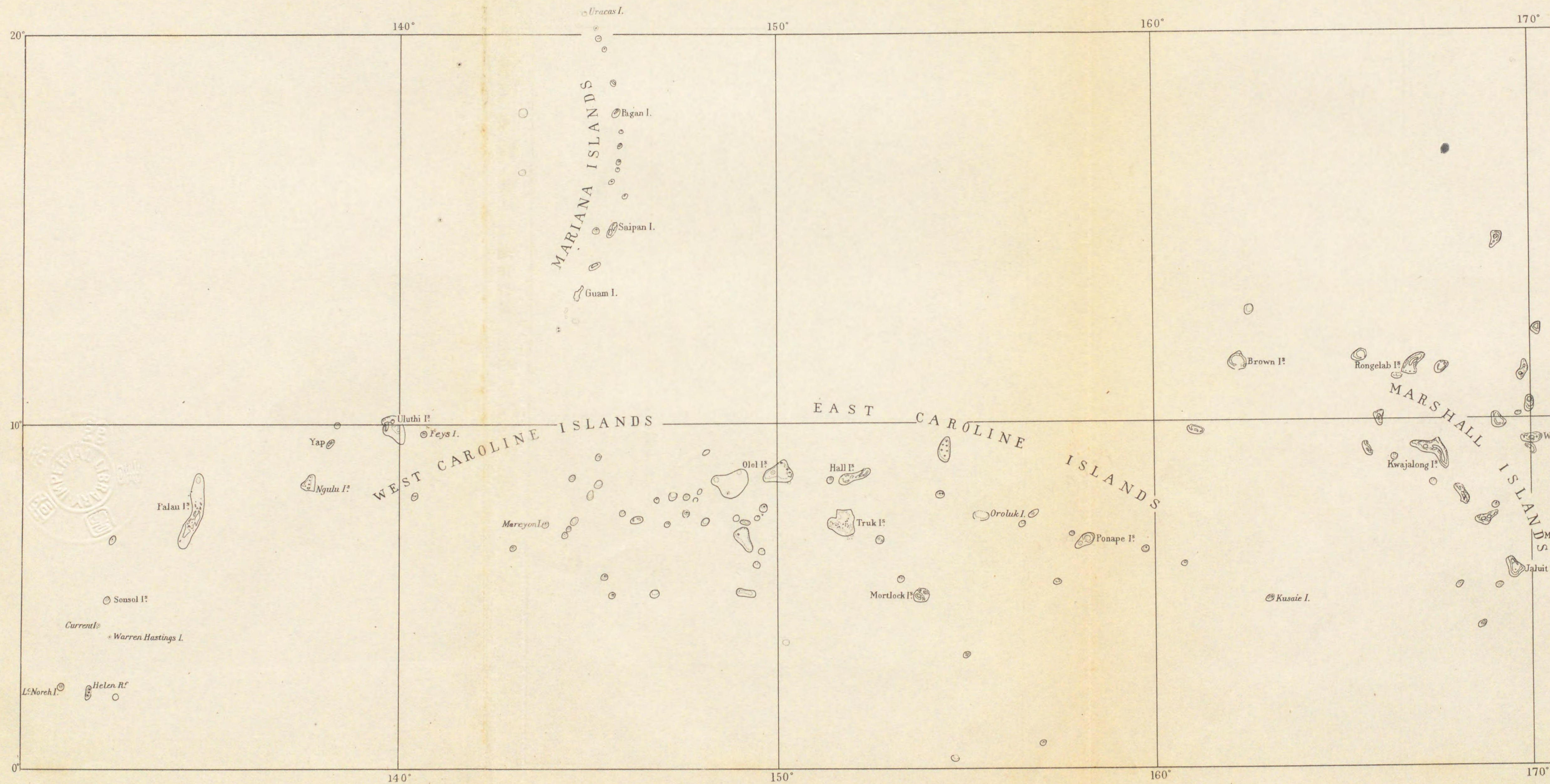
Vertical text on the right edge of the page, likely a list of place names or a legend, written in traditional Chinese characters. The text is partially obscured and difficult to read due to the image quality and the page's condition.



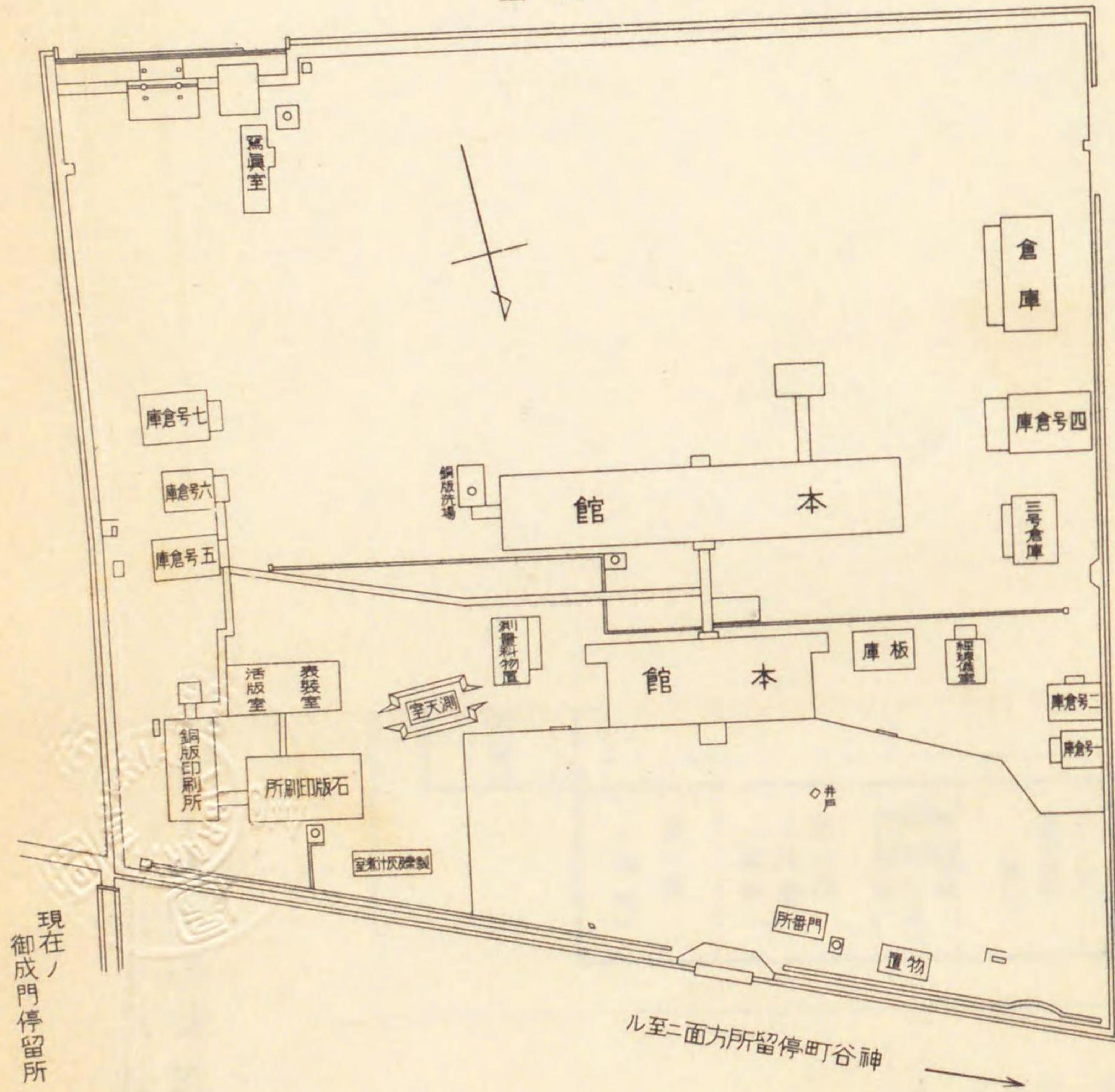
附圖第一 (口





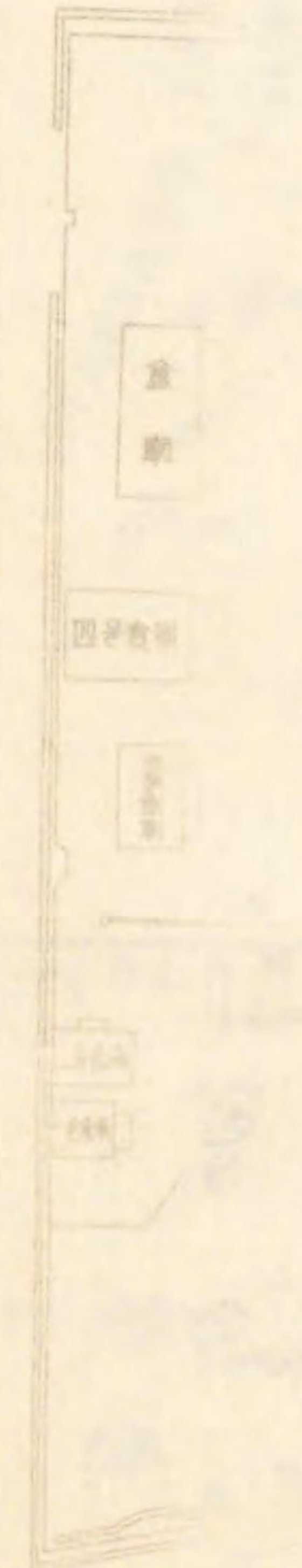


増上寺方面

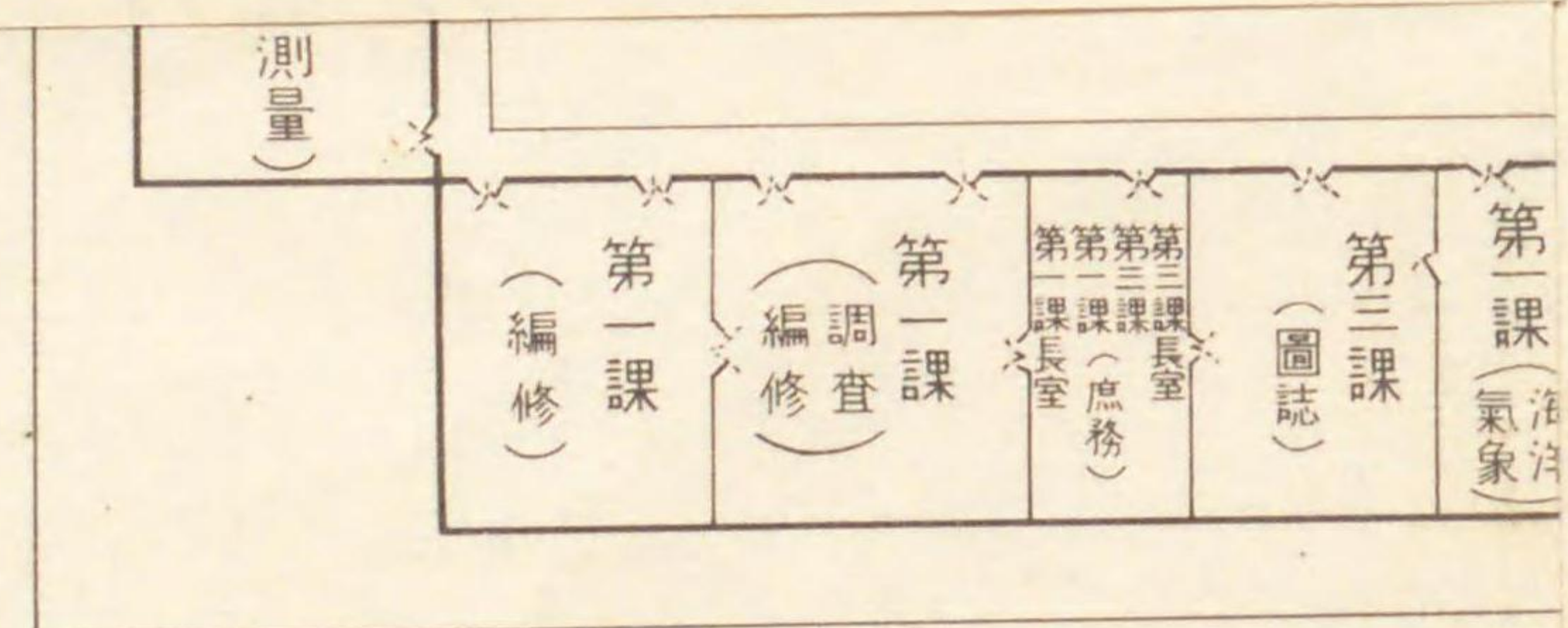


附圖第二
明治二十九年水路部構内圖

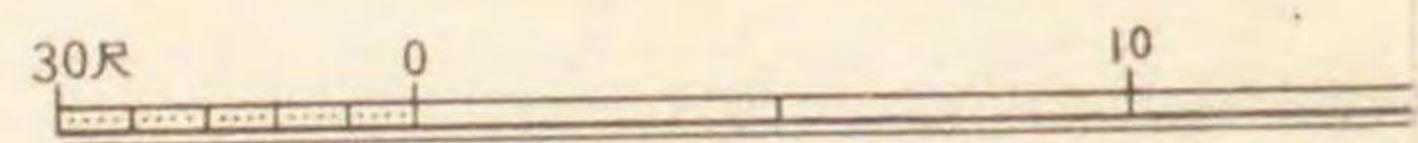
明治二十九年水路部構内圖



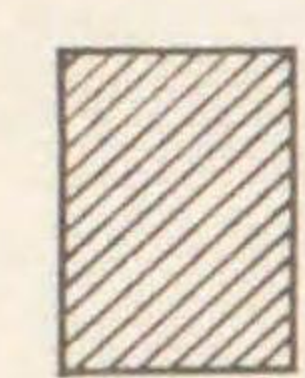
構內總坪數約
六千八百七十坪



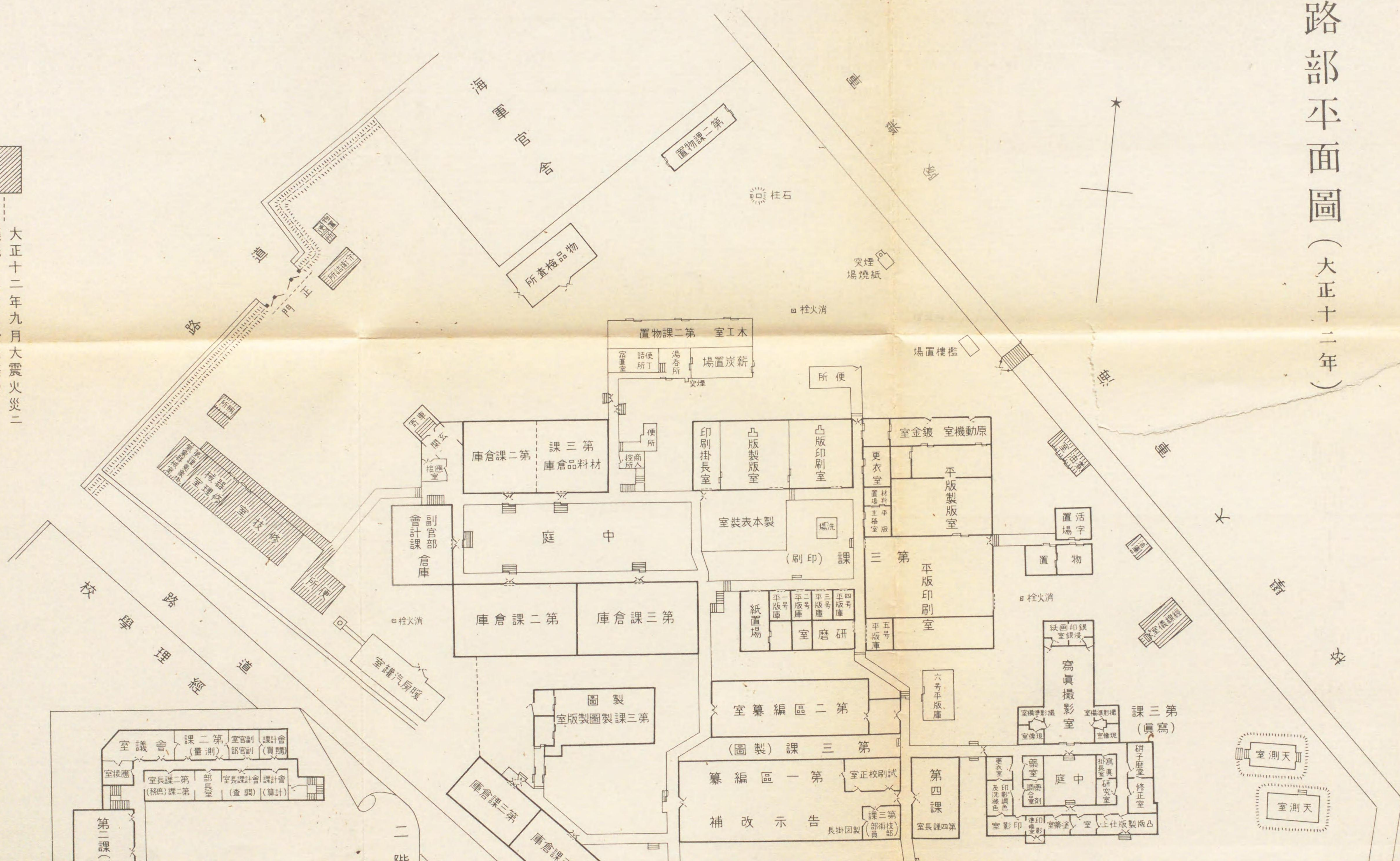
一ノ分百



水路部平面圖（大正十二年）



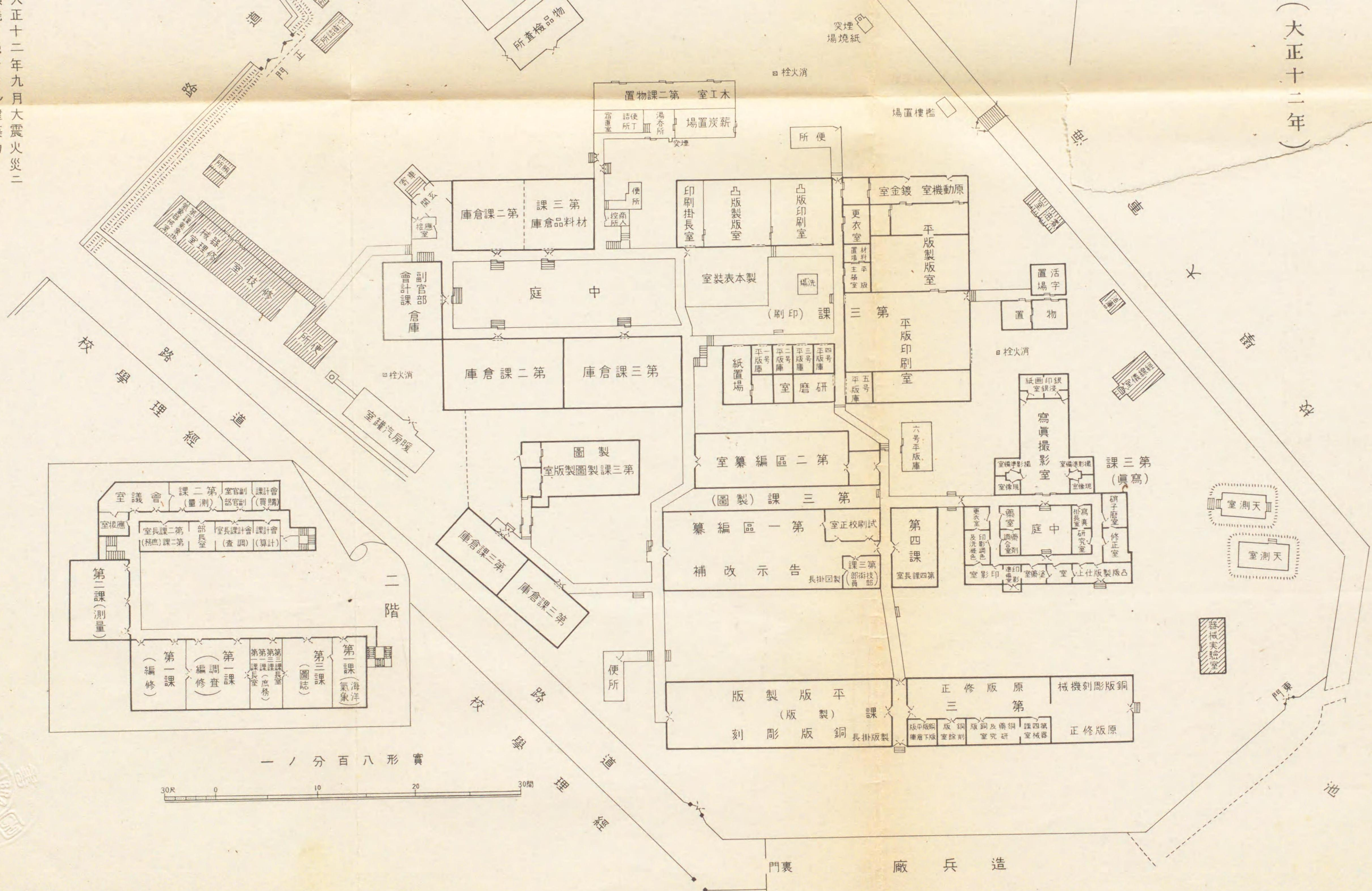
大正十二年九月大震災二
類焼ヲ免レタル建築物



室測天
室測天

(大正十二年)

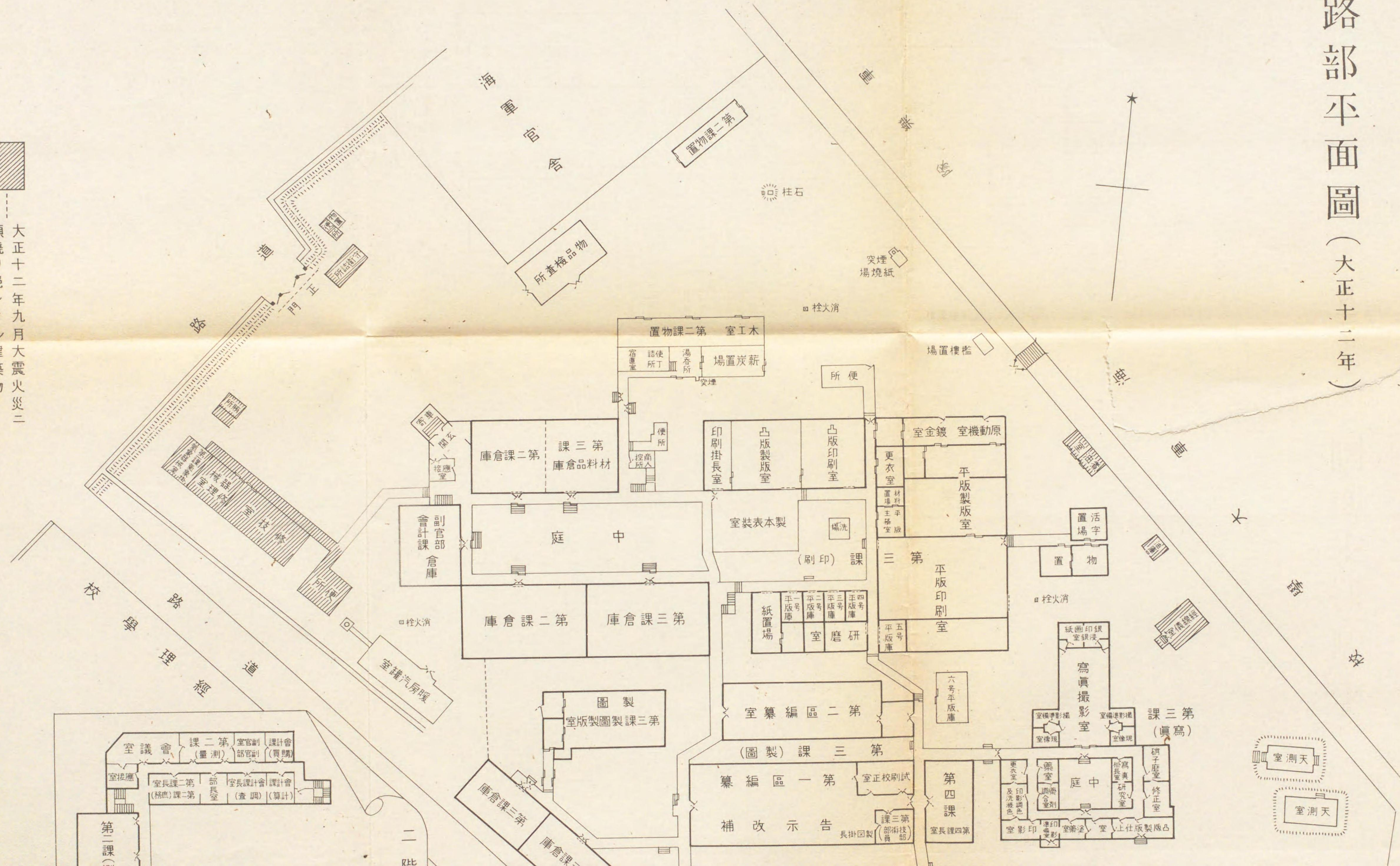
大正十二年九月大震災火災二
燒ヲ免レタル建築物



構内總坪數約
六千八百七十坪

水路部平面圖（大正十二年）

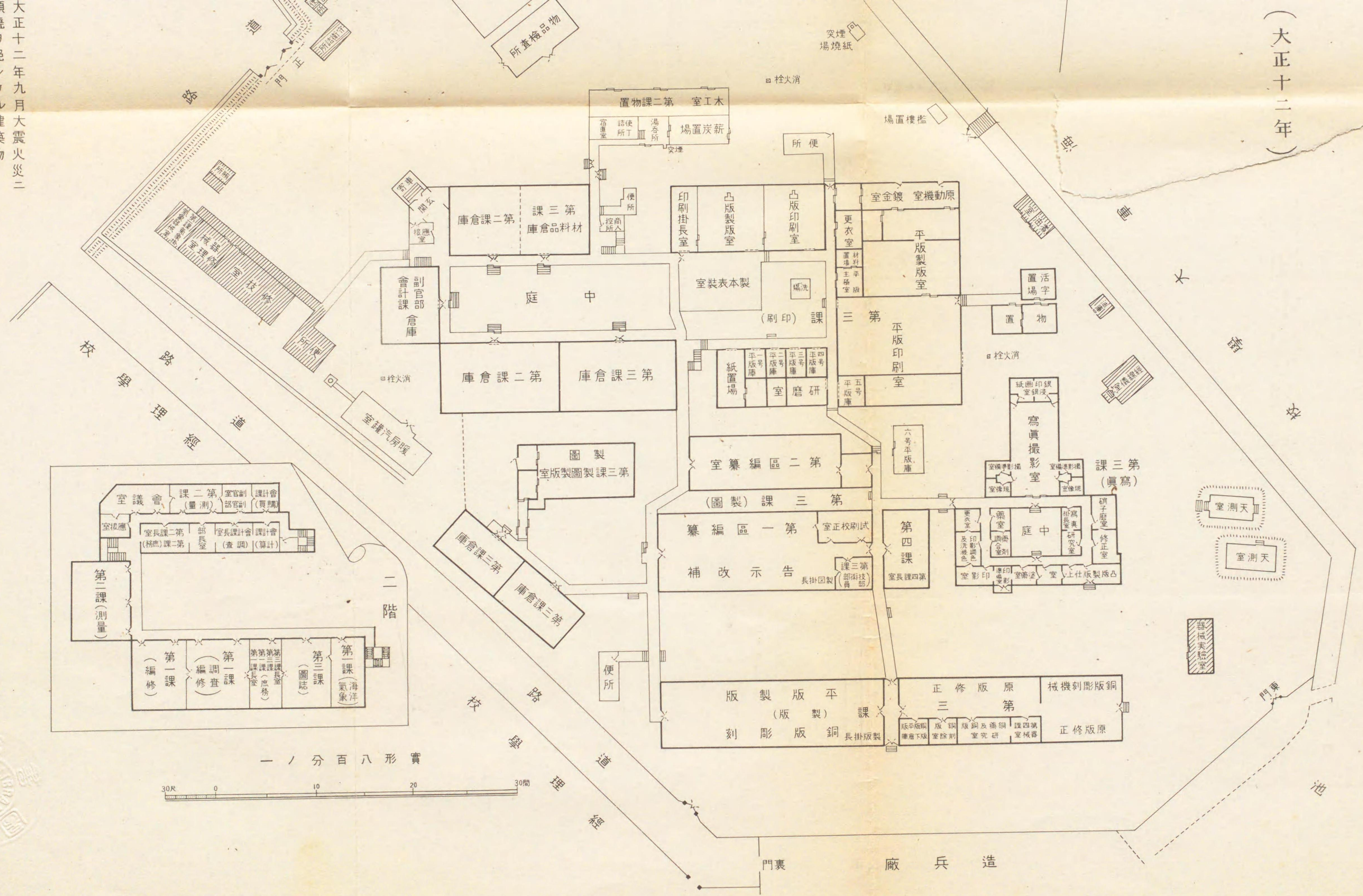
大正十二年九月大震火災二類燒う免レタル建築物



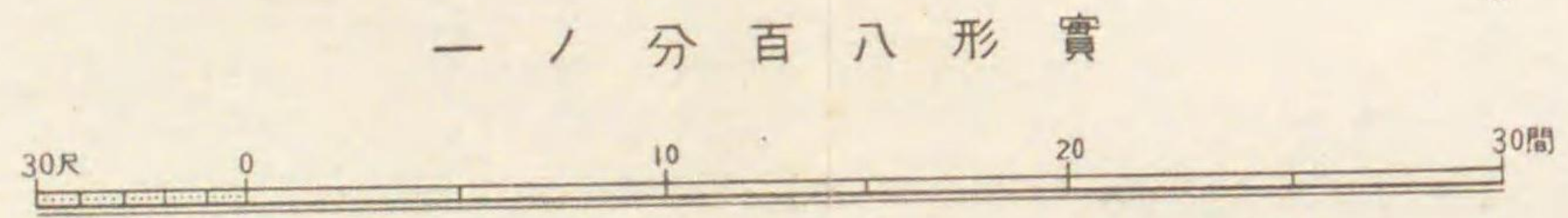
室測天
室測天

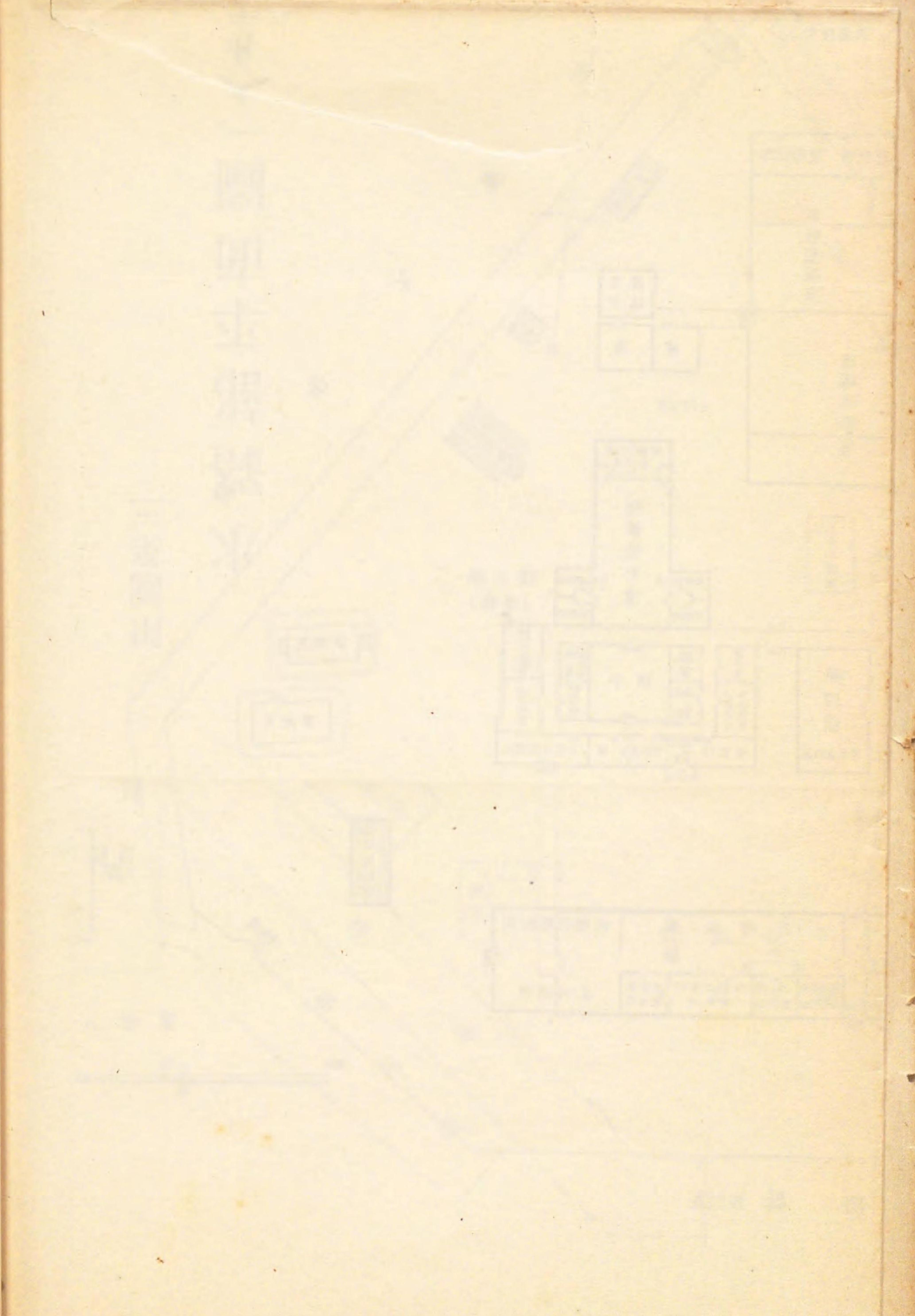
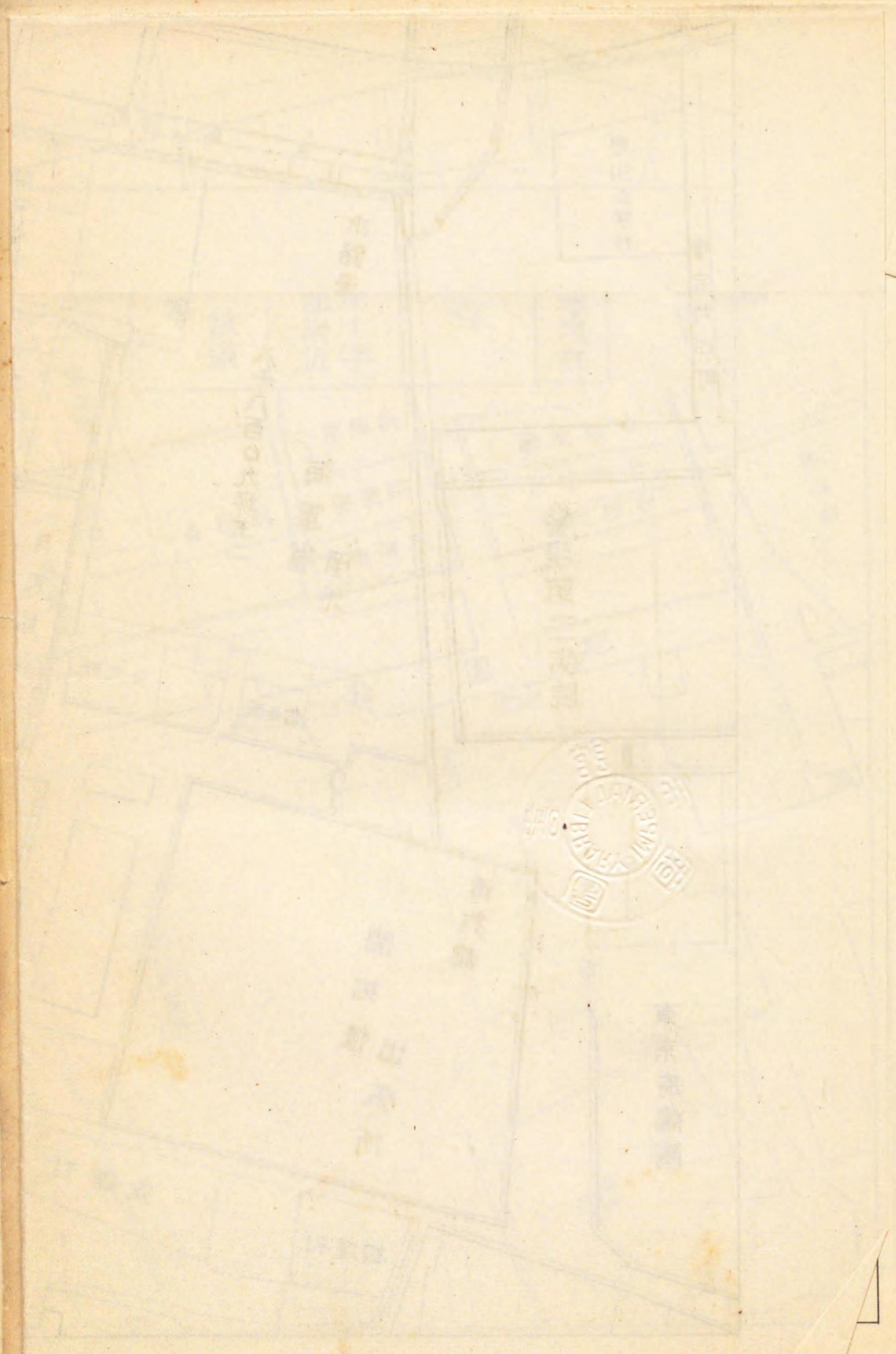
(大正十二年)

大正十二年九月大震火災二
類燒ヲ免レタル建築物



構内總坪數約
六千八百七十坪



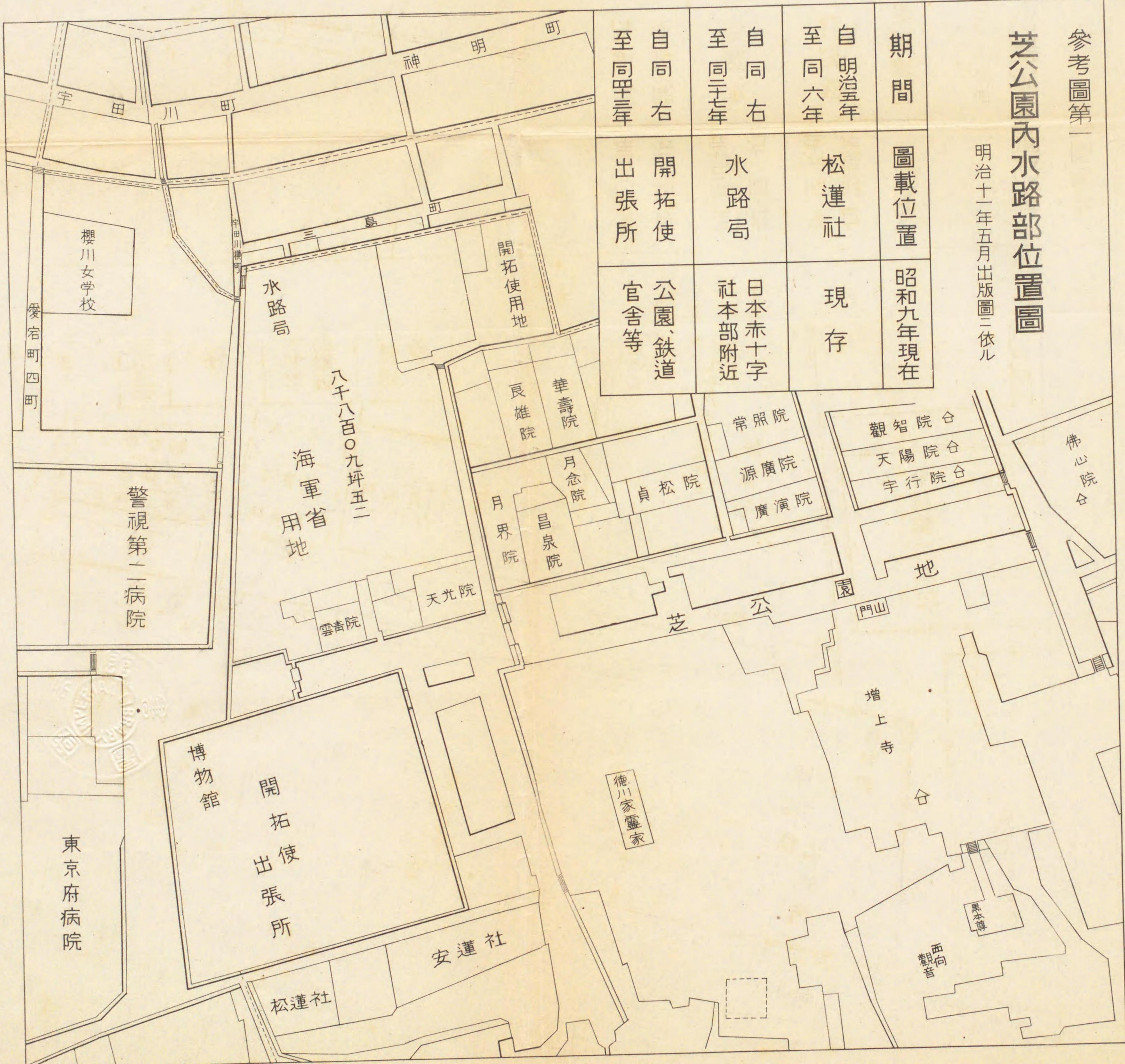


參考圖第一

芝公園内水路部位置圖

明治十二年五月出版圖二依ル

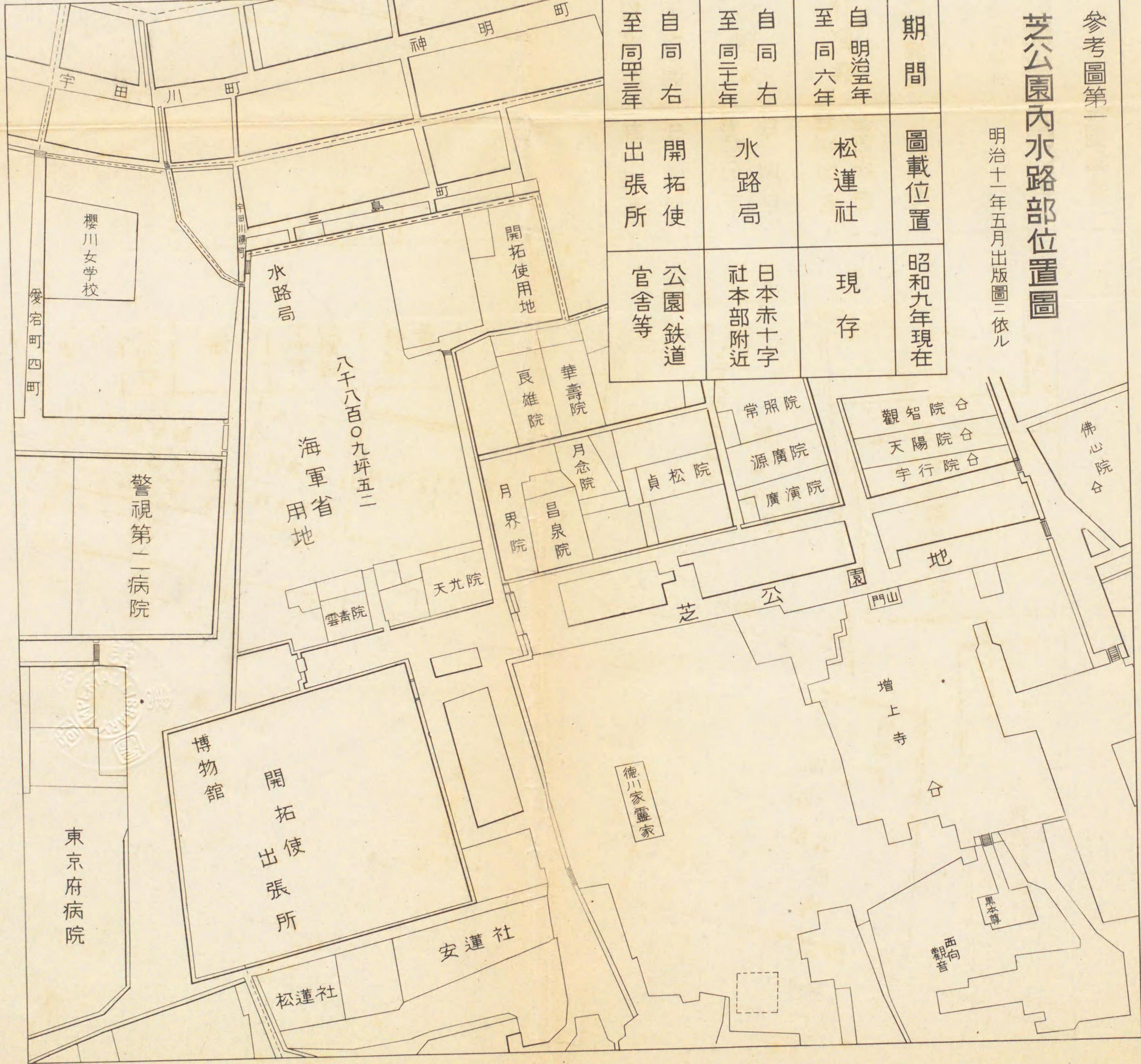
期間	自明治五年至同六年	自同右至同七年	自同右至同甲午年
圖載位置	松蓮社	水路局	出張所
昭和九年現在	現存	日本赤十字社本部附近	公園、鐵道官舎等



芝公園内水路部位置圖

明治十一年五月出版圖二依儿

期間	圖載位置	昭和九年現在
自明治五年 至同六年	松蓮社	現存
自同右 至同七年	水路局	日本赤十字 社本部附近
自同右 至同甲午	開拓使 出張所	公園、鐵道 官舎等



参考圖第二
嘉永年間ニ於ケル築地

